こども学科

1）教養科目

日本の憲法　長沼　秀明 …… 1
文章表現法　三浦　正雄 …… 3
英語コミュニケーション　大山　健一 …… 5
情報機器演習　江頭　幸代 …… 7
生涯スポーツⅠ　小山内弘和 …… 9
生涯スポーツⅡ　小山内弘和 …… 11
知の技術　長沼,関根,岩崎, 小林, 大多和, 鈴木, 宮本 …… 13

2）専門科目

国語（書写を含む）　佐内　信之 …… 15
社会　長沼　秀明 …… 17
算数　杉野　裕子 …… 19
理科　長友　大幸 …… 21
生活　齋藤　澄子 …… 23
音楽Ⅰ　齊藤, 一村, 佐藤(千), 佐藤(良), 鈴木, 須田, 舘岡, 山口(亜)…… 25
音楽Ⅱ　宮澤, 一村, 佐藤(千), 佐藤(良), 鈴木, 須田, 舘岡, 山口(亜)…… 27
音楽Ⅲ　宮澤, 佐藤(良), 舘岡, 松山, 山口(茜), 山口(亜)…… 29
音楽Ⅳ　齊藤　淳子・宮澤多英子 …… 31
図画工作　木谷　安憲 …… 33
家庭　佐藤　真弓 …… 35
体育　宮本　雄司 …… 37
児童英語　大山　健一 …… 39
教職・保育概論(教育制度等を含む)　小林　佳美 …… 41
教育原理　大多和雅絵 …… 43
教育心理学　鈴木　洋介 …… 45
保育・教育課程論　大多和雅絵 …… 47
発達心理学　鈴木　洋介 …… 49
保育内容総論　小林　佳美 …… 51
保育内容（健康）　宮本　雄司 …… 53
保育内容（人間関係）　岩崎　桂子 …… 55
保育内容（環境）　伊藤　能之 …… 57
保育内容（言葉）　佐々木美和 …… 59
保育内容（表現・音楽）　齊藤　淳子 …… 61
保育内容（表現・造形）Ⅰ　木谷　安憲 …… 63
保育内容（表現・造形）Ⅱ　佐藤　牧子 …… 65
子どもと健康　小山内弘和・宮本　雄司 …… 67
子どもと人間関係　岩崎　桂子 …… 69
子どもと言葉　佐々木美和 …… 71
子どもと表現　木谷安憲・齊藤淳子・宮澤多英子…… 73
子どもと環境　伊藤　能之 …… 75
初等教科教育法（国語）　佐内　信之 …… 77
初等教科教育法（社会）　長沼　秀明 …… 79
初等教科教育法（算数）　杉野　裕子 …… 81
初等教科教育法（理科）　長友　大幸 …… 83
初等教科教育法（生活）　齋藤　澄子 …… 85
初等教科教育法（音楽）　齊藤　淳子 …… 87
初等教科教育法（図画工作）　木谷　安憲 …… 89
初等教科教育法（家庭）　佐藤　真弓 …… 91
初等教科教育法（体育）　小山内弘和 …… 93
初等教科教育法（英語）　大山　健一 …… 95
道徳の指導法　長沼　秀明 …… 97
特別活動の指導法　長沼　秀明 …… 99
教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)　大島真里子 …… 101
ICT 活用の理論と方法　織戸　恒男 …… 103

生徒・進路指導の理論と方法　長沼　秀明 …… 105
教育相談の理論と方法　木村　能成 …… 107
児童文化　佐々木美和 …… 109
子どもの理解と実践　鈴木　洋介 …… 111
児童文学　佐々木美和 …… 113
社会福祉論　西内　俊朗 …… 115
子育て支援　佐藤　晃子 …… 117
子ども家庭支援の心理学　後藤　沙希 …… 119
子ども家庭福祉　佐藤　晃子 …… 121
社会的養護Ⅰ　西内　俊朗 …… 123
社会的養護Ⅱ　西内　俊朗 …… 125
保育原理　川喜田昌代 …… 127
子どもの保健　熊坂　隆行 …… 129
子どもの健康と安全　熊坂　隆行 …… 131
子どもの食と栄養Ⅰ　高尾　　優 …… 133
子どもの食と栄養Ⅱ　中西由季子 …… 135
乳児保育Ⅰ　関根　久美 …… 137
乳児保育Ⅱ　関根　久美 …… 139
特別支援論Ⅰ(対象理解)　井上　昌士 …… 141
特別支援論Ⅱ(乳・幼児への支援方法)　井上　昌士 …… 143
特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)　井上　昌士 …… 145
地域子育て支援論　佐藤　晃子 …… 147
子ども家庭支援論　佐藤　晃子 …… 149
在宅保育　関根　久美 …… 151
栽培　橋本　敏幸 …… 153
演劇　伊東　弘美 …… 155
教育実習指導（事前事後）（幼稚園）　木谷, 関根, 佐々木, 小林, 大多和 …… 157
教育実習Ⅰ（幼稚園）　こども学科専任教員 …… 159
教育実習Ⅱ幼稚園）　こども学科専任教員 …… 161
教育実習指導（事前事後）（小学校）　長沼　秀明,大多和雅絵,鈴木　洋介 …… 163
教育実習Ⅰ（小学校）　こども学科専任教員 …… 165
教育実習Ⅱ（小学校）　こども学科専任教員 …… 167
保育実習指導Ⅰ（事前事後）　宮澤, 岩崎, 小林, 西内, 大多和, 宮本 …… 169
保育実習指導Ⅱ（事前事後）　井上, 小山内, 齊藤, 佐藤, 大多和 …… 171
保育実習Ⅰ（保育所）　こども学科専任教員 …… 173
保育実習Ⅱ（施設）　こども学科専任教員 …… 175
保育実習指導Ⅲ・Ⅳ（事前事後）　井上, 佐藤, 宮澤, 岩崎, 小林, 西内 …… 177
保育実習Ⅲ（保育所）　こども学科専任教員 …… 179
保育実習Ⅳ（施設）　こども学科専任教員 …… 181
保育・教職実践演習（幼・小）　長沼, 関根, 佐藤, 岩崎, 小林, 西内, 大多和, 鈴木, 宮本 …… 183

3）ゼミ

保育・教育学演習Ⅰ　長沼　秀明 …… 185
保育・教育学演習Ⅰ　木谷　安憲 …… 187
保育・教育学演習Ⅰ　井上　昌士 …… 189
保育・教育学演習Ⅰ　小山内弘和 …… 191
保育・教育学演習Ⅰ　関根　久美 …… 193
保育・教育学演習Ⅰ　齊藤　淳子 …… 195
保育・教育学演習Ⅰ　佐々木美和 …… 197
保育・教育学演習Ⅰ　佐藤　晃子 …… 199
保育・教育学演習Ⅰ　岩崎　桂子 …… 201
保育・教育学演習Ⅰ　宮澤多英子 …… 203
保育・教育学演習Ⅰ　小林　佳美 …… 205
保育・教育学演習Ⅰ　西内　俊朗 …… 207
保育・教育学演習Ⅰ　大多和雅絵 …… 209
保育・教育学演習Ⅰ　鈴木　洋介 …… 211
保育・教育学演習Ⅰ　宮本　雄司 …… 213

保育・教育学演習Ⅱ　長沼　秀明 …… 215
保育・教育学演習Ⅱ　木谷　安憲 …… 217
保育・教育学演習Ⅱ　井上　昌士 …… 219
保育・教育学演習Ⅱ　小山内弘和 …… 221
保育・教育学演習Ⅱ　関根　久美 …… 223
保育・教育学演習Ⅱ　齊藤　淳子 …… 225
保育・教育学演習Ⅱ　佐々木美和 …… 227
保育・教育学演習Ⅱ　佐藤　晃子 …… 229
保育・教育学演習Ⅱ　岩崎　桂子 …… 231
保育・教育学演習Ⅱ　宮澤多英子 …… 233
保育・教育学演習Ⅱ　小林　佳美 …… 235
保育・教育学演習Ⅱ　大多和雅絵 …… 237

4）自由選択科目

文学　柴田　勝二 …… 239
文化論　平澤　純子 …… 241
環境論　小島　望 …… 243
経営学　吉沢　正広 …… 245
民法　長　友昭 …… 247
心理学　伊澤　利文 …… 249
メンタルケア　蓮井千恵子 …… 251
臨床心理学　蓮井千恵子 …… 253

日本の憲法　～子どもたちを守るために憲法を学ぼう～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	必修	必修	選択

授 業 概 要

この科目は教育職員免許法施行規則（文部科学省令）が定める教員免許状取得のための必修科目です。授業では、憲法の重要な論点を講義します。また、教育現場をはじめとする身近な話題の中に、どんな憲法問題が潜んでいるのかを討論も交えて皆で検討します。また、「それでも生きる子供たちへ」という外国映画を観て、世界の子どもたちが直面する問題へも目を向けます。

今の日本社会に生きる子どもたちがどのような問題を抱えているのか、そして教師は子どもたちをどのように導き、守り抜いていくべきかを共に考えます。

授　業　計　画

授業回	授業内容
第 1 回	なぜ憲法を学ぶのか
第 2 回	日本国憲法第１３条（その１）：個人の尊厳
第 3 回	日本国憲法第１３条（その２）：公共の福祉
第 4 回	自由権：思想・良心の自由、表現の自由、学問の自由、経済的自由
第 5 回	日本国憲法第２５条：不安なく生きる権利
第 6 回	日本国憲法第２６条：教育を受ける権利
第 7 回	身近な話題の中の憲法問題（その１）
第 8 回	映画で学ぶ憲法（その１）
第 9 回	身近な話題の中の憲法問題（その２）
第 10 回	映画で学ぶ憲法（その２）
第 11 回	国を治める仕組み：象徴天皇・国民主権、国会・内閣・裁判所、地方自治
第 12 回	平和主義―国を守るということ―
第 13 回	身近な話題の中の憲法問題（その３）
第 14 回	映画で学ぶ憲法（その３）
第 15 回	まとめ―保育・教育と憲法―

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、授業内容に関する質問票を作成・提出してもらいます。詳細は授業で指示します。
遅刻３回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないようにしてください。

到 達 目 標

日本国憲法を深く理解し、学んだことを教育現場で活かす準備ができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『保育と日本国憲法』（シリーズ 保育と現代社会）
・著 者 名：橋本勇人編、長沼秀明ほか著
・出版社名：株式会社みらい
・出 版 年（ISBN）：2018 年

文章表現法　～高等学校国語表現法の復習と論文～	三浦　正雄

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	－	選択

授業概要

レポートや論文の書き方を指導します。授業担当者が過去に中学・高校の教員であった実績を生かして、慣用句・表記・品詞の使い方・表現技術など文章を書くための基礎から文の作成をへて、段落構成・導入・実例のあげ方・結論といった文章全体の組み立て、文章の流れ、そして文章のマナーや読み手に伝わる書き方に至るまで、文章を書くための様々な知識や技術について指導します。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導します。

くわえて実習関連文書の書き方についても、指導します。

教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、こどもの学生の受講が望ましいです。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	書くこと①－国語表記の基準、適切な表現（高等学校国語の復習）
第 2 回	書くこと②－修辞法（高等学校国語の復習）
第 3 回	書くこと③－待遇（敬語）表現・文末表現（高等学校国語の復習）
第 4 回	書くこと④－推敲、一文を書く（高等学校国語の復習）
第 5 回	書くこと⑤－一文を書く、文と文をつなぐ（高等学校国語の復習）
第 6 回	書くこと⑥－主題文をつくる（高等学校国語の復習）
第 7 回	書くこと⑦－材料を集める（高等学校国語の復習）
第 8 回	書くこと⑧－構成を考える（高等学校国語の復習）
第 9 回	書くこと⑨－短作文１―身近なテーマから
第 10 回	書くこと⑩－短作文２―論理的な文
第 11 回	書くこと⑪―短作文３―教育をテーマとして
第 12 回	論文①―時事問題についての論文１
第 13 回	論文②－時事問題についての論文２
第 14 回	実習関連文書①－実習日誌など
第 15 回	実習関連文書②－指導案など

予習・復習

・予習：テキストや資料は必ず事前に読んでおいてください。
・復習：テキスト・論文等の課題を出しますので、必ず仕上げて提出してください。

履修上の注意

文章、そして論文を書く力をつけたいという強い意志を持って授業に臨んでください。最終的には時事問題等について論文を書きますので、常に自分で考える姿勢で受講し、また、社会や教育の動きには興味関心を持って臨んでください。提出物が出ていなければ、評価できません。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。

教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、こども学科の学生の受講が望ましいです。

到 達 目 標

①文章を書くことへの抵抗感をなくします。
②文章表現の基礎を学習し、表現力を身につけることを目標とします。
③あるテーマについて自分で調べ、調べたことをまとめ、自分の考えを入れながら、論理的な文章を書く力をつけることを目標とします。
④教職課程・保育士課程履修者は、実習関連文書の書き方を身につけることをも目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
文章作成能力（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
考察力（30%）	自ら調べたり考えたりして、分からない他人にアドバイスができる。	自ら調べたり考えたりして独自の能力で課題を解くことができる。	教員の概括的な指導により、独自で課題を解くことができる。	教員の詳細な指導により、課題を解くことができる。	教員のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
表現力（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明を記述することができる。	不足する点があるが、説明を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業態度・発言・提出物（テキスト、論文）・コメント・期末試験（期末レポート）等で総合的に評価します。なかでも、テキスト・論文は評価の比重が高いので、注意してください。

期末試験（期末レポート）30%、課題 30%、論文 20%、コメント用紙 10%、受講態度 10%

テキスト

資料・テキストは、授業内で指示します。

英語コミュニケーション　～子ども英語の運用力実践～	大山　健一

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	必修	必修	選択

授 業 概 要

保育・教育現場（幼稚園・小学校・保育園）の授業を担当するために、必要な実践的な英語運用力を身に付けられるように、英語の４技能（２能力）５領域を基に、様々な話題・授業場面を意識しながら、その概要や要点を把握する活動について講義する。英語の手遊び唄や絵本の読み聞かせを習得するために、音声・文字や第二言語（外国語）習得論、児童文学や異文化理解も踏まえ、幼児英語から保育英語、児童英語までの一連の流れにおけるコミュニケーション能力の向上について指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	コミュニケーション練習（1）：こどもの園保育園
第 3 回	コミュニケーション練習（2）：実習初日
第 4 回	コミュニケーション練習（3）：お出かけ
第 5 回	コミュニケーション練習（4）：水遊び
第 6 回	コミュニケーション練習（5）：ホットケーキの日
第 7 回	コミュニケーション練習（6）：読み聞かせ
第 8 回	コミュニケーション練習（7）：すいか遊び
第 9 回	コミュニケーション練習（8）：お誕生日
第 10 回	コミュニケーション練習（9）：子どもとの遊び
第 11 回	コミュニケーション練習（１０）：赤ちゃんニュース
第 12 回	コミュニケーション練習（１１）：歯の妖精
第 13 回	コミュニケーション練習（１２）：緑の目の魔女
第 14 回	実践練習（1）：手遊び唄
第 15 回	実践練習（2）：絵本の読み聞かせ

予 習 ・ 復 習

・予習：次の授業に備えて与えられた課題を行う。

・復習：授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。

履修上の注意

幼稚園教職課程・小学校教職課程・保育士希望の履修者が望ましい。
小学校教職課程希望の履修者は「児童英語」「初等教科教育法（英語）」を同時に履修することが望ましい。
授業開始後３０分までを遅刻とし、遅刻２回につき欠席１回とカウントします。

到 達 目 標

①授業実践に必要な聞く力・話す力［やり取り・発表］・読む力・書く力を身に付けることができる。
②音声・文字や第二言語（外国語）習得について基礎的な内容を理解することができる。
③英語圏の子ども文化を学び、異文化に親しむ保育・教育活動に生かすことができる。
④英語の手遊び唄や絵本の読み聞かせを使った保育・教育活動を行うことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（４０％）	自主的に学修する程の授業内容を理解することができる。	授業内容をほぼ理解することができる。	不足する点があるが、授業内容を理解することができる。	最低限の授業内容を理解することができる。	授業内容を理解することができていない。
表現力（３０％）	他人を説得する程の授業内容を表現することができる。	授業内容をほぼ表現することができる。	不足する点があるが、授業内容を表現することができる。	最低限の授業内容を表現することができる。	授業内容を表現することができない。
参加意欲度（３０％）	自己的にならず相手への配慮をして授業に参加することができる。	相手への配慮をほぼして授業に参加することができる。	不足する点があるが、相手への配慮をして授業に参加することができる。	最低限の相手への配慮をして授業に参加することができる。	授業に参加することができない。

評価方法

レポート（４０％）、課題（３０％）、授業態度（３０％）

テキスト

・教科書名：『Children’s Garden』
・著 者 名：赤松直子
・出版社名：成美堂
・出 版 年（ISBN）：2009 年（9784791910953）

情報機器演習　～コンピューター・リテラシー～	江頭　幸代

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	必修	選択

授業概要

パソコンの基礎的な学習、ワード（Word）を利用した文字入力、表計算ソフト（Excel）の活用、インターネットを利用した情報の検索と収集、パワーポイントの使い方を講義する。講義全体を通じて、保育活動に有効なパソコンの利用方法を考えていき、今後のさらなるスキルアップにつながるように講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（パソコンの基礎知識）、windows の基本的な操作
第 2 回	Word①（文書作成、字体の変更）
第 3 回	Word②（図形の挿入、図形描画、文書デザイン）
第 4 回	Word③（クラスだより作成）
第 5 回	Word④（チラシ作成―段組み、写真・絵の挿入）
第 6 回	Word⑤（保護者への文書作成）
第 7 回	Excel①（表作成―出勤簿、月謝袋）
第 8 回	Excel②（グラフ作成）
第 9 回	Excel③（関数の利用１）
第 10 回	Excel④（関数の利用２）
第 11 回	Power Point①（スライド作成の基礎）
第 12 回	Power Point②（アニメーション効果）
第 13 回	Power Point③（運動会のプログラム作成）
第 14 回	Power Point④（ひなまつり、卒園式の案内作成）
第 15 回	園児のためのパソコン利用法の検討とまとめ

予習・復習

・予習：教科書をよく読んでおくこと。

・復習：授業中の課題を完成させること。

履修上の注意

パソコンにログインできるパスワードの紙（入学時に配布）を準備しておくこと。

到 達 目 標

本講義では、パソコンを操作し、目的とする作業を行い、効率的に情報が処理できるように、パソコンソフト（ワード、エクセル、パワーポイント）の基本的な操作方法を身に付けることができる。また必要な情報を得ることができる能力や相手に伝わりやすい文書のレイアウトの構成を考えていくことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不備がある。	授業内容を最低限、理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	教科書を参照にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても、自発的に課題を解決できない。	課題を提出できない。

評価方法

課題の提出 70%、定期試験 30%

テキスト

・教科書名：例題 50＋演習問題 100 でしっかり学ぶ word/excel/power point 標準テキスト
・著 者 名：
・出版社名：技術評論社
・出 版 年（ISBN）：978-4297105235

生涯スポーツⅠ　～スポーツの楽しさと自己の身体～	小山内弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	必修	必修	必修

授業概要

「身体を動かす」ことに重点を置き、複数のスポーツにより展開し、それぞれのスポーツの特性に触れる。さらに、経験者が初心者を教えるなどにより、スポーツを全体として楽しむための方法について考え、そして運動・スポーツを通して「教授」することの重要性を再確認できるよう指導する。また、身体のデータを収集し、その変化と体力との関連についても考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　授業内容、授業の特性上、必要な注意を伝達する。
第 2 回	自己の身体について（身体計測１）：　自己の身体的、体力的な現状を知るために、データの収集を行う。
第 3 回	バレーボール①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 4 回	バレーボール②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 5 回	バレーボール③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 6 回	バスケットボール①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 7 回	バスケットボール②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 8 回	バスケットボール③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 9 回	卓球・バトミントン①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 10 回	卓球・バトミントン②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 11 回	卓球・バトミントン③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 12 回	ドッヂビー①基礎：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 13 回	ドッヂビー②ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 14 回	自己の身体の変化について（身体計測２）：　自己の身体的、体力的な変化を知るために、データの収集を行う。
第 15 回	まとめ

予習・復習

日常の運動習慣は、実技での活動の基礎となる。より充実したスポーツ活動を進めるために以下の事を心がける事。

・予習：日々の生活における健康管理に努め、健康な心身で授業に参加するよう努力する。
・復習：授業で感じたことを日常の生活に組み込む努力を行う。

履修上の注意

・ 遅刻は３回で１回の欠席とする。
・ コロナウイルス感染拡大防止に努めて実施する、
・ 授業は、主にアリーナで実施する。必ずジャージで、屋内履きで受講すること。ジャージ以外の服装、屋内履き（運動靴）がない場合は、安全上、出席を認めない。
・ 安全上の問題から、適切に身だしなみを整えて出席すること。
・ 暑さが予想されることから、十分に体調管理の上で出席すること。
※履修者人数、コロナ感染状況や環境条件に合わせて変更する場合がある。
※土足での授業参加を発見した場合、以降の履修の可否について検討する。

到 達 目 標

・ 身体計測を通して、自己の身体の変化について知ることができる。
・ 自らの運動能力（体力）の現状を実感できるよう、積極的に実技に参加することができる。
・ 仲間づくりや協調性を含めた、運動・スポーツの楽しさ、一生懸命に動くことによる爽快感を感じることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（30%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
授業での協調性（30%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・レポート（50%）
・提出物（20%）
・授業への貢献度（積極性と協調性）（30%）

テキスト

なし。
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

生涯スポーツⅡ　～今の自分とこれからの自分～～	小山内弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

授業概要

スポーツは、豊かな生活を営むための一つ活動である。身体活動を伴うスポーツは健康にとっても有益な活動である。健康に対する価値観はさまざまではあるが、生涯にわたって身体的に良好な状態であることがQOLを向上させることは明らかである。本講義では、スポーツの基礎となる健康や身体について、自己の身体、日常生活を記録するとともに分析し、自己の「今」を知る事から初める。そして、その基礎データをもとに身体について学習することで、スポーツなどの身体活動や健康などへ目を向けるきっかけとなるように講義を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　生涯スポーツⅡの授業の進め方や注意事項について伝達する。
第 2 回	健康について：　健康についての一般的な考え方や個々の捉え方、それとともに自分たちの状況について考える。
第 3 回	身体組成の測定の意義と方法：　自己の身体についての理解を深めるとともに、身体組成を速成する意義と方法について説明する。
第 4 回	自己の身体について（身体計測１）：　自己の身体的な現状を知るために、データの収集を行う。
第 5 回	自己の体力レベルの確認：　自己の体力的な現状を知るために、体力測定を行いデータの収集を行う。
第 6 回	身体の変化について：　測定した身体組成を基に、体重、BMI、体脂肪率を中心に理解を深める。
第 7 回	生活活動記録調査：　自己の生活を知るために、生活活動記録の記録を行う。
第 8 回	身体活動量（カロリー）の算出：　生活活動記録を基に、自己の日常の消費エネルギーについて算出してみる。
第 9 回	日常生活について：　自己の生活活動記録とエネルギー消費量を参考に、日常生活についての理解を深めの過ごし方を考える。
第10回	エネルギーの生成と消費について：　身体のエネルギーの生成と消費について学ぶ
第11回	筋の構造について：　身体活動の源となる筋肉の活動について学ぶ
第12回	呼吸循環系について：　生命維持に必要な身体活動について学ぶ
第13回	自己の身体の変化について（身体計測２）：　自己の身体的、体力的な変化を知るために、データの収集を行う。
第14回	健康と身体、生活活動について考える：　蓄積したデータを基に、自分自身の考える健康と自己の身体、生活についての評価、分析を行う。
第15回	まとめ

予習・復習

自分自身の日常の生活や身体活動が、健康維持・増進には大きな影響を与えている。このことから、日々の生活が予習であり復習となる。

・予習：毎日の気づきから、自己の健康に必要な課題を明確に持ち、生活する。

・復習：予習と授業内容から得た知識を実践し、自己の身体・生活の結果に反映させる努力をする。

履修上の注意

・遅刻は３回で１回の欠席とする。
・身体計測、体力レベルの確認時は、ジャージ、短パン、T シャツ等適した服装を必要とする（事前に連絡）。

到 達 目 標

自己の身体、日常生活の「今」を明確にし、健康の基準となるデータから自己の身体や生活を見直すことができる。
自己の身体、生活と健康との関連を検討し、生涯に渡っての身体、日常生活を考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（55%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（15%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（15%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（5%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的な取り組みがやや消極的である。	授授業内での学習に協調的な取り組みが消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みがみられない。

評価方法

・テスト（筆記またはレポート）（55%）
・提出物（45%）

テキスト

なし。
必要に応じてプリントを配布する。

知の技術　～教員・保育士養成基礎講座～	長沼･関根･岩﨑･小林･大多和･鈴木･宮本

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	必修	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を指導する。
・大学生としての学びの技術と大学で履修する科目内容への理解（川短での学びを深める）
・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力を磨く）
・実習に必要な社会常識とマナー（実習に向けて準備する）

授業計画

第 1 回	ガイダンス―大学での学び方を身に着けよう
第 2 回	川短での学びの概要と受講に指してのルールを知ろう（学生としての学び①）
第 3 回	メディアセンターの機能を知り活用しよう（学生としての学び②）
第 4 回	インターネット（SNS を含む）の有効な活用を考えよう（学生としての学び③）
第 5 回	ノートの取り方とレポートの書き方を身につけよう（学生としての学び④）
第 6 回	教員・保育士を目指すための心構えを確認しよう（実習にむけての学び❶）
第 7 回	実習に参加するためのマナーを身につけよう（実習にむけての学び❷）
第 8 回	手紙の書き方を身につけよう（実習にむけての学び❸）
第 9 回	人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び❹）
第 10 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び⑤）
第 11 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び⑥）
第 12 回	個人調書を書こう（実習にむけての学び❺）
第 13 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❻）
第 14 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び❼）
第 15 回	まとめ―「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び⑦）

予習・復習

・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

履修上の注意

本授業は大学での学びの基礎となる事項であり、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、すべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保管しておくこと。

さらに、1 年次後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後）」は、本授業の内容を修得済であることを前提に進められるので、実習参加予定者は特に注意が必要である。

また、5 回・10 回・15 回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻・早退３回で欠席１回の扱いとする。

到達目標

2 年間の大学生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナー、および社会人としての基本的なスキルを身につける。

上記を踏まえ、具体的には以下 5 項目の知識や資質・能力の習得を目指す。

① スタディスキル（ノートテイキング、発言、グループ内での協働、講義内容の理解、ならびに期限内に課題提出ができる）
② スチューデントスキル（メールや電話、手紙等を使って、マナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる）
③ 文章表現の基礎力（正しい漢字・文法により的確な文章作成ができる）
④ 情報リテラシー（メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる）
⑤ 保育・教育実践の基礎力（保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる）

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スタディスキル（20%）	ノートテイキング、発言、グループ内での協働に積極的であり、すべての課題が期限内に提出され、講義内容の理解が十分に行われている。	ノートテイキング、発言、グループ内での協働ができており、すべての課題が期限内に提出され、概ね講義内容が理解されている。	すべての課題が期限内に提出され、概ね講義内容が理解されているが、ノートテイキング、発言、グループ内での協働に積極性・主体性が求められる。	概ねの課題は期限内に提出されたが、一層の講義内容・意図の理解が必要である。	課題の提出が期限内に提出されておらず、講義内容・意図の理解が不十分である。
スチューデントスキル（20%）	メールや電話、手紙等を使って、適切なマナーを踏まえ、滞りなく報告・連絡・相談ができる。	メールや電話、手紙等を使って、一定のマナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる。	メールや電話、手紙等を使って、報告・連絡・相談ができるが、一般的なマナーの理解を深める必要がある	メールや電話、手紙等を活用できるが、滞りなく報告・連絡・相談する態度を習得する必要がある。	報告・連絡・相談の必要性を理解し、少なくともメールを適切に活用するスキルを習得する必要がある。
文章表現の基礎力（20%）	正しい漢字・文法を使って、的確な文章作成ができる。	正しい漢字・文法を使って、他者が理解できる文章の作成ができる。	他者が理解できる文章の作成はできるが、正しい文法、漢字・語彙の使用に努める必要がある。	辛うじて他者が理解できる文章を作成できるが、正しい文法・漢字の習得が求められる。	他者が理解できる文章を作成するスキル、および正しい文法・漢字の習得が求められる。
情報リテラシー（20%）	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、適切な情報を取捨選択したうえで、モラルに則って活用することができる。	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる。	メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集できるが、情報モラルへの理解が必要である。	メディアセンター、インターネット等を活用できるが、必要な情報を収集する方法を習得する必要がある。	メディアセンター、インターネット等を適切に活用する方法を理解する必要がある。
保育・教育実践の基礎力（20%）	保育の観察・記録の基本を十分に理解し、基本を踏まえて、魅力的に保育実技のプレゼンテーションができる。	保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる。	保育の観察・記録の基本を概ね理解しているが、基本を踏まえた保育実技の方法を理解し、実践するスキルの習得が必要である。	保育の観察・記録の理解度を判断する課題の提出、または保育実技のプレゼンテーションの、いずれかが行われなかった。	保育の観察・記録の理解度を判断する課題の提出、および保育実技のプレゼンテーションのどちらも行われなかった。

評価方法

漢字テストおよび課題レポート　50%	授業時の提出物　30%	発表　20%

テキスト

・教科書名：『【改訂２版】これだけは知っておきたい 保育の基本用語』
・著者名：長島和代（編）　石丸るみ・亀﨑美沙子・木内英実（著）
・出版社名：わかば社
・出版年：2021 年(ISBN: 978-4907270346)
＊『実習のてびき』は毎時、必ず参照できるようにすること。他に、必要に応じて資料を配布する。

国語（書写を含む）　～言語活動で国語力を高めよう～

佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択	－

授業概要

小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略を理解する。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　国語「概説」
第 2 回	ことばの力1　話す力・聞く力
第 3 回	ことばの力1　書く力1－文字を書く－
第 4 回	ことばの力1　書く力2－文章を書く－
第 5 回	ことばの力1　読む力
第 6 回	文章のいろいろ　説明的文章
第 7 回	文章のいろいろ　文学的文章
第 8 回	文章のいろいろ　言語文化
第 9 回	ことばの理解　表記
第10回	ことばの理解　ことばのきまり
第11回	ことばの理解　語と意味
第12回	ことばの力2　音読の力
第13回	ことばの力2　コミュニケーションの力
第14回	ことばの力2　情報活用の力
第15回	ことばの力2　論理の力

予習・復習

・予習：授業計画にしたがって、事前に教科書の該当箇所を読んでおく。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・言語活動を通して国語力を構成する「考える力」「感じる力」を深める。
・日常の言語生活において「聞く・話す」「読む」「書く」という具体的な言語活動のスキルを高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：言語活動中心　国語概説　改訂版－小学校教師を目指す人のために－
・著 者 名：岩﨑淳ほか
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2022 年（9784762031274）

社会　～社会科とは、いかなる教科か～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

小学校の教育課程における社会科の役割や性格について講義する。具体的には、学習指導要領に掲げられている「教科の目標」および「各学年の目標及び内容」について、社会科という教科の歴史をふまえて指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会科の目標（1）　小学校社会科の目標
第 2 回	社会科の目標（2）　「社会生活についての理解」
第 3 回	社会科の目標（3）　「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情」
第 4 回	社会科の目標（4）　「公民的資質の基礎」
第 5 回	学年の目標―構造と系統―
第 6 回	各学年の目標および内容（1）　第 3 学年および第 4 学年（その 1）
第 7 回	各学年の目標および内容（2）　第 3 学年および第 4 学年（その 2）
第 8 回	各学年の目標および内容（3）　第 3 学年および第 4 学年（その 3）
第 9 回	各学年の目標および内容（4）　第 5 学年（その 1）
第 10 回	各学年の目標および内容（5）　第 5 学年（その 2）
第 11 回	各学年の目標および内容（6）　第 5 学年（その 3）
第 12 回	各学年の目標および内容（7）　第 6 学年（その 1）
第 13 回	各学年の目標および内容（8）　第 6 学年（その 2）
第 14 回	各学年の目標および内容（9）　第 6 学年（その 3）
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

社会科とは、いかなる教科であるのかについて、十分に理解できるようになること。あわせて、初等教育における社会科教育の内容について指導できる能力の基盤を養うこと。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 (70%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
論理的に文章で説明する力 (30%)	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%

筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

算数　～算数科の内容についての基礎的知識～	杉野　裕子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

算数は，日常の事象を数理的に捉えて問題解決することで，よりよく生きていくための，知識・技能および態度を身に付けるための教科である。また，問題解決の過程では，思考力や表現力も養う。

本授業では，数学の対象である，数と量と図形について，児童の認知発達段階に基づいた理解ができるように，『学習指導要領解説』と『小学校の教科書』と「算数教育の理論」を有機的に結び付けて講義する。また，関連する他の領域や算数教育に関わる背景についても講義をする。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，実質的陶冶と形式的陶冶，算数教育の歴史（戦前および戦後）
第 2 回	『学習指導要領解説』の読み方・使い方，平成 29 年算数科の目標
第 3 回	命数法と記数法，数えること，幼児期の遊びの中の数に関する活動
第 4 回	十進位取り記数法，非十進位取り記数法（五進法・二進法）
第 5 回	加法と減法が用いられる場合とその指導（順思考と逆思考）
第 6 回	繰り上がりや繰り下がりのある加法と減法，加法と減法の筆算指導
第 7 回	乗法とその意味，九九とその指導，除法の意味
第 8 回	小数の概念と計算の指導
第 9 回	分数の概念と計算の指導
第 10 回	量の概念とその指導，長さを例にした測定の４段階
第 11 回	メートル法、重さ・時間・角度概念とその指導
第 12 回	図形の構成要素や定義や性質の指導，イメージの形成（長方形を中心として）
第 13 回	図形の求積公式の創造と，思考力・表現力との関係①　長方形，三角形
第 14 回	図形の求積公式の創造と，思考力・表現力との関係②　平行四辺形とひし形，円
第 15 回	算数における ICT 活用，プログラミングによる図形概念形成

予 習 ・ 復 習

・予習：『学習指導要領解説』の該当ページを知らせるので，毎回熟読しておくこと。

・復習：授業で配布された資料（小学校の教科書の内容）と，授業で取ったノート（講義内容）を関係づけながら理解を確実にしておくこと。また，宿題として出された復習課題は必ず解き，当たった学生は授業の開始までに，解答を板書しておくこと。

履修上の注意

講義形式で行うが，扱う内容についての問題を解いたり，意見を求めたりする。また，教具を作成し，実際に使用する活動の体験もするので，いずれも積極的に取り組むこと。筆記試験は，状況に応じて複数回に分けて実施する（授業で告知）。

30 分を越える遅刻は入室を認めず欠席扱いとする。30 分以下の遅刻 3 回で欠席 1 回分とする。

到 達 目 標

小学校算数科で扱う内容について，教師としての基礎知識を獲得することを目的とする。

・算数科で扱う内容に関して、教師として理解している（理解度）。
・学習指導要領解説と算数の教科書と照らし合わせながら，内容についての説明ができる（表現力）。
・算数の問題や関係する数学の問題を解き、算数科の指導に役立てようとする（問題解決能力）。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学参ができる。	授業内容を確実に理解している。	授業内容を大まかに理解している。	授業内容の最低限の理解をしている。	授業内容の理解が出来ていない。
表現力（20%）	授業内容について十分な説明が出来、教材分析に生かすことができる。	授業内容について十分な説明ができる。	授業内容について、大まかな説明ができる。	授業内容について、最低限の説明ができる。	授業内容について、説明ができない。
問題解決能力（30%）	算数・数学に関する問題を、多様な方法で解くことができる。	算数・数学に関する問題を確実に解くことができる。	算数・数学の問題を、だいたい解くことができる。	算数・数学の問題のうち、基本的な問題のみ解くことができる。	算数・数学の基本的な問題を解くことができない。

評価方法

筆記試験 80%（中間試験 40%＋期末試験 40%）、宿題 20%

テキスト

・教科書名：学習指導要領解説　算数編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：978-4-536-59010-5

理科　～身につけておきたい理科の知識と実験技能～	長友　大幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

小学校学習指導要領を概説するとともに，教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には，可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして，小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能，安全面での配慮事項など，教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかるための講義を行う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，小学理科の概要
第 2 回	学校および小学校学習指導要領における理科教育の目標
第 3 回	小学校理科の学習内容（A区分・B区分）
第 4 回	実験器具の取り扱い方と安全教育
第 5 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物体の運動」
第 6 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「電気，磁石」
第 7 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「光，物質の性質」
第 8 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物質の変化」
第 9 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「植物の成長，生物と環境」
第 10 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「動物の成長，人の体のつくり」
第 11 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「大地の構成とその変化」
第 12 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「天気とその変化」
第 13 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「太陽，月，星の動き」
第 14 回	理科における環境教育と野外観察の方法
第 15 回	まとめ

第 4～14 回にかけて，実習や実験および野外観察を取り扱う。

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。

・復習：知識や実験の技能の定着を図る小テストを第 2 回目以降毎回行うので，それに対応できるように前時の学習事項の確認に力を入れ，本時の授業に臨むことが重要である。

履修上の注意

本授業では，実験・観察を取り入れることが多い。説明を聞かずに取り組むと事故につながることもあるので，原則として遅刻は認めないので留意すること。

到 達 目 標

１．小学校理科の各分野にわたる基礎的な教授内容を理解できる。
２．学習指導要領理科の目標，小学校理科の内容の構成と各学年の目標をふまえながら，児童の自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得することができる。
３．小学校理科で取り扱う実験の基本的な操作，危険の回避，実験準備の注意点，考え方などを理解できる。
４．児童の体験が予想される身の回りの事物現象，自然とのふれ合いを考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容を100%近く理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
技能（20%）	実験・観察方法が分からない他人にアドバイスできる。	何も参照せずに独自の能力で実験・観察を行うことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で実験・観察を行うことができる。	他人のアドバイスがあれば実験・観察を行うことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に実験・観察を行うことができない。
結果から考察したことを説明する能力（10%）	他人を説得する考察を記述することができる。	論理が通った考察を記述することができる。	不足する点があるが、考察を書くことができる。	最低限の内容について考察できる。	内容についての考察ができない。

評価方法

授業への取り組み（授業中の課題や実験への取り組み）20%、教師として必要な知識と技能の取得状況（定期試験）70%、小テスト 10%
欠席が１/３を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。

テキスト

・教科書名：文部科学省検定済み教科書「たのしい理科」（小学校 3～6 年）の 4 冊
・出版社名：大日本図書　・令和 2 年度初版
参考資料：文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説　理科編』（最新版）

生活　～生活科の授業分析を通して、授業力を身に付けよう！～	齋藤　澄子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択	－

授業概要

幼保小連携を視野に入れ、児童の発達段階に合わせた「生活科の学び」を実践できる指導力を身に付けるために、学習指導要領「生活」に沿って、９つの学習内容やＩＣＴを活用した授業構成について講義する。また学生の主体的な学習を推進し生活科教育に関する専門知識を活用した授業力を高めるために、演習を中心に教材研究を行い、学習指導案作成や模擬授業を取り入れ、実践的に学べるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の目的と進め方についてのガイダンスを行い、生活科の誕生や歴史についても理解できるようにする。
第 2 回	生活科の教科目標や指導方法についての講義を行う。幼保小連携についての重要性も理解できるようにする。
第 3 回	生活科の学習内容と階層性についての講義と課題学習を行い、理解が深まるようにする。
第 4 回	学習内容（1）の内容・授業展開例と解説の講義を通して、教材研究の仕方を指導する。
第 5 回	学習内容（2）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 6 回	学習内容（3）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 7 回	学習内容（4）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 8 回	学習内容（5）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 9 回	学習内容（6）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 10 回	学習内容（7）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 11 回	学習内容（8）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 12 回	学習内容（9）の内容・授業展開と解説の講義を通して、 教材研究の仕方を指導する。
第 13 回	生活科のカリキュラム構成とＩＣＴの活用を含めた生活科の授業改善について講義する。
第 14 回	学習評価について講義し、こどもの表現についてのワークショップを通して指導する。
第 15 回	これまでの学修を生かし課題レポートの作成を指導し、講義全体のまとめをする。

予習・復習

・予習：シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前にテキストをよく読み、講義内容が理解できるようにしておくこと。

・復習：復習として授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておく。また授業で配布した学修資料の内容を再度確認しながら、資料整理を行い、ファイルするようにすること。

履修上の注意

・授業で配布された資料や指定されたテキストを毎回持参すること。
・予習・復習をしっかり行い、授業内容を活用した学習指導案の作成や模擬授業に臨むこと。
・欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。遅刻については 30 分以内なら出席回数にカウントできるが、30 分を越えた場合は欠席扱いとする。

到 達 目 標

・「生活科」における教科目標や子どもの学びについて理解する。（知識理解）
・生活科の９つの学習内容についての理解を深め、ＩＣＴの活用等を取り入れた教材研究ができる。（技能）
・気づきの質を高める手立てや表現活動、教師の支援の在り方を考察できる。（思考）

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
生活科に関する知識理解度（40%）	授業内容を踏まえ発展的な学修を自主的に行っている。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	一定の理解はしているが、 授業内容の理解にやや不足がある。	授業内容について最低限の理解しかしていない。	授業内容をほとんど理解できていない。
課題に対する解決力（30%）	自分の解法を生かして 他人にアドバイス ができる。	学修したことを活用しながら、工夫して課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、自分の力で課題を解くことができる。	他人のアドバイスを受け、助言を基に課題を解くことができる。	助言を受けても自発的に課題を解くこと ができない。
学修した内容を遣いレポートを書いたり演習等で活用したりできる力（30%）	学修した内容を考察しつつ、他人を説得するようなレポートを作成することができる。	学習内容に沿い、論理が通った文章でレポートを書くことができる。	内容的に多少の不足する点があるが、学修したこと全体を網羅したレポートを書くことができる。	最低限の学習内容についてしかレポートを作成することができない。	レポートに学習内容が全く反映されていないか未提出である。

評価方法

・受講姿勢や毎回の授業後の振り返りシート（コメント）　50%
・学期中間と学期末に書く課題レポート　50%

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年（978-4-491-０３４６４-5）

音楽Ⅰ　～保育・教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～	齊藤(淳)・一村・佐藤(千)・佐藤(良)・須田・舘岡・山口(亜)

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	－	選択	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員・保育者として，子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の 育成を目指す。受講者を２グループに分け，クラス授業（45 分）とピアノの個人レッスン（45 分）を 並行して行う。クラス授業では，音楽の基礎的な理論（楽典）とピアノ伴奏のための基礎演習，コー ド伴奏法などについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは， 教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌（実習曲）を必修課題とし，ハ長調のコード伴奏を中心に，子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付ける。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，童謡の歌唱及びリズム唱	個人レッスン
第 2 回	ピアノの演奏の基礎①・楽典①（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 3 回	Ⅰ・V7 の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典④	個人レッスン
第 4 回	ピアノ演奏の基礎②・楽典③（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 5 回	ピアノ演奏の基礎③・楽典④（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 6 回	ピアノ演奏の基礎④・楽典⑤（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 7 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7 の全調課題試験①（ピアノ演奏の基礎）	個人レッスン
第 8 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7の全調課題試験②（ピアノ演奏の基礎），楽典⑥	個人レッスン
第 9 回	Ⅰ・Vの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典⑦	個人レッスン
第 10 回	ピアノ演奏の基礎⑤・楽典⑧（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 11 回	ピアノ演奏の基礎⑥・楽典⑨（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 12 回	ピアノ演奏の基礎⑦・楽典⑩（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 13 回	ピアノ演奏の基礎⑧・楽典⑫（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 14 回	「メリーさんの羊」Ⅰ・Vの全調課題試験及び楽典のまとめ	個人レッスン
第 15 回	楽典試験	個人レッスン

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

・卒業必修科目である。
・クラス授業は ML 教室（音楽室）で行う。個人レッスンはレッスン室で行う。
・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかのみの出席は欠席扱いとなるので注意すること。また，遅刻３回で１欠席扱いとする。
・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること（飲食厳禁など遵守事項を守る）。

到 達 目 標

・音楽に関する基礎的な知識を理解する。
・教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける
・子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
楽典の理解度（30%）	内容をしっかりと理解できており，困っている人が理解できるよう解説することができる。	説明内容をほぼ全て理解できている。	説明を聞いてすぐは理解できているが，時間が経つとあやふやになっている。	小学校音楽で学んできた内容の振り返りは理解できているが，調などの難しい内容の理解は不足している。	音符を読むことができず，小学校音楽で学んできた内容の振り返りも理解できていない。
ピアノの技能①全調課題Ⅰ・V_7（10%） ピアノの技能②全調課題Ⅰ・V（10%）	どの調もスムーズに，音楽的に表現しながら弾くことできる。	どの調もスムーズに弾くことができる。	弾き始めるまでに考える時間が長く，時々躓くが最後まで弾くことはできる。	躓きながら弾くことはできるが，間違いが多く，曲として成立していない。	全調課題の意味が理解できていないため，全く弾くことができない。
ピアノの技能③弾き歌い（30%）	オリジナル伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともに音楽的に工夫をしながら表現することができている。	コード伴奏による弾き歌いができ，歌，ピアノともにしっかりと演奏することができ，所々，工夫することができる。	所々，躓くが，コード伴奏による弾き歌いをしている。歌声はか細く，伴奏に消されることがある。	コード伴奏による弾き歌いは躓きがかなり多く，途中から歌が消え，ピアノのみの演奏になっている。	コード伴奏でピアノを弾いているが躓きが非常に多く，曲の流れが止まる。弾き歌いの意味を理解できていない。
学習意欲（20%）	必修課題は早々に終わらせ，積極的にレパートリーを増やしている。課題は期日内に全て提出している。	必修課題はただ弾くだけでなく，伴奏の方法や表現の工夫をしている。課題は期日内に全て提出している。	期日までに必修課題を終わらせることはできたが，かなりギリギリまでかかった。課題は概ね期日内に提出している。	期日までに終わらなかった必修課題が２～３曲ある。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	期日までに終わっていない必修課題が 1/3 以上ある。未提出の課題がある。

評価方法

・実技試験（全調課題各 10%・期末実技試験 30%）
・楽典試験（30%）
・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・入学前配布資料
・レッスンで使用する曲集及び楽典に関する資料を冊子で配布する
・その他，適宜，資料を配布する（A4 サイズのスクラップブックを準備すること）

音楽Ⅱ　～音楽活動を実践するための基礎力の育成～	宮澤・一村・佐藤（千）・佐藤（良）・須田・舘岡・山口（亜）

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。

中学校・高等学校における合唱や楽典の音楽指導や、幼稚園・保育園における音楽あそびやうたのコンサート活動の実務経験に基づいて、子どもが楽しんで活動できる音楽あそびや歌唱指導を実践するために必要な音楽の基礎的な知識や演奏法や表現法を指導する。

クラス授業では、音楽の基礎的な理論を必修曲の「子どものうた」と関連付け、実際に演奏しながら学ぶことで、生きた音楽の知識を身に付ける。また、歌唱や合唱発表を通して、楽曲のよさや美しさを生かした歌唱表現や身体表現、舞台発表の工夫について協働的に学ぶ。

ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で使用頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた」を必修課題とし、主にコード伴奏法を用いて、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付ける。また、音楽表現の幅を広げるため、選択曲として個々のレベルに応じた「子どものうた」の弾き歌いやピアノ曲の演奏にも取り組む。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、歌唱①音取り（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（夏休みの課題）
第 2 回	歌唱②呼吸と発声の基礎（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 3 回	歌唱③音楽表現の工夫（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 4 回	歌唱④身体表現の考案（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 5 回	歌唱⑤舞台発表の工夫（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 6 回	【大学祭合唱発表（リハーサル・本番）】	
第 7 回	歌唱⑥「子どものうた」歌唱表現法（必修曲）	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 8 回	【中間実技試験】「生活のうた」弾き歌い	個人レッスン（生活のうた・必修曲）
第 9 回	楽典・ソルフェージュ①音楽を形づくっている要素	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第10回	楽典・ソルフェージュ②拍の流れとリズム	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第11回	楽典・ソルフェージュ③音階の仕組みと調	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第12回	楽典・ソルフェージュ④和音の響きとコードの種類	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第13回	楽典・ソルフェージュ⑤コード伴奏のアレンジ法	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第14回	【ソルフェージュ試験】音名唱、リズム唱	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第15回	期末実技試験リハーサル（「子どものうた」弾き歌い）	個人レッスン（必修曲・選択曲）

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回までに演奏できるよう、毎日15分以上練習すること。

・復習：既習曲の弾き歌いやピアノ演奏を週2回程度練習し、保育者・教員になった際にいつでも演奏できるよう、自分自身のレパートリーとして維持すること。
楽典やソルフェージュ（音名唱・リズム唱）等、授業で学んだ内容も必ず復習すること。

履修上の注意

・卒業必修科目であるため、こども学科の学生は全員必ず履修すること。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。
・クラス授業では、【大学祭合唱発表（リハーサル・本番）】【ソルフェージュ試験】を、ピアノの個人レッスンでは「夏休みの課題」「生活のうた（実習曲）」「必修曲」の合格を必須とする。

到 達 目 標

・保育者、小学校教員になるための音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
・楽曲のよさや美しさを感じ取り、子どもの音楽活動にふさわしい表現を工夫しながら歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら、弾き歌いができる。	音楽の流れが大きく止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
ソルフェージュ能力（20%）	常に一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ほぼ一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをほぼ正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをおおむね正確に伝えることができる。	テンポが崩れる箇所が所々あり、全体の半分以上の音程やリズムを正確に伝えることができない。
音楽の基礎知識の理解（10%）	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解し、課題の記述内容も模範的な水準である。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解が不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解ができていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%） …【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%） …【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・ソルフェージュ試験 20%（音名唱 10%、リズム唱 10%） …【評価項目】ソルフェージュ能力
・個人レッスン待機課題 10% …【評価項目】音楽の基礎知識の理解

テキスト

・その他の使用テキストについては、後期ガイダンスにて指定する。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅲ　～保育・教育における音楽活動実践力の育成～	宮澤・佐藤(良)・舘岡・松山・山口(茜)・山口(亜)

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	選択	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、保育・教育における音楽活動実践力を育成する。

中学校・高等学校における弾き歌いやミュージックベルの音楽指導や、幼稚園・保育園における音楽あそびやうたのコンサート活動の実務経験に基づいて、歌唱やピアノ、ミュージックベルの演奏法と表現法、音楽あそびや音楽授業の模擬実習、音楽の基礎的な理論を指導する。

クラス授業では、音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、集団で歌ったり遊んだりする体験を通して、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたのよさや楽しさを味わい、音楽的特徴を理解する。また、教育実習に向けて音楽活動の模擬実習を計画し、発表を行う。同時に他者の模擬実習を子どもの目線をもって体験し、協働的に学ぶ。音楽の基礎的な理論では、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ音楽の基礎知識を復習し、楽譜作成ソフトを用いた記譜法を身に付ける。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲、「季節のうた」の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げたりふさわしい音楽表現を創意工夫したりしながら、ピアノ演奏の技能を高める。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、「自己紹介のうた」づくり	個人レッスン（春休み課題）
第 2 回	弾き歌い①前奏と後奏のつけ方（6月のうた）	個人レッスン（行進曲）
第 3 回	弾き歌い②楽曲の特徴を生かした演奏法（春のうた）	個人レッスン（行進曲）
第 4 回	弾き歌い③楽曲の特徴を生かした演奏法（夏のうた）	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 5 回	わらべうた遊び①「わらべうた」の音楽的特徴	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 6 回	わらべうた遊び②伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 7 回	わらべうた遊び③伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（行進曲・季節のうた）
第 8 回	【模擬実習】「自己紹介のうた」歌唱発表、音楽あそび・音楽授業の発表と体験	
第 9 回	【中間実技試験】「6月のうた」弾き歌い　／　「行進曲」のピアノ演奏	
第10回	弾き歌い④楽曲の特徴を生かした演奏法（秋のうた）	個人レッスン（芸術曲）
第11回	弾き歌い⑤楽曲の特徴を生かした演奏法（冬のうた）	個人レッスン（芸術曲）
第12回	楽譜作成ソフトを用いた記譜法　※ICTを用いた指導	個人レッスン（芸術曲）
第13回	ミュージックベル①基本の奏法、「チャイム」づくり	個人レッスン（芸術曲）
第14回	ミュージックベル②指導法、楽曲練習とグループ発表	個人レッスン（芸術曲）
第15回	期末実技試験リハーサル（芸術曲のピアノ演奏）	個人レッスン（芸術曲）

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指示された楽曲を次回までに演奏できるよう、毎日15分以上練習すること。
・復習：既習曲の弾き歌いやピアノ演奏を週2回程度練習し、保育者・教員となった際にいつでも演奏できるよう、レパートリーとして維持すること。

履修上の注意

・実習派遣に関わる内容を含むため、幼稚園教諭及び保育士の資格取得予定者は履修すること。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。

到 達 目 標

・保育者・教員としての音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・楽曲のよさや美しさなどを感じ取り、イメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して弾き歌いやピアノ演奏をすることができる。
・幼児のための音楽あそびや小学校低学年の音楽科授業を計画し、模擬実習として実践することができる。
・記譜法の基礎を理解し、ピアノ伴奏の楽譜を作成することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いがやピアノ演奏できる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
音楽活動の計画・実践力（20%）	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や様々な配慮がみられ、模範的な水準である。	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や配慮がみられる。	教育実習での音楽活動を想定した指導案をおおむね的確に作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮がやや不足している。	教育実習での音楽活動を想定し、自分なりに指導案を作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮が不足している。	教育実習での音楽活動を想定していない不十分な指導案で、発表においても子どもの興味を引き出す工夫や配慮がみられない。
記譜法の理解（10%）	記譜法の基礎だけでなく、応用的な内容も自主的に学び理解している。	音楽の基礎的な知識を活用し、記譜法を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないが、記譜法をおおむね理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないため、記譜法の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識が定着しておらず、記譜法が理解できていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・模擬実習 20%（歌唱発表 10%、音楽活動の指導案と発表 10%）…【評価項目】音楽活動の計画・実践力
・課題 10%（レッスン待機課題 5%、楽譜作成ソフト課題 5%）　…【評価項目】記譜法の理解

テキスト

・「音楽Ⅱ」に引き続き、『3 つのコードで楽らく弾ける ピアノ伴奏集』を使用する。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅳ　～保育・教育現場における実践力及び指導力を身に付ける～	齊藤・宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年		1	選択	−	-	-

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが，第８回までは合同授業と個人レッスンを，第９回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し，実践法や指導法を身に付けられるよう，全ての回について小・中学校教員の実務経験を活かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，音色の違いに注目したボディパーカッション	
第 2 回	歌によるコミュニケーション（斉唱と合唱「わらべうた」，交互唱「よろこびのうた」）	
第 3 回	初見演奏①，歌に合わせたリズム遊び	個人レッスン
第 4 回	初見演奏②，ボディパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第 5 回	初見演奏③，ボディパーカッションとピアノによるアンサンブル	個人レッスン
第 6 回	初見演奏④，保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン
第 7 回	初見演奏⑤，ボイスパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第 8 回	中間実技試験	個人レッスン
第 9 回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けて	
第 10 回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏に向けた練習方法について	
第 11 回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第 12 回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第 13 回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第 14 回	楽譜作成ソフトの活用（ピアノ伴奏の編曲・作成した楽譜の実演「楽器のお名前なぁに？」）	
第 15 回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて	連弾レッスン

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが，音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず，授業者がレッスンを行うため，これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため，短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また，個人レッスンが受けられない日もあるが，その場合は個人練習をしっかり行うこと。さらに，連弾・重奏は一人ではできないため，ペア・グループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお，履修希望者が多く定員に達した場合は，履修届の先着順とする。

到 達 目 標

就職後の音楽活動について，柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫（中間・期末試験）（40%）	楽曲に相応しく，且つオリジナル性の高いアレンジや表現の工夫を考えることができる。	楽曲に相応しいアレンジや表現の工夫を考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることはできないが，アドバイスをもとに考えることができる。	アレンジや表現の工夫をすることができない。
表現の技能（中間・期末試験）（20%）	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながら，完成度の高い演奏をすることができる。	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながらスムーズに演奏することができる。	自分で考えたアレンジなどを表現することはできるが，所々，躓くため，音楽の流れがやや止まる。	アドバイスを受けて考えた表現をしようとするが，躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
保育者として必要な支援方法の理解（20%）	保育者として必要な支援方法を理解し，上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	保育者として必要な支援方法を理解し，どのような声掛けが必要かを考えることができる。	保育者として必要な支援方法は理解しているが，具体的な声掛けや手段を考えるまでには至っていない。	保育者として必要な支援方法をあまり理解しておらず，具体的な声掛けや手段を考えることができない。	保育者として必要な支援方法を全く理解しておらず，具体的に考えることができない。
学習意欲（20%）	レパートリーを増やすなど自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定することはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	自主的に課題を設定することができず，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	自主的に課題を設定せず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

・実技試験（中間実技試験（個人）・期末実技試験（連弾・重奏） 60%）
・保育者としての支援方法の理解（様々な活動の様子の観察）（20%）
・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
・その他，適宜，資料を配布する（Ａ４サイズのスクラップブックを準備すること）

図画工作　～子どもによりそう造形表現活動の実践～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	必修	－	選択	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

幼児期にふさわしい様々な造形表現活動を実際に行い、子どもの気持ちによりそい、その感性を育むとともに、深い学びを 導くことのできる保育者となることを目指す。素材の変化を楽しみ自己表現を育てる。幼児期の感覚を追体験し、驚きや喜びを子どもと分かち合えるような活動について具体的に考える指導をする。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス・「なぐりがきで描いてみよう」
第 2 回	「私の好きな形・色」
第 3 回	「色水あそび」
第 4 回	「折り紙かざり」
第 5 回	「絵具あそび」（ローラー・スタンピング）
第 6 回	「小麦粉ねんど」
第 7 回	ポートフォリオ制作
第 8 回	ポートフォリオ制作
第 9 回	「新聞紙で変身」
第 10 回	「光であそぶ」
第 11 回	「紙テープで遊ぶ」
第 12 回	「ほいくことば」　卒業に向けての言葉と絵　構想、下描き
第 13 回	「自由画」子どもに戻って絵を描く
第 14 回	「ほいくことば」　彩色、完成
第 15 回	ポートフォリオ表紙制作・まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

造形活動を楽しみ、指導の計画を立てることができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現し、子どもの気持ちを想像できるようになる。
指導者の立場で活動を考え、実践する準備ができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力 ［活動計画等］ (20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力 ［作品制作におけるアイディア等］ (20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力 ［見本作品制作等］ (40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品(80%)
レポート(20%)

テキスト

・教科書名：子どもの造形表現―ワークシートで学ぶ
・著 者 名：:畠山智宏・ 北沢昌代・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出 版 年（ISBN)：第 2 版 2019 年（978-4876035182）
・教科書名：ずこうことばでかんがえる（新装版）
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN)：2022 年（978-4990759667）
※いずれも 1 年次に使用したもの

家庭　～小学校家庭科で学ぶ「生活」とは何か～

佐藤　真弓

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	選択	－

授業概要

小学校 5 年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。家庭科の基本理論である家政学の視点を知り、家庭科教育の理念や目的、特性を理解するように演習を織り交ぜつつ講義をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	本授業のガイダンス（受講者の確認、学んできた家庭科を振り返る等）
第 2 回	家庭科教育の本質（歴史的社会的背景からの考察）
第 3 回	家庭科教育の目的と理念
第 4 回	家庭科の内容構成、枠組み
第 5 回	家政学の環境概念と家庭科
第 6 回	家庭科の学習内容の検討①家族・家庭生活の基礎理論と家政学
第 7 回	家庭科の学習内容の検討②衣生活の基礎理論と家政学
第 8 回	家庭科の学習内容の検討③食生活の基礎理論と家政学
第 9 回	家庭科の学習内容の検討④住生活の基礎理論と家政学
第 10 回	家庭科の学習内容の検討⑤消費生活・環境の基礎理論と家政学
第 11 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討①情報機器の活用と生活時間調査
第 12 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討②衣服の着用と手入れ
第 13 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討③食事の役割と栄養
第 14 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討④ごみ処理調査
第 15 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討⑤家計簿作成

予習・復習

・予習：小学校学習指導要領解説（家庭編）の授業計画に該当する内容を読んでおくこと。新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく。

・復習：授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は履修をすることが望ましい。また、「初等教科教育法（家庭）」を履修する前に、本授業を履修すること。

到 達 目 標

家庭科の基礎理論である家政学の思想を背景とした小学校家庭科の目標、教科内容等基本的な事項について理解できる。

身近な生活課題を発見しそれを解決するための方策を主体的に考えることができる。

家庭科の学習指導において必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を身に付けることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 40%）	授業内容を超えた自主的な学習ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題発見能力（ 20%）	生活課題を発見しその根本原因を探ることができる。	生活課題を発見することができる。	課題を見つけることができるが、生活課題として認識できない。	他人のアドバイスがあれば課題を見つけることができる。	アドバイスがあっても課題を見つけることができない。
課題解決能力（ 20%）	生活課題の解決のために方策を検討し、主体的に実践できる。	生活課題の解決のための方策を主体的に考えることができる。	生活課題の解決のための方策を他人のアドバイスを受けて考えることができる。	生活課題の解決のための方策の検討ができない。	生活課題の解決の必要性に気づくことができない。
実践的な技能・態度（ 20%）	家庭科指導に必要な技能と態度を身につけ、自らの生活課題の解決にとりくむ。	家庭科指導に必要な技能と態度をもつことができる。	家庭科指導に必要な技能と態度が多少不足している。	最低限の家庭科指導に必要な技能と態度が身についている。	家庭科指導に必要な技能と態度が身についていない。

評価方法

期末レポート（40%）、授業態度（30%）、小課題レポートの評価（30%）から総合的に評価する。

テキスト

・自然と社会と心の人間学　　佐藤真弓・齋藤美重子編
一藝社　　2020 年　　ISBN：978-4-86359-209-4

・小学校学習指導要領解説（平 29 告示）家庭編　文部科学省
東洋館　　ISBN：978-4-491-03466-9

体育　～体感・作成・実践～	宮本雄司

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	選択	必修

授業概要

本授業では、運動あそびやスポーツの実践を通して、からだを動かすことの意義について体感するとともに、運動あそびにおける他者とのかかわりについて考察することを目標とする。また、生涯スポーツの観点から、体力の向上や、健康の維持増進を図るための基本的技能や態度の習得を目指す。

後半では、子どもたちへの運動あそび指導の視点から、グループで運動あそびの計画を作成し、自らの計画を実践する。学生自身が、からだを動かすことの楽しさを体感し、運動あそびの計画および指導実践できるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（体育の目的とねらい）【教室】
第 2 回	幼児体育の指導方法（導入・展開・整理における留意事項）【教室】
第 3 回	からだを使った運動あそび実践①（おにあそび、フープあそび、縄あそび）
第 4 回	からだを使った運動あそび実践②（ドッジビー・ドッジボール）
第 5 回	からだを使った運動あそび実践③（ボールを使った運動あそび）
第 6 回	からだを使った運動あそび実践④（運動会種目）
第 7 回	公園あそびの留意事項【教室】
第 8 回	固定遊具を使った運動あそび【教室】
第 9 回	運動あそび指導案作成における留意事項
第10回	運動あそび指導実践①（①②グループ 発表10分、全員実践20分、評価・分析10分）
第11回	運動あそび指導実践②（③④グループ 発表10分、全員実践20分、評価・分析10分）
第12回	運動あそび指導実践③（⑤⑥グループ 発表10分、全員実践20分、評価・分析10分）
第13回	運動あそび指導実践④（⑦⑧グループ 発表10分、全員実践20分、評価・分析10分）
第14回	運動あそび指導実践⑤（⑨⑩グループ 発表10分、全員実践20分、評価・分析10分）
第15回	まとめ（運動あそび指導実践の振り返り）【教室】

予習・復習

普段の生活の中の環境や人の動きに、運動あそびのヒントが隠されている。このことから、以下の内容を注意して行うこと。

・予習：様々な場面で見たり思い浮かんだりした動きや遊びのヒントを大切にする。
・復習：行ったことを自分なりに検討し、次への課題を発見する。

履修上の注意

・第１回、第２回、第７回、第８回、第 15 回は【教室】、それ以外は体育館で行う。
・体育館での服装はジャージとし、室内用運動靴を着用すること。
・運動場面にふさわしくない服装、爪、頭髪、アクセサリーや時計を身につけた状態では参加を認めない場合がある。
・学生自身で健康管理に留意し、体調が悪い場合は事前に申し出ること。
・やむを得ない理由による遅れの場合を除き、原則、遅刻は認めない。

到 達 目 標

① 運動あそびの重要性を理解し、楽しさを教えることができる。
② 子どもの発育・発達を考え、子どもの年齢に応じた運動あそびの指導ができる。
③ 安全な運動あそびを実践するための環境設営や指導時の留意事項を理解し、実践することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えて、積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容は、最低限理解している。	授業内容についての理解ができていない。
課題作成・実践能力（30%）	他学生の模範となり、他学生への助言ができる。	独自に課題を作成し、十分に実践することができる。	見本を参考にしながら課題を作成し、実践することができる。	助言があれば課題を作成し、実践することができる。	助言や指導があっても課題作成や、実践することができない。
授業への積極性（15%）	自ら積極的に行動するだけでなく、周りの状況に配慮することができる。	授業内で十分に積極的に取り組む。	授業内で積極的な学修がおおむねできる。	授業内で積極的に学修に関わる努力はみられる。	授業内で学修への関りが消極的である。
授業での協調性（15%）	授業内で他学生と顕著に協調を図れる。	授業内で他学生と十分に協調を図れる。	授業内で他者と部分的に協調を図れる。	授業内で他者と協調を図る努力はみられる。	授業内で他者と協調を図れない。

評価方法

授業態度（授業時レポート含む）70%、運動あそび指導実践発表 30%

テキスト

なし（適宜、プリント配布）

児童英語　～子ども英語の理論と小学校英語科教育法～

大山　健一

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	必修	－

授業概要

「小学校外国語教育についての基本的な知識・理解」「子どもの第二言語習得についての知識とその活用」「指導技術」「授業作り」を枠組みとして、小学校英語の変遷を知り、第二言語（外国語）習得論（母語習得論を含む）を基にした外国語教授法について講義する。また、様々な教材を理解し、絵本や歌などの教材研究を行い、国際理解教育・評価・カリキュラムデザインから効果的な活用方法を講義・指導する。更に、2020 年からの教科化に伴い、小学校英語で扱うことになる英語の４技能（２能力）５領域についても導入方法と小学校段階での適切な扱い方を講義・指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	小学校における英語教育（1）：外国語活動・外国語科の経緯
第 3 回	小学校における英語教育（2）：学習指導要領における児童英語
第 4 回	言語習得理論と関連領域（1）：第二言語習得論
第 5 回	言語習得理論と関連領域（2）：言葉の仕組み
第 6 回	外国語教授法（1）：指導法の概観・歴史
第 7 回	外国語教授法（2）：指導理論上の諸問題
第 8 回	国際理解教育（1）：ねらい
第 9 回	国際理解教育（2）：教材
第 10 回	評価の意義と評価方法（1）：評価の意義
第 11 回	評価の意義と評価方法（2）：振り返り表
第 12 回	カリキュラムデザイン（1）：カリキュラム・時間割の作成
第 13 回	カリキュラムデザイン（2）：単元の組み立て方
第 14 回	小学校の英語授業作り（1）：協同学習
第 15 回	小学校の英語授業作り（2）：外国語活動

予習・復習

・予習：次の授業に備えて与えられた課題を行う。

・復習：授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。

履修上の注意

小学校教職課程希望の履修者が望ましい。
「初等教科教育法（英語)」を同時に履修することが望ましい。
授業開始後３０分までを遅刻とし、遅刻２回につき欠席１回とカウントします。

到 達 目 標

①小学校における英語教育の在り方の基本について理解することができる。
②第二言語（外国語）習得のプロセスについて基礎的な内容を理解することができる。
③言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）の方法について理解することができる。
④小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領・教科用図書について理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（４０％）	自主的に学修する程の授業内容を理解することができる。	授業内容をほぼ理解することができる。	不足する点があるが、授業内容を理解することができる。	最低限の授業内容を理解することができる。	授業内容を理解することができていない。
発表力（３０％）	他人を説得する程の授業内容を説明することができる。	授業内容をほぼ説明することができる。	不足する点があるが、授業内容を説明することができる。	最低限の授業内容を説明することができる。	授業内容を説明することができない。
参加意欲度（３０％）	自己的にならず相手への配慮をして授業に参加することができる。	相手への配慮をほぼして授業に参加することができる。	不足する点があるが、相手への配慮をして授業に参加することができる。	最低限の相手への配慮をして授業に参加することができる。	授業に参加することができない。

評価方法

レポート・課題（４０％)、発表（３０％)、授業態度（３０％）

テキスト

・教科書名：『小学校英語科教育法』
・著 者 名：金森強
・出版社名：成美堂
・出 版 年（ISBN)：2019 年（9784791971961）

教職･保育概論(教育制度等を含む)

～保育者・教員の魅力と責務～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職・教職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	**オリエンテーション**―保育、養護、教育等、基本用語を確認し「保育」という言葉の意味を知る。被保育体験から子どもにとってのうれしい保育者・教員像を考える。
第 2 回	**様々な保育施設①**―自分の通っていた園を振り返り、多様な保育施設があること、及び施設類型に関連する諸制度にふれる。
第 3 回	**様々な保育施設②**―多様な保育施設とそこで働く保育者の 1 日にふれ、保育者・教員をとりまく資格と制度を理解する。
第 4 回	**現代社会が求める保育・教職像①**―Society5.0 時代に生きる子どもたちの育ちを支えるために、指針・要領の改訂動向にふれ、「子ども主体」の保育・教育の意義を理解する。
第 5 回	**現代社会が求める保育・教職像②**―10 円玉ピカピカプロジェクトで「遊びのなかの学び」を理解する。
第 6 回	**現代社会が求める保育・教職像③**―「なってみる」子ども理解を通して、養護と教育の一体的な展開の意味、振り返り(省察)の意味・意義を理解する。
第 7 回	**計画と評価の基本①**―指針・要領における「ねらい」から、方向目標の概念を理解する。園の理念と保育の特徴の関連の検討を通して、自らの保育観を見つめる。
第 8 回	**計画と評価の基本②**―ペーパークロマトグラフィの色遊びを題材に、ウェブ型記録・計画用ツールを用いて記録と計画、実践のサイクルを理解する。
第 9 回	**計画と評価の基本③**―グループワークを通して保育・教育における PDCA の意味・意義を考える。
第 10 回	**計画と評価の基本④**―なぜ計画・評価が必要なのか、保育・教育の現場ではどのような計画・評価が行われているのか、カリキュラムマネジメントの全体像を把握する。
第 11 回	**子どもの権利と保育者の倫理①**―コルチャック先生の実践から、ユニセフ「児童の権利条約カード」を題材に子どもの権利について考える。
第 12 回	**子どもの権利と保育者の倫理②**―絵本・動画を活用した保育における子どもの人権意識の変遷と現状を理解したうえで、全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」による事例検討を行う。
第 13 回	**子どもの権利と保育者の倫理③**―貧困の連鎖による結果の不平等と児童虐待の関連にふれ、保育施設や保育者の義務と役割を考える。多様な社会資源の存在を知る。
第 14 回	**子どもの権利と保育者の倫理④**―炎上 CM から現代の子育てを困難にする社会的要因を考え、保育・教育の場における多様な子育て支援の展開を知る。
第 15 回	**保育者としての豊かな成長と同僚性・確認テスト**

予 習 ・ 復 習

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・試験では手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。

到 達 目 標

・保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。
・保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。
・保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。
・乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。（25%）	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を十分理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像は理解しているが、制度上・身分上の義務を理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像も制度上・身分上の義務も理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像、及び制度上・身分上の義務に関する理解度を問う課題を提出しない。
保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。（25%）	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で、他者が理解できるように説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明するが、偏っており、十分でない。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明しようとするが、偏っているうえに、意味不明である。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で述べようとしない。
保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。（25%）	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分理解し、その実践例を述べることができる。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解している。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分に理解していない。	保護者や地域社会、専門機関とはどのような人・組織を指しているのかを理解していない。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。（25%）	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を他者が理解できるように、適切に説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を最低限は理解し、各施設の社会的役割を説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解しているが、各施設の社会的役割を説明できない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解していない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項や、各施設の社会的役割の理解度を問う課題を提出しない。

評価方法

授業態度　40%、試験 40%、授業内レポート　20%

テキスト

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。・参考テキストを初回授業で提示する。
ただし、平成 29 年告示版『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』はいつでも参照できるように準備しておくこと。

教育原理　～「教育」とは何か？これからの教育を考える～	大多和雅絵

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	必修	必修	必修

授業概要

この授業では、「教育」とは何か？という根源的な問いを教育の理念や思想、歴史から捉え、学生自身が自分なりの問いや考えを導くために必要な教育学の基本的な知識を体系的に習得することをめざす。保育者や教育者など教育に携わる者に必要な基本的な知識を中心に講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業の方法や進め方について
第 2 回	「教育」とは何か（1）:「教育」とはどのような営みか？「教育」をめぐるイメージについて
第 3 回	「教育」とは何か（2）：教育の社会的機能について
第 4 回	「教育」とは何か（3）：子ども観の変遷について
第 5 回	教育思想の歴史（1）：近代公教育の成立について
第 6 回	教育思想の歴史（2）：教育方法の歴史について
第 7 回	教育の歴史（1）近代学校制度の成立について
第 8 回	教育の歴史（2）戦前期の教育制度と教員養成について
第 9 回	教育の歴史（3）戦後の教育について
第 10 回	教育の歴史（4）：教育を受ける権利について
第 11 回	教育制度（1）：日本の学校制度のしくみについて
第 12 回	教育制度（2）：教育内容の変遷について
第 13 回	教育制度（3）：生涯学習、社会教育について
第 14 回	現在の子どもを取り巻く問題：子どもの貧困、いじめ、不登校など
第 15 回	授業のまとめ：これからの教育について考える

予習・復習

・予習：授業の前に教科書を読み授業内容を確認して臨むこと。

・復習：授業内容を振り返り知識の定着を図ること。

履修上の注意

日頃から新聞やニュースなどを通して、教育問題や社会問題に関心をもつことが望ましい。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・教育の理念や歴史、制度についての基礎的な知識を体系的に習得し、基本的な内容を説明することができる。
・今日の学校や子どもを取り巻く問題について、多角的な視点から捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
考察力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分のことばでまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	内容についての説明ができない

評価方法

学期末試験（70%）、授業内レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（10%）

テキスト

・教科書名：『問いからはじめる教育学』（改訂版）
・著 者 名：勝野正章・庄井良信
・出版社名：有斐閣
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978－4－641－15106－2）

教育心理学　～子どもの学びをどう支援するか～

鈴木　洋介

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	必修	必修	必修	－

授業概要

教育心理学は、教育における様々な問題を心理学の視点から分析し、効果的な教育活動により問題解決につなげようとする科学である。授業では、幼児・児童の心身の成長過程及び特徴を理解するとともに、主体的な学びを指導するための考え方について講義する。心理学的なものの見方ができるように、図表等を用いて、丁寧に講義し、実践につながるようにしていきたい。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　－授業計画と学習の進め方－
第 2 回	教育心理学とは何か
第 3 回	発達のしくみと道筋：遺伝と環境
第 4 回	認知の発達：ピアジェの発達論
第 5 回	人間関係と社会性の発達：人間関係のはじまりと広がり
第 6 回	学習のメカニズム（1）古典的条件づけ、道具的条件づけ
第 7 回	学習のメカニズム（2）観察学習、モデリング
第 8 回	学習のメカニズム（3）記憶のプロセス、「考える」とは何か
第 9 回	動機づけと学習（1）動機づけと欲求、学習意欲に影響する要因
第 10 回	動機づけと学習（2）無気力、子どもの学習意欲の育て方
第 11 回	学習指導：有意味受容学習、発見学習、協同学習、プログラム学習、アクティブラーニング
第 12 回	教育評価：教育評価の目的と具体的方法、パフォーマンス評価
第 13 回	仲間関係の発達と集団：協同意識・協同学習
第 14 回	自己とパーソナリティ:パーソナリティの理解、子どもの不適応の理解と対応
第 15 回	発達におけるつまずきと支援：限局性学習症、注意欠如多動症、自閉症スペクトラム症

予習・復習

・予習：テキストの関連ページを読んでおくこと。

・復習：配布資料をファイルしつつ、関連する人名や心理学用語について理解しておくこと。

履修上の注意

１．毎回、出席を取るので休まないこと。
２．講義開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　また、講義開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
３．講義中、グループごとのディスカッションと意見交換を行うことがある。
　　また、講義内容に関連した発言を求めることがあるので、積極的な発言を心掛けること。
４．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。

到 達 目 標

１．教育心理学の諸理論について基本的な考え方を理解している。
２．学修内容を踏まえて、考えを文章で表現することができる。
３．学修内容を踏まえて、発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教育心理学の諸理論についての理解度（70%）	教育心理学の諸理論について授業内容を超えた自主的な学修ができる。	教育心理学の諸理論についての授業内容をほぼ100%理解している。	教育心理学の諸理論について理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	教育心理学の諸理論について授業内容を最低限の理解をしている。	教育心理学の諸理論について授業内容の理解ができていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（20%）	説得力のある文章で考えを表現することができる。	論理的に矛盾のない文章で考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができる。	文章で最低限の考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができない。
根拠を示しながら発言・議論する力（10%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができるが、根拠の妥当性・信頼性が低い。	最低限の根拠を示しながら発言・議論ができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができない。

評価方法

・学期末試験 70%
・課題への取り組み（レポート等）20%
・授業中の議論や発言等 10%

テキスト

・教科書名：実践につながる教育心理学【改訂版】
・著者名　：谷口篤、豊田弘司　編著
・出版社　：八千代出版
・出版年（ISBN）：2021 年（978-4-7793-0654-9）

保育･教育課程論

～保育・教育活動の基盤となるカリキュラムについて考える～

大多和雅絵

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	必修	必修	必修

授 業 概 要

この授業では、保育や教育活動の基盤となるカリキュラムの編成について、その意義や目的を捉えたうえで、子どもたちの育ちと学びを支えるカリキュラムのあり方について考える。保育所、幼稚園における保育や教育課程の編成にかんする基本的な内容について、具体的なカリキュラムの展開が理解できるように講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の方法や進め方について）
第 2 回	カリキュラムとは何か
第 3 回	カリキュラムの意義と機能について
第 4 回	カリキュラムの変遷について
第 5 回	カリキュラムの編成について
第 6 回	子どもの発達と指導計画について
第 7 回	子どもの発達過程について
第 8 回	保育の目標と指導計画について①（保育の目標と全体的な計画）
第 9 回	保育の目標と指導計画について②（教育課程と保育）
第 10 回	保育の目標と指導計画について③（指導計画の作成）
第 11 回	保育の目標と指導計画について④（指導計画の実際）
第 12 回	保育記録・保育評価のあり方について
第 13 回	保育所・幼稚園の評価について
第 14 回	幼保小の連携について
第 15 回	授業のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の前に教科書を読み授業内容を確認して臨むこと。

・復習：授業内容を振り返り知識の定着を図ること。

履修上の注意

日頃から、保育所、幼稚園、小学校に関する新聞記事やニュースに関心をもつことが望ましい。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・保育所や幼稚園におけるカリキュラムの意義や機能を理解し、説明することができる。
・保育所や幼稚園におけるカリキュラムの理論と実践を踏まえて、具体的なカリキュラムについて考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
考察力（30%）	授業の内容にとどまらず発展的な内容にまで踏み込んで考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分のことばでまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	内容についての説明ができない

評価方法

学期末試験（70%）、授業内レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（10%）

テキスト

・教科書名：『保育・教育カリキュラム論』
・著 者 名：佐藤康富編著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978－4－909655－30－1）

発達心理学　～発達的理解とは何か～

鈴木　洋介

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	必修	必修	必修

授業概要

乳幼児期を中心とした心理機能の発生と発達について講義する。心理機能としては、認知運動、言語、社会性について取り上げる。また、理論的な理解にとどまらず、発達の個別性を理解するためにも、自分自身の育ちを振り返ったり、身近な人と話をしたり、周りの人の観察をしてほしいと考える。発達心理学は専門用語が多く、人名も多数出てくるので、予習・復習にしっかり取り組む必要がある。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　ー授業計画と学習の進め方ー
第 2 回	発達の基本的理解：発達、生涯発達、発達段階、遺伝と環境
第 3 回	胎生期における発達の理解および出生をめぐる現代的な問題
第 4 回	子どもの認知的発達（1）ピアジェの認知的発達理論①
第 5 回	子どもの認知的発達（2）ピアジェの認知的発達理論②
第 6 回	子どもの社会性とコミュニケーションの発達（1）ボウルビィのアタッチメント理論
第 7 回	子どもの社会性とコミュニケーションの発達（2）言語発達1
第 8 回	子どもの社会性とコミュニケーションの発達（3）言語発達2
第 9 回	子どもの社会性とコミュニケーションの発達（4）自己意識・他者理解・道徳性の発達
第10回	思春期・青年期の発達的変化
第11回	成人期の理解　アイデンティティの発達
第12回	発達におけるつまずき（1）限局性学習症、注意欠如多動症、自閉症スペクトラム症
第13回	発達におけるつまずき（2）発達障害への支援
第14回	児童虐待とアタッチメントの障害
第15回	子どもの発達的理解と保育士・教師としての対応

予習・復習

・予習：テキストの関連ページを読んでおくこと。
・復習：配布資料をファイルしつつ、関連する人名や心理学用語について理解しておくこと。

履修上の注意

１．毎回、出席を取るので休まないこと。
２．講義開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　また、講義開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
３．講義中、グループごとのディスカッションと意見交換を行うことがある。
　　また、講義内容に関連した発言を求めることがあるので、積極的な発言を心掛けること。
４．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
５．身近に乳幼児がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めるようにすること。

到 達 目 標

１．発達心理学の諸理論について基本的な考え方を理解している。
２．子どもの発達的理解を踏まえて、考えを文章で表現することができる。
３．子どもの発達的理解を踏まえて発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発達心理学の諸理論についての理解度 (70%)	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容の理解ができていない。
考えを文章で表現する力（レポート） (20%)	説得力のある文章で考えを表現することができる。	論理的に矛盾のない文章で考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができる。	文章で最低限の考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができない。
根拠を示しながら発言・議論する力 (10%)	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができるが、根拠の妥当性・信頼性が低い。	最低限の根拠を示しながら発言・議論ができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができない。

評価方法

・学期末試験 70%
・課題への取り組み（レポート等）20%
・授業中の議論や発言等 10%

テキスト

・教科書名：問いからはじめる発達心理学
・著 者 名：坂上裕子、山口智子、林創、中間玲子
・出版社名：有斐閣
・出 版 年：（ISBN）：2014 年（978-4-641-15013-3）

保育内容総論

～保育における「領域」を総合的に捉え、実践を構想する～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

乳幼児期の保育において育みたい資質・能力について学ぶとともに、遊びや生活を通して指導する保育の実際と指針・要領に示された領域のねらい及び内容のつながりが理解できるように指導する。特に前半は、子どもの権利を尊重した子ども主体の保育において、「養護と教育の一体的な展開」が不可欠であることを理解できるようにする。中盤は、遊びや生活を通した総合的な指導の構造・展開、及び小学校以降の教育とのつながりを理解できるようにすることに重点を置く。後半は、多様な子どもを理解するための基礎知識を踏まえ、集団としての生活や遊びへとつなげるための保育実践上の工夫を、学生自らが考えられるように講義していく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	**子どもの権利と保育実践①**―全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用して、実習で行った、又は観察した保育実践を振り返る。
第 2 回	**子どもの権利と保育実践②**―ロールプレイングを通して「子ども主体」を尊重した保育実践を考える。
第 3 回	**養護と教育の一体的な展開**―保育、養護、教育等、基本用語を確認し「保育」という言葉の意味を確認する。動画視聴を通して乳児・未満児保育の「3 つの視点」を理解する。
第 4 回	**保育内容の変遷と社会背景**―セサミストリートから 1960 年代以降の欧米・日本の教育の変遷を俯瞰し、「子ども主体」の保育が求められた社会的背景を知る。
第 5 回	**遊びを通した総合的な指導①**―キャンパス内での自然あそびを題材に認知／非認知の学びの意味を理解する。
第 6 回	**遊びを通した総合的な指導②**―ブンブンゴマ製作を題材に、遊びの中にある 5 領域の総合的な指導の概念を理解する。
第 7 回	**環境を通して行う子ども主体の保育①**―ブンブンゴマ遊びの展開から、環境を通して行う保育と子ども主体を支える「指導計画」の在り方を考える。
第 8 回	**環境を通して行う子ども主体の保育②**―「情報機器」を活用したウェブ型記録・計画の作成を通して、子ども主体の保育を構想する。
第 9 回	**小学校との接続を踏まえた保育①**―事例をもとに「幼児期の終わりまでに育てたい姿」設定の意図と社会的背景を理解する。
第 10 回	**小学校との接続を踏まえた保育②**―アナログゲームを題材に協同的な遊びを通して経験している学びを「10 の姿」の窓口から説明し、小学校以降の学びとの接続を考える。
第 11 回	**保育の多様な展開①**―インクルーシブ保育の意味、及び求められた社会的背景を学び、事例検討を通して特別な支援が必要な子どもを、学級全体の遊びへと誘うための保育実践を考える。
第 12 回	**保育の多様な展開②**―海外にルーツのある子どもとつながる遊びにふれる。ベイビーX の実験を踏まえて、ジェンダーニュートラリティに配慮した保育の必要性を学ぶ。
第 13 回	**社会の変化に応じた保育①**―アニメ・映画を題材に社会と子育て環境の変化にふれ、保育の長時間化を求められた社会的背景を理解する。
第 14 回	**社会の変化に応じた保育②**―保育現場の動画視聴を通して長時間化に応じた保育実践の工夫を学び、一人ひとりの生活の違いに応じた保育の展開について事例検討を行う。
第 15 回	**個と集団を生かす保育の展開・確認テスト**

予習・復習

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・試験では手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。

到 達 目 標

・乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。
・指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を自分なりの言葉で説明できる。
・保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、幼児期の育ち・学びを小学校低学年期の学習へとスムーズにつなげていくために配慮すべき総合的指導の具体例を構想できる。
・子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した集団保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。(20%)	乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解し、実践例を説明できる。	乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。	養護と教育という言葉は理解しているが、その一体的な展開の意味を理解していない。	養護と教育という言葉・概念を理解していない。	養護と教育という概念理解度を問う課題を提出しない。
「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を自分なりの言葉で説明できる。(20%)	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を十分に理解し、実践例を説明できる。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を説明できる。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を説明できない。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を理解していない。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」の理解度を問う課題を提出しない。
保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。(20%)	保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を創意工夫を凝らして作成できる。	保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。	保育における計画・評価の考え方を理解したうえで、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できない。	保育における計画・評価の考え方を理解していない。	保育における計画・評価の考え方の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期の保育と小学校の教科教育とのつながりを理解している。(20%)	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとスムーズにつなげていくための総合的な指導の実践例と意義を説明できる。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとスムーズにつなげていくための総合的な指導の実践例を説明できる。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習につなげるための配慮の必要性は理解しているが、実践例を構想することができない。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとつなげていくための配慮の必要性を理解していない。	幼児期の育ち・学びと低学年期の学習のつながりについて、理解度を問う課題を提出しない。
子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した集団保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。(20%)	子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、他者が理解できるように説明できる。	子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。	子どもの多様性を理解しているが、一人ひとりの権利を尊重した保育の具体例が構想できない。	子どもの多様性、及び子どもの権利を理解していない。	子どもの多様性、及び子どもの権利の理解度を問う課題を提出しない。

評価方法

授業態度　40%、試験 40%、授業内レポート　20%

テキスト

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。・参考テキストを初回授業で提示する。
ただし、平成 29 年告示版『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』はいつでも参照できるように準備しておくこと。

保育内容(健康)　～休養・栄養・運動と生活リズム～	宮本雄司

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・幼稚園教育要領および保育所保育指針における、心身の健康に関する領域の「健康」を中心に、その内容を理解するように講義する。
・乳幼児期の子どもの健康について、からだと心の発育・発達、体力・運動能力と動きの獲得、休養(睡眠)・栄養(食事・排便)・運動(あそび)の側面から、規則正しい生活というものを具体的に考えていく。
・体型・視力・足のトラブルといった課題と対応策を学び、公園あそびの留意事項、安全に関する事項を理解するとともに、行政職員としての実務経験に基づき、子どもの健康と関連する法律・計画・ガイドラインなどの具体的事例について講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、子どもの健康とは
第 2 回	領域「健康」のねらいと内容
第 3 回	子どものからだと心の発育・発達
第 4 回	子どもの体力・運動能力と動きの獲得
第 5 回	幼児期の生活リズム①（休養）
第 6 回	幼児期の生活リズム②（栄養）
第 7 回	幼児期の生活リズム③（運動）
第 8 回	子どもの体型（やせ・肥満の実態と予防・改善方法）
第 9 回	子どもの視力（視力低下の要因と予防方法）
第10回	子どもの足（足型測定と靴の選び方・履き方）
第11回	公園あそび・固定遊具あそび
第12回	安全管理・安全教育
第13回	子どもの健康と関連する法律・計画・ガイドライン
第14回	保育者の役割と保育者自身の健康
第15回	まとめ

予習・復習

・予習：授業中に指示された教科書の該当ページを読み、内容を理解しておくこと。

・復習：授業中の重要ポイントを振り返り、現代社会の課題と関連付けて自分の考えをもつ。

履修上の注意

・授業時に必ず教科書を持参すること。
・やむを得ない理由による遅れの場合を除き、原則、遅刻は認めない。

到 達 目 標

①子どもの健康と身体的発育について理解する。
②子どもの生活習慣（休養・栄養・運動）について理解する。
③保育・幼児教育における安全管理・安全教育を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
課題発見と解決方法への考察（30%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自で課題発見と解決方法について考察することができる。	参考にするものがあれば、課題発見と解決方法について考察することができる。	助言を受けながら、課題発見と解決方法について考察することができる。	助言があっても、課題発見や解決方法について考察することができない。
授業への積極性（20%）	自ら積極的に行動するだけでなく、周りの状況に配慮することができる。	授業内で主体的に発言し、積極的に取り組むことができる。	授業内での発言や、積極的に取り組もうとする意欲がある。	授業内では、最低限の発言や取り組みはみられる。	授業内で学修への関わりが消極的である。

評価方法

筆記試験 50%、レポート提出 30%、授業内での発言 20%

テキスト

・教科書名：〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ　保育内容・領域　健康
　　※「子どもと健康」の教科書と同じもの
・著 者 名：清水将之、相楽真樹子
・出版社名：わかば社
・出 版 年：2018 年　（ISBN：978-4-907270-21-6）
・その他、必要に応じてプリントを配布

保育内容(人間関係)　～子どもと保育者でつくる人間関係～　岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の映像資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように指導する。そしてそれを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を指導する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第 2 回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第 3 回	保育における「人間関係」を学ぶ-領域「人間関係」-
第 4 回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第 5 回	新入園児と保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 6 回	遊びを支える保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 7 回	こどもが遊びに夢中になるになる人間関係-グループで事例検討-
第 8 回	こどもの一人遊びを捉える-グループで事例検討-
第 9 回	こどもの創造性を支える人間関係-グループで事例検討-
第 10 回	一人のこどもと関わる保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 11 回	年齢別のこどものケンカの意味を探る-グループで事例検討-
第 12 回	見せる保育とは？-グループで事例検討-
第 13 回	行事に向けたこどもと保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 14 回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第 15 回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

履修上の注意

・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
・グループワークでは、グループ内での積極性を重要視する。

到 達 目 標

・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解出来る。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容について理解出来ていない。
課題解決能力（20%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題を解くことができる。	自身の力で課題を解くことができる。	教科書や他者の意見を参考にすれば課題を解くことができる。	他者からアドバイスを受けることで課題を解くことができる。	他者のアドバイスや教科書があっても課題を解決する事ができない。
課題を文章で説明する力（レポート）（50%）	他者を説得する内容が記述する事ができる。	論理が通った説明文を記述する事ができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。

評価方法

学期末試験 60%　　授業内グループワーク 30%　　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ-第２版
・著 者 名：編者：横山真貴子
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2021 年　978-4-909378-29-3

保育内容(環境)　～知識と感性の獲得を目指して～

伊藤　能之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	必修	必修	－	必修

授 業 概 要

保育内容（環境)」について領域内容についての理解を深めることを目的とする。より具体的に「環境を通した保育」の意味、「遊びをとおして通した保育」の意味について学ぶ。その際、より実践を意識し、遊びを発展させるには具体的にどのように環境を構成すればいいのか等について指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	領域の意味、および総合性という言葉について考える
第 2 回	指導計画におけるねらいと内容の意味
第 3 回	環境の持つ意味についての実践的理解
第 4 回	教材研究としてのモノと関わる遊びについて
第 5 回	園全体の環境　保育課程、長期指導計画としての環境
第 6 回	環境を構成する教材研究としての自然との関わり
第 7 回	指導案作成Ⅰ　自然との関わりから
第 8 回	指導案作成Ⅱ　環境構成の視点から
第 9 回	指導案作成Ⅲ　人的環境、物的環境の意味
第 10 回	模擬保育Ⅰ　指導案の具現化という視点から
第 11 回	模擬保育Ⅱ　自己評価という視点
第 12 回	模擬保育Ⅲ　ねらいと内容の具現化という視点
第 13 回	遊びを構成する環境の位置づけ
第 14 回	実践事例からの学び
第 15 回	まとめ　環境に関する現代的諸問題

予 習 ・ 復 習

・予習：・予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。

・復習：教科書の該当箇所を読み直し、授業内容を確認すること。

履修上の注意

定時に出席を取る。遅刻は３０分以内までの者とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。

到 達 目 標

環境構成の視点を意識し、指導案を作成し、模擬保育を通して、環境の理解を意味し、保育実践につなげることができるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
立案能力（　40%）	指導計画の意味を理解し計画を立てることができる	指導計画の意味を理解いる	指導計画の意味が一部不十分である	指導計画の意味の理解にかける	指導計画の必要性を理解していない
感性（　30%）	子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	やや子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	環境に対する感性は身に付けている	環境に対する感性の理解がやや不足している。	環境に対する感性がおおきくかけている。
技術的達成度（　30%）	授業で得た知識をもとに保育行為を実践できる。	授業で得た知識をもとに保育行為を部分的に実践できる	サポートがあれば保育行為を実践できる	保育行為実践の際、大幅はサポートを必要とする	サポートがあっても保育行為を実践ができにくい。

評価方法

筆記試験の結果 70%、授業態度 30%とする。欠席が 3 分の 1 を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

・教科書名：「コンパス保育内容　環境」高橋貴志、目良秋子編著　建帛社　2018 年
・著 者 名：高橋貴志、目良秋子編著
・出版社名：高橋貴志、目良秋子編著
・出 版 年（ISBN）：2018 年　978-4-7679-5060-0

保育内容(言葉)　～子どもの言葉の発達を理解し支える～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的・ねらい・内容について、および0歳から5歳までの具体的な子どもの姿を理解した上で、乳児・幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育活動を構想し、指導方法の立て方を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　―演習授業の特徴・保育の基本と保育の専門性― 保育内容（言葉）とは…シラバスの内容説明（授業シート配布）
第 2 回	言葉の発達理論① 言葉の獲得を支える環境…メディア・文化財の関わりについて
第 3 回	言葉の発達理論② 乳幼児の言葉の発達を支えるさまざまなもの
第 4 回	言葉の発達理論③ 話し言葉の機能と発達、書き言葉の発達と保育
第 5 回	児童文化財① 絵本と紙芝居…共通点と相違点、種類と活用例
第 6 回	児童文化財② さまざまなシアター教材…ペープサートの制作
第 7 回	児童文化財③ ペープサートの実演と活用時の留意点（指導案作成に向けて）
第 8 回	言葉あそび① 言葉あそび教材の種類と特徴、活用が求められている背景
第 9 回	言葉あそび② 言葉あそびの実践
第10回	児童文化財④ 日本の「子どもの本」の歴史―絵本を中心に―、「素話」の意義と練習
第11回	児童文化財⑤ 「素話」の実演
第12回	指導法① 絵本の読み聞かせの仕方と絵本の選び方
第13回	指導法② 読み聞かせの練習と「指導案」の説明
第14回	指導法③ 指導案の作成と絵本の読み聞かせ実演
第15回	指導法④ 絵本の読み聞かせ実演と指導案の修正と提出

予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演や発表の準備

・復習：制作物の改良や授業内容の振り返り

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・グループワークを含む実演に際しては、事前によく相談して、十分に練習してから臨むこと。
・制作物の準備や改良は、授業時間外に行うこと（他の授業時も同様）。
・制作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・保育内容の領域「言葉」の意義、ねらい、内容を踏まえて子どもの発達を理解する。
・領域「言葉」に関する具体的な場面を想定して教材を選択し、指導法を作成できる。
・児童文化財（絵本・言葉あそび・シアター教材等）について、実演を含む基礎的な知識を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（30%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
保育活動の企画力と文章表現力（指導案、レポート）（30%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	欠点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	欠点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな欠点がある
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目だつ
保育教材制作力（ペープサート・言葉あそび教材）（10%）	時間内に独創的で模範的な教材を作成できる	時間内に保育のねらいに沿う教材を作成できる	時間超過だが、ねらいに沿う教材を作成できる	時間超過で独創性にも欠けるが課題は提出する	提出しない、または提出期限を大幅に超過する

評価方法

・実技など授業時の課題（ペープサート、言葉あそび、絵本の読み聞かせ、素話、指導案など）　50%
・課題レポート 30%
・受講態度（「授業シート」の記載内容を含む）20%

テキスト

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著者名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出版年（ISBN）：2022 年（4623092518）

保育内容(表現･音楽)

～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について，『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・実践的に理解を深めるとともに，その指導法を修得できるようにする。また，子どもの学びの連続性を確保するためには，保幼小連携の視点が大切となる。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして，保幼小連携の在り方についても考える。また，楽器の奏法や歌唱，創作活動，舞台発表については，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，楽器で奏でる①～太鼓あそび及び太鼓の基本奏法，声で奏でる①わらべうたあそび～
第 2 回	楽器で奏でる②～長胴太鼓と小締太鼓でアンサンブルをつくろう（創作お囃子）～
第 3 回	楽器で奏でる③～創作お囃子の「なか」の部分を完成させよう～
第 4 回	楽器で奏でる④～創作お囃子を練る～
第 5 回	楽器を奏でる⑤～創作お囃子を完成させる～
第 6 回	舞台発表のリハーサル及び本番（舞台セッティング・演奏・舞台撤去等の体験）
第 7 回	舞台発表の振り返り，世界の音楽教育メソッドを知る，手で奏でる・身体で奏でる①～手話の歌～
第 8 回	手で奏でる・身体で奏でる②～手あそび・リトミック～
第 9 回	声で奏でる②～童謡をア・カペラで 100 曲演習～
第 10 回	楽器で奏でる⑤～様々な打楽器の音を聴き，基本奏法を知ろう～
第 11 回	身近な素材で奏でる①～身の回りの音素材探し（ICT の活用を含む）～
第 12 回	身近な素材で奏でる②～身の回りの音から音楽へ（ICT の活用を含む）～
第 13 回	絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え，絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 14 回	絵本と音楽～好きな絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 15 回	絵本に音・音楽をつけながら読み聞かせの発表をしよう

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。
・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるよう，継続して練習すること。さらに，理論については難しい内容もあるため，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
・グループやペアなど仲間と協力して音楽づくりを進めること。
・積極的に様々な音楽表現を体験すること。
・遅刻３回で１欠席扱いとする。

到 達 目 標

・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
・童謡 100 曲（歌），幼児が親しみやすい打楽器の奏法技能，即興表現の能力，音・音楽づくり(創作)能力を修得する。
・想像力と創造力を伸ばす。
・世界の音楽教育メソッドについて理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫（20%）	日頃から日常に溢れる音を意識して聴き、音楽表現や保育の中でどのように生かすことができるかを考え、創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持ち、創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持つことはできるが、創作活動に生かすことはあまりできない。	身の回りの音にあまり関心を持つことができず、創作活動に生かすはほぼできない。	身の回りの音に全く関心がなく、自分の考えて創作活動をすることができない。
歌唱表現の技能（期末試験）（10%）	指定数以上の曲を覚え，どの曲も正しく歌うだけなく，イメージなども考え表現することができる。	指定数の曲を覚え，どの曲も正しい音程・リズムで歌うことができる。	指定数の曲を覚え，歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	指定数の曲を覚えたが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	指定数の曲を覚えておらず，元々知っている曲以外は歌うことができない。
器楽表現の技能（期末試験）（30%）	楽器の奏法を理解し，自由に演奏することができる。	楽器の奏法を理解し，演奏することができる。	楽器の奏法は理解しているが，上手く演奏することはできない。	楽器の奏法を理解しているものもあるが，自己流のものもあり上手く演奏することができない。	楽器の奏法は全く理解しておらず，自己流で音を鳴らすことしかできない。
音楽教育についての理解度（レポート）（20%）	世界の様々な音楽教育に関心を持ち、その内容を十分に理解した上で、保育にどのように生かすことができるかを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち、内容を理解し、保育との繋がりを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち、大まかな内容は理解しているが、保育との繋がりを考えることはあまりできない。	世界には様々な音楽教育があることは理解しているが、内容及び保育との繋がりに関する理解は乏しい。	世界の音楽教育に関心がなく、保育との繋がりがあることを理解することができない。
学習意欲（20%）	グループ活動の際にリーダーを務め、話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し、積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際、意見を求められたらいうことはできるが、授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められても，ほとんど何も発言することがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際、その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず、授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

実技試験（40%），絵本と音楽表現発表（20%），レポート（20%），学習態度・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：(仮)『保育者のための表現あそび　ー音楽・身体・造形のアイディアー』
・著 者 名：若谷啓子・桐原礼・齊藤淳子・渡辺敏明↑今年の７月に発行予定で、著書名がまだ決定していません。価格も未定です。
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：978-909655-70-7
＊その他，適宜，資料を配布する（Ａ４ サイズのスクラップブックを準備すること）

保育内容(表現･造形) I　～子供に関わる造形表現の基礎～　木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	1	選択	必須	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創 造性を豊かにするための授業である。そのために、自分が表現するだけではなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、 授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業スケジュールと材料・用具の説明(情報機器及び教材の活用を含む)
第 2 回	色紙を使った「自分の名前デザイン」
第 3 回	色彩表現 I 色の三原色を使った色彩あそび
第 4 回	色彩表現 II 色の三原色と白・黒を使った色彩あそび
第 5 回	色彩表現 III 色の三原色を使った絵画あそび
第 6 回	色紙と絵具を使った絵画遊び
第 7 回	幼稚園教育要領について
第 8 回	絵の活動を考える I 幼稚園でできる絵画の製作
第 9 回	絵の活動を考える II 幼稚園での絵画活動 導入のプレゼンテーション
第 10 回	絵の活動を考える III クラス単位での模擬授業
第 11 回	絵の活動を考える IV クラス単位での壁面装飾風共同制作
第 12 回	絵画制作 ごしごしあそび かたつむりを描く
第 13 回	絵画制作 どこから描いたらいいのあそび
第 14 回	絵画制作 こすりだしあそび フロッタージュなどの技法習得
第 15 回	おなまえ絵本制作

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

造形活動を楽しむことができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
指導者の立場で活動を考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品(80%)
レポート(20%)

テキスト

・教科書名：子どもの造形表現―ワークシートで学ぶ
・著 者 名：:畠山智宏・ 北沢昌代・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出 版 年（ISBN)：第 2 版 2019 年（978-4876035182）

保育内容(表現・造形)Ⅱ
～保育者の視点と子どもとの視点を生かした造形表現の実践～

佐藤　牧子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	－	選択必修

授業概要

授業を通して、学生自身が心身を開放して造形表現を楽しむこと、その際に感じたこと・気づいたこと・考えたことを、保育者の視点と子どもの視点をもって考察することにより、多様な子どもの個性に寄り添う造形表現活動を実現できるようになることを目指す。その為に、素材・画材・技法、環境等の理解を深め、環境を通して行う保育における造形表現活動を構造的に捉えられるようになるよう指導する。

さらに、授業を通して学んだことやポートフォリオ等の記録を生かして、幼児の造形表現活動を「立案-計画」し、模擬保育として「実践」する。実践後の振り返りを通して、造形表現活動の面白さを再認識して、今後の実践に生かすことができるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス、○○風 自己紹介カードの作成と発表
第 2 回	「色であそぶ」 ～色を捉える～
第 3 回	「光・影であそぶ」 ～光や影、形を捉える～
第 4 回	「ポートフォリオの制作①」 ～見せる記録を作る～
第 5 回	「紙コップ・紙皿であそぶ」 ～身近な造形素材の可能性を探る～
第 6 回	「自然物であそぶ」 ～身近な自然素材を造形素材として捉える～
第 7 回	「ポートフォリオの制作②」 ～見せる記録を作る～
第 8 回	「スクラッチであそぶ」 ～表現技法を通して身近な環境を見つめ直す～
第 9 回	「スノードーム作り」 ～学んだことを生かして自分の世界を創造する～
第10回	「ポートフォリオの制作③」 ～見せる記録を作る～
第11回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育①」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第12回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育②」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第13回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育③」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第14回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育④」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第15回	まとめ、振り返り

予習・復習

・予習：次回の授業内容に合わせて、教科書や資料に目を通し、イメージもって授業に参加すること。
　　必要に応じて、素材を集めたり、活動内容を考えたりするなどの準備を行って参加すること。
・復習：リフレクションやポートフォリオで得た「気づき」と「課題」を次の授業や実践に生かすこと。
　　造形表現の見方・考え方を生かして、日常生活や身近な環境を見つめ直すこと。

履修上の注意

・保育内容（表現・造形）Ⅰの履修者が受講する。
・共通のスケッチブック（B4）を使用する。
・デジタルカメラ（スマーフォフォン可）を必ず持参する。
・ハサミ・のり・クレヨン・絵の具などの画材・道具や、使用する素材については都度指示する。
・遅刻 30 分で欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。
・事情があり遅刻・欠席をする場合は、課題に代えるので、前もって連絡すること。

到 達 目 標

・造形表現活動の面白さ（醍醐味）を保育者の視点と子どもの視点をもって体験して理解を深める。
・素材、画材、技法、環境等の理解を深め、保育における造形表現活動を構造的に捉えて、多様な活動を立案・展開できるようになる。
・ポートフォリオの作成を通して、人に見せることを意識した記録が作れるようになる。
・子どもの多様な個性に応えられるような造形表現活動を具体的に立案-計画-実践できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度［リフレクションシート等］(25%)	考察を元に、次の活動に生かすための具体的な考えやアイデアを示すことができる。	感じたこと、気づきを元に、考察ができる。	感じたこと、気づきを書くことができる。	感じたことを書くことができる。	リフレクションシートの提出がない。
創造力［全体］(25%)	オリジナリティーのある実践可能な活動と展開を考えることができる。	積極的に多くの活動や展開を考えることができる。	活動に加えて、展開を考えることができる。	最低限の活動を考えることができる。	受動的態度で、創造的な姿勢がない。
表現力［ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・模擬保育等］(25%)	場に応じたオリジナリティーのある表現ができる。	相手の理解と興味を引き出す表現ができる。	自己表現ができる。	最低限の説明ができる。	ポートフォリオの作成、模擬保育に取り組んでいない。
実践力［模擬保育等］(25%)	計画に基づきながらも、場面に応じて応答的な実践を行うことができる。	計画段階で多様な予測を立て、実践することができる。	計画したことを実践することができる。	最低限の実践ができる。	模擬保育を実践していない。

評価方法

提出課題（60%）　学期末試験（30%）　授業態度（10%）

テキスト

・教科書名：『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第 2 版』
・著 者 名：北沢昌代・畠山智宏・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出 版 年（ISBN）： 2019 年

子どもと健康　～子どもの「健康」にむけて～

小山内弘和、宮本雄司

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修		

授業概要

保育内容の領域「健康」のねらい・内容を基に、子どもの発達や特徴と生活習慣の結びつきや安全管理の観点から理解するよう、保育者の役割について講義する。幼児期に健康な心と体を身に付けるために必要な知識や技能を養うための保育を検討・実践できるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	「子どもと健康」のオリエンテーション:　子どもと健康の授業の進め方と注意事項を伝達する。
第 2 回	健康の定義と幼児期の健康の意義：　健康の概念について学習するとともに、子どもにとっての健康について知る。
第 3 回	乳幼児期の体の発達と運動発達の特徴などの健康課題：　子どもの健康を考えるにあたり、幼児期の子どもの身体的な発達について知る。
第 4 回	乳幼児の心の発達と基本的な生活習慣の形成とその意義：　子どもの健康を考えるにあたり、幼児期の子どもの心の発達を知るとともに、基本的な生活習慣について知る。
第 5 回	乳幼児の健康、心と体や生活習慣ついての課題と対策の検討（ICT の活用を含む）：　子どもの健康、生活習慣の疑問についてＩＣＴやインタビューを用いて掘り下げる。
第 6 回	幼児の安全教育・健康管理に関する基本：　子どもの安全を守るために必要な安全教育と安全管理について知る。
第 7 回	幼児期のケガの特徴：幼稚園・保育園・こども園での子どものケガの特徴について、年齢別・固定遊具別のデータを読み解くことから学び、ケガを防ぐための留意点について考える。
第 8 回	危険の理解と安全管理、リスクとハザード：　危険について理解を広げるために、リスクとハザードについて学び、その違いについて知る。
第 9 回	園外保育における安全管理：園外保育として移動する際の交通安全や、公園・児童遊園での衛生管理や固定遊具での事故防止、点呼確認、事故発生時の対応方法について学ぶ。
第 10 回	乳児期の安全管理、健康管理についての検討（ICT の活用を含む）：　子どもの安全、けが、リスクとハザードについてＩＣＴやインタビューを用いて掘り下げる。
第 11 回	乳幼児期の運動発達の特徴、意義と注意事項：　子どもにとって必要な運動を学習するとともに、意識すべき内容について知る。
第 12 回	固定遊具を使った運動あそび指導の留意事項：固定遊具を使った運動あそびのレパートリー紹介や、子どもの年齢や発育・発達に応じた留意事項について学ぶ。
第 13 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　①作成（ICT の活用を含む）：　学習した内容を踏まえた運動遊びをグループで作成する。
第 14 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　②発表・実践：　学習した内容を踏まえて作成した運動遊びを発表し、実践する。
第 15 回	「子どもと健康」のまとめ

予習・復習

日常の運動習慣は、実技での活動の基礎となる。より充実したスポーツ活動を進めるために以下の事を心がける事。

・予習：必要な授業内容を確認し、授業に備える。特に、事前配布資料については必ず準備をした上で授業に臨むこと。

・復習：学習内容を再度確認し、学習内容の定着に繋げる。特に事前準備をした内容については、授業内での再確認を忘れないこと。

履修上の注意

・遅刻は3回で欠席1回とする。
・話し合いには積極的に参加し、自分の意見と他者の意見を摺り合わせる中で学びを深めていくように努力すること。

到 達 目 標

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。

- 乳幼児期の健康課題、健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
- 乳幼児期の体の発達的特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
- 幼児期の安全教育・健康管理の基本を理解し、幼児期のけがの特徴や病気の予防について説明できるとともに、危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理を理解する。
- 日常生活における幼児の動きの経験や多様な動きを獲得することの意義を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（15%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（15%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業への積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
授業での協調性（10%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的な取り組みがやや消極的である。	授授業内での学習に協調的な取り組みが消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みがみられない。

評価方法

テスト（筆記、レポートまたは発表）：50%
提出物：30%
授業への貢献度、授業態度、発表：20%

テキスト

教科書名：〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ　保育内容・領域　健康、
著 者 名：清水将之、相楽真樹子、
出版社名：わかば社、出 版 年：2018年
ISBN　9784907270216

子どもと人間関係　～「わたし」から「わたしたち」へ～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解できるように講義する。適時、DVD の視聴を通して子どもの育ちの姿について講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	現代社会と人間関係－時代や場所、社会システムとの関係について－
第 2 回	人間関係を築くのに必要な力－乳幼児期の経験とその後の人間関係について－
第 3 回	保育における「人間関係」－領域「人間関係」について、他の領域との関連について－
第 4 回	保育者が作る「人間関係」－子ども・保護者・地域や専門機関などとの関係について－
第 5 回	3 歳未満児における人間関係の発達－身近な大人との関係について－
第 6 回	3 歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－
第 7 回	4 歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－
第 8 回	5 歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－
第 9 回	6 歳児の「人間関係」－遊びや生活を通した人間関係、保護者との関わりについて－
第 10 回	幼保小の接続－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係について－
第 11 回	多様化する「人間関係」－模範意識・道徳性、多様な価値観等について－
第 12 回	グループワーク－発達過程における人間関係の育ちを考察する（指導案作成）－
第 13 回	グループワーク発表①－グループ 1～5－
第 14 回	グループワーク発表②－グループ 6～10－
第 15 回	まとめ－育ちゆく保育者としての学びあい－

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・分散登校等により、授業内容が変更する可能性がある。

到 達 目 標

① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。

② 幼児期の遊びやの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。

③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足はある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解が出来ていない。
文章で説明する力（レポート）（60%）	他者を説得する内容が記述できる。	論理が通った説明分を記述することができる。	不足する点があるが説明文を書くことができる	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない

評価方法

学期末試験 50%　　授業内課題（発表）30%　　受講態度 20%

テキスト

・教科書名：子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ
・著 者 名：編者：横山真貴
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2021 年　　978-4-909378-29-3

子どもと言葉　～領域「言葉」に関する専門的な知識を学ぶ～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的、ねらい、内容について、0歳から5歳までの具体的な子どもの姿と結びつけながら理解し、保育者の役割について講義する。また、幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育を構想し実践する方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス① ・子どもと言葉とは…シラバスの内容説明（「授業シート」配布） ・言葉をめぐるワークショップ：人間と「言葉」
第 2 回	ガイダンス② ・保育の「5領域」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」
第 3 回	言葉の特徴と機能① ・言葉の豊かさと日本語の特徴について、言葉あそび「早口言葉（外郎売り）」に挑戦
第 4 回	言葉の特徴と機能② ・言葉の３つの機能―伝達、思考、行動調整―
第 5 回	言葉の発達理論① ・「言葉の機能」を子どもの姿（事例や映像）で確認し理解を深める
第 6 回	言葉の発達理論② ・各年齢の特徴と発達の道すじ
第 7 回	言葉の発達理論③ ・「言葉の発達理論」を子どもの姿（映像）で確認し理解を深める ・配慮を必要とする子ども①障害、虐待、成長過程の問題
第 8 回	「教育要領」「指針」① ・領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い
第 9 回	「教育要領」「指針」② ・領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いの「確認テスト」 ・配慮を必要とする子ども②日本語を母語としない子どもと家族
第10回	教材理解と実践① ・言葉を育てる児童文化財の種類と特徴、紙芝居のグループ分け発表
第11回	教材理解と実践② ・紙芝居の歴史や種類と、実演に向けて演じ方の理解
第12回	教材理解と実践③ ・紙芝居実演における「指導案」の書き方、指導案課題の提示
第13回	教材理解と実践④ ・紙芝居のグループ実演（練習）と指導展開の省察
第14回	教材理解と実践⑤ ・紙芝居のグループ実演（練習）と指導案の下書き提出
第15回	教材理解と実践⑥ ・紙芝居のグループ実演（本番）と事後考察、指導案の清書と提出

予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演の準備や練習

・復習：授業内容の振り返り

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・遠隔（リモート）授業課題は“提出期日”がある。期日を過ぎた場合は「欠席」とみなす。
・実演を含むグループワークに際しては、事前に十分に練習してから臨むこと。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・言葉の意義と機能、幼児の言葉の発達過程と言葉の機能を説明できる。
・言葉の感覚を豊かにする実践の基礎を身につけ、幼児の発達の姿を意識して説明できる。
・幼児の発達における児童文化財の意義を学び、実演を通して基礎的な知識を身につける。
・教育活動のねらいや展開を理解し、指導案を作成できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（60%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
教育活動実践力（紙芝居など）（20%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目だつ
教育活動の企画力と文章表現力（指導案）（20%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	欠点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	欠点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな欠点がある

評価方法

・学期末試験（筆記、持ち込み不可）　70%
・実技など授業時の課題（言葉あそび、確認テスト、指導案、紙芝居実演など）　20%
・受講態度（「授業シート」の記載および「遠隔課題」の正答率を含む）10%

テキスト

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著者名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出版年（ISBN）：2022 年（4623092518）

子どもと表現　～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～	木谷･齊藤･宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	前期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解
第 2 回	乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解(担当:宮澤)
第 3 回	イメージを音や声で表現する(担当:宮澤)
第 4 回	子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開(担当:宮澤)
第 5 回	豊かな音楽活動―音楽表現から総合的な表現への広がり―(担当:宮澤)
第 6 回	乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解(担当:木谷)
第 7 回	子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開(担当:木谷)
第 8 回	イメージを色や形で表現する(担当:木谷)
第 9 回	豊かな表現活動―造形表現から総合的な表現への広がり―(担当:木谷)
第 10 回	子どもの身体表現と身体的発達の理解(担当:齊藤)
第 11 回	イメージを身体で表現する(担当:齊藤)
第 12 回	子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開(担当:齊藤)
第 13 回	豊かな表現活動―身体表現から総合的な表現への広がり―(担当:齊藤)
第 14 回	音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動
第 15 回	第 15 回 表現活動における ICT の活用と学習の総括

予 習 ・ 復 習

・予習:様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。

・復習:子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。

履修上の注意

・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
・遅刻 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。

到 達 目 標

(1)子どもの表現の姿や、その発達を理解する。
(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの表現の姿や発達の理解(30%)	子どもの表現の姿や発達について十分に理解し、その内容から自らの気付きや考えを深めることができる。	子どもの表現の姿や発達について十分に理解している。	子どもの表現の姿や発達についておおむね理解している。	子どもの表現の姿や発達についての理解が不十分である。	子どもの表現の姿や発達について全く理解していない。
表現の基礎的な知識・技能を生かした思考力・表現力(30%)	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動においてイメージ豊かに思考・判断・表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において自分なりに思考・判断・表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において指導者のアドバイスをもとに思考・判断・表現することができる。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能と、表現活動における思考・判断・表現の結びつき付きがあやふやである。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能が定着しておらず、表現活動における思考・判断・表現も不十分である。
総合的な表現活動の考案力・発表力(40%)	幼児が表現を楽しみ、感性や創造性を育めるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	幼児が表現を楽しめるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分である。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分で、発表の説明も分かりにくい。	総合的な表現の活動の意味を理解せず、活動案の作成は不十分な上、発表で使用する教材・教具の準備も不十分で、説明も分かりにくい。

評価方法

・リフレクションシートの記述内容(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【子どもの表現の姿や発達の理解】
・授業における表現活動の過程と発表(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【表現の基礎的な知識技能を生かした思考力・表現力】
・総合的な表現活動の活動案と発表（40%)：期末試験　活動案 20%、発表 20%
…評価項目【総合的な表現活動の考察力・発表力】

テキスト

①音楽　・教科書名：保育者養成のための子どもと音楽表現
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版
・出 版 年（ISBN)：2021 年（978-4910472270)
②造形　・教科書名：ずこうことばでかんがえる
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：HH.A.B.
・出 版 年：(ISBN)：2022 年（978-4990759667)
③身体表現・教科書名：幼稚園教育要領解説〈平成 30 年 3 月〉
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：フレーベル館
・出 版 年（ISBN)：2018 年（978-4-577-81447-5)

子どもと環境　～子どもの視点たつ環境の捉え～	伊藤　能之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	必修	－	－

授 業 概 要

子どもが主体的に環境に関わることの意味を考え、保育者としての環境設定について考える。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業のねらい、到達目標、評価等についてのガイダンス）
第 2 回	子どもにとっての人的環境、物的環境、社会的環境について考える。
第 3 回	子どもが主体的な環境との関わりを間接教育の視点から考える。
第 4 回	子どもが主体的な環境との関わりを誘導保育の視点から考える。
第 5 回	子どもとって身近な自然を大学周辺部の自然から捉える。
第 6 回	子どもにとって身近な動植物について映像教材から学ぶ。
第 7 回	地域行事が子どもにとってどのような意味を持つかについて考える。
第 8 回	異文化体験について事例・映像教材から学び、合わせて日本の文化について考える。
第 9 回	伝承遊び等を実際に体験することにより、子どもの感性を理解する。
第 10 回	地球環境問題を子どもの視線でとらえる。
第 11 回	子どもが興味を持つ文字、標識等を地域から探る。
第 12 回	日常生活から自然の変化を探り、子どもにとっての季節の意味を考える。
第 13 回	子どもの安全と環境との関係を事例を通して考察する。
第 14 回	子どもたちの取り巻く環境を、家庭、地域、施設の視点から考える。
第 15 回	まとめおよび保育内容「環境」における現代的課題

予 習 ・ 復 習

・予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針の「環境」にあたる箇所をよく読んでおくこと。

・復習：保育の総合性を念頭に各領域との総合的に関連づけること。

履修上の注意

定時に出席を取る。遅刻は３０分以内までの者とする。電車の遅延などは、大きな事故などの例外を除いて原則認めない。

到 達 目 標

子どもを取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについて感性、知識、技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理論的理解度（ 40%）	授業内容を理解し、自ら課題をもって進めることができる。	授業内容を理解する。	授業内容の理解に欠けるところがある。	授業内容の理解が多くの面において不十分である。	授業の主たるテーマを理解していない。
技術的達成度（ 30%）	授業で得た知識をもとに保育行為を実践できる。	授業で得た知識をもとに保育行為を部分的に実践できる	サポートがあれば保育行為を実践できる	保育行為実践の際、大幅はサポートを必要とする	サポートがあっても保育行為を実践ができにくい。
感性（ 30%）	子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	やや子どもの目線にたって環境をみつめることができる。	環境に対する感性は身に付けている	環境に対する感性の理解がやや不足している。	環境に対する感性がおおきくかけている。

評価方法

筆記試験の結果 70%、授業態度 30%とする。欠席が 3 分の 1 を超える学生は受験資格がないので留意すること。

テキスト

・教科書名：基礎から学べる保育内容「環境」
・著 者 名：田中卓也他　編著
・出版社名：編著　あいり出版
・出 版 年（ISBN）：2021 年　978-4865550870

初等教科教育法(国語) ～模擬授業で指導力を高めよう～

佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択	－

授業概要

国語科の目標を理解した上で、実践的な指導力を身につけるための基礎的な力を養う。特に、学習指導要領下のこれからの国語教育の内容と方法について具体的に学んだ上で、国語科の教材研究、評価を含めた授業実践ならびに授業研究に向けての下地をつくることをねらいとして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　履修説明、講義の目的、模擬授業の進め方について
第 2 回	教材研究と学習指導案　教材研究とは何か、学習指導案と教材研究の関係
第 3 回	学習指導案と授業　学習指導案とは何か、本時案と授業の流れ
第 4 回	教材研究と指導案作成　１年生
第 5 回	模擬授業の発表と協議　１年生
第 6 回	教材研究と指導案作成　２年生
第 7 回	模擬授業の発表と協議　２年生
第 8 回	教材研究と指導案作成　３年生
第 9 回	模擬授業の発表と協議　３年生
第 10 回	教材研究と指導案作成　４年生
第 11 回	模擬授業の発表と協議　４年生
第 12 回	教材研究と指導案作成　５年生
第 13 回	模擬授業の発表と協議　５年生
第 14 回	教材研究と指導案作成　６年生
第 15 回	模擬授業の発表と協議　６年生

予習・復習

・予習：模擬授業計画にしたがって、事前に教材研究・指導案作成を行う。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・しっかりとした教材研究に基づき単元の指導計画を作る。
・授業を構想して実践するという一連の過程に必要な知識と技術を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、模擬授業 30%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。

初等教科教育法(社会)　～社会科の授業を創る～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択	－

授業概要

学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行なう方法を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会科の目標及び内容（1）教科の目標・内容と全体構造
第 2 回	社会科の目標及び内容（2）第３学年・第４学年の目標・内容と教材研究
第 3 回	社会科の目標及び内容（3）第５学年の目標・内容と教材研究
第 4 回	社会科の目標及び内容（4）第６学年の目標・内容と教材研究
第 5 回	社会科の目標及び内容（5）指導上の留意点と学習評価（第３学年・第４学年）
第 6 回	社会科の目標及び内容（6）指導上の留意点と学習評価（第５学年）
第 7 回	社会科の目標及び内容（7）指導上の留意点と学習評価（第６学年）
第 8 回	社会科の目標及び内容（8）発展的な学習内容の探究
第 9 回	社会科の指導方法と授業設計（1）子どもの実態を視野に入れた授業設計
第 10 回	社会科の指導方法と授業設計（2）情報機器及び教材の効果的な活用法
第 11 回	社会科の指導方法と授業設計（3）授業設計と学習指導案作成
第 12 回	社会科の指導方法と授業設計（4）模擬授業の実施と授業改善の視点（第３・第４学年）
第 13 回	社会科の指導方法と授業設計（5）模擬授業の実施と授業改善の視点（第５学年）
第 14 回	社会科の指導方法と授業設計（6）模擬授業の実施と授業改善の視点（第６学年）
第 15 回	社会科の指導方法と授業設計（7）社会科の実践研究の動向

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

※この科目は教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。
毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

社会科における教育目標を理解し、小学校教諭として社会科を指導できる資質・能力を理解するとともに、授業設計を行なう方法を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

初等教科教育法(算数)　～算数授業の基礎と実践力育成～	杉野　裕子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

算数科の授業についての基礎的知識と指導法にいて知るために,「教材研究（教科書分析)」→「学習指導案作成（授業構成)」→「模擬授業（実践)」→「検討会（次の授業へ生かす)」という，PDCA サイクルに載せた流れと，それぞれの位置づけについて解説をし，続いて体験的に指導する。特に，模擬授業は，一連の流れで準備と練習を行い，発表をする。授業者以外全員が児童役を演じ，直後に意見を交わす授業検討会で指導を行い，授業を観る力を養う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション,『学習指導要領　算数科の目標』
第 2 回	授業での情報の流れ，教材研究と学習指導案作成と模擬授業の位置づけ
第 3 回	教科書分析の仕方,「わり算」単元の内容，単元導入部分の分析（等分除の場面の理解）
第 4 回	「わり算」単元の，教具の使用・式の指導・計算のしかた部分の教科書分析演習
第 5 回	学習指導案の形式の理解と具体的な事項の書き方
第 6 回	第３学年「わり算」学習指導案の作成演習
第 7 回	実際の模擬授業とその進め方
第 8 回	現職教員による第１学年「いくつといくつ」から学ぶ，指導技術についてのまとめ
第 9 回	教育実習での算数授業の発表、『学習指導要領算数編第 4 章』
第 10 回	模擬授業準備
第 11 回	第１学年「たしざん」模擬授業と検討会
第 12 回	第２学年「長さ」模擬授業と検討会、第２学年「かさ」模擬授業と検討会
第 13 回	第３学年「三角形」模擬授業と検討会、第３学年「かけ算の筆算」模擬授業と検討会
第 14 回	第４学年「わり算の筆算」模擬授業と検討会、第５学年「小数のかけ算」模擬授業
第 15 回	第５学年「平行四辺形の面積」模擬授業と検討会、第６学年「分数÷分数」模擬授業

予 習 ・ 復 習

・予習：模擬授業にあたっては，指定された単元について，教科書分析と学習指導案作成および準備物作成・授業練習を，授業外で学参し，教員の事前指導を受けること。
・復習：教科書分析および学習指導案作成演習で，授業内で出来なかった部分については宿題とする。また、模擬授業終了後は、反省レポートを作成する。

履修上の注意

本授業を履修する場合には，１年の時に選択科目「算数」を履修することが望ましい。模擬授業を通して，教材や授業に関して考え実践する力は教員の必須のため，積極的に取り組むこと。また、その準備のために、授業外での学参をすること。

30 分を越える遅刻は入室を認めず欠席扱いとする。30 分以下の遅刻 3 回で欠席 1 回分とする。

到 達 目 標

教育実習生として，算数科の授業を構成し，実践できることを目標とする。
・算数の教科書について教材分析ができる。
・授業を構成して，学習指導案として書き上げることができる。
・模擬授業実践を通して，基礎的な指導技術を身に付ける。
・模擬授業への児童役としての参加と授業検討会を通して，授業を観る視点を得る。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教材分析（20%）	教科書分析を超えた教材開発ができる。	十分な教科書分析ができる。	大まかな教科書分析ができる。	最低限の教科書分析ができる。	教科書分析ができない。
学習指導案作成（20%）	非常に工夫された学習指導案の作成ができる。	十分な学習指導案の作成ができる。	大まかな学習指導案の作成ができる。	教育実習で求められる最低限の学習指導案が作成できる。	最低限の学習指導案の作成ができない。
模擬授業実践（40%）	後輩の模範となる模擬授業ができる。	児童の反応を予測した、双方向の模擬授業ができる。	準備物や台詞などを考えて、模擬授業をすることができる。	授業の見栄えとして、最低限の模擬授業ができる。	最低限の模擬授業ができない。
模擬授業検討（20%）	児童役として積極的に参加するとともに、授業に対する批判的な意見を述べることができる。	児童役として時に積極的に参加するとともに、授業のよい点について意見を述べることができる。	児童役として参加をし、授業についての意見を述べようとする。	児童役として、最低限の参加をし、授業についての最低限の意見をもとうとする。	模擬授業へ参加し、意見をもとうとすることができない。

評価方法

学習指導案作成演習 20%
模擬授業の一連 40%
論述筆記試験 30%
受講態度 10%

テキスト

・教科書名：学習指導要領　算数編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：978-4-536-59010-5

初等教科教育法(理科)

～教師として必要な知識･技能の獲得と授業づくり～

長友　大幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

小学校理科の目標・学習指導・評価のあり方について，具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また，模擬授業を通してあるべき小学校の理科授業について検討し，理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，理科教育の現実と日本の子どもの理科学力の実態
第 2 回	理科教育の価値と目的
第 3 回	授業・日常経験を通した科学概念の形成とその探り方
第 4 回	小学校理科の教科書の単元構成とその内容
第 5 回	小学校理科学習指導案の構成内容とその作成
第 6 回	小学校における授業実践例
第 7 回	理科学習の評価とその方法
第 8 回	教材準備の重要性と模擬授業にむけた予備実験
第 9 回	模擬授業（3 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 10 回	模擬授業（4 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 11 回	模擬授業（5 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 12 回	模擬授業（6 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 13 回	理科教育の現代的諸問題（学校種間の接続，他教科との連携，環境教育など）
第 14 回	理科教育の現代的諸問題（疑似科学に対する理科教育の役割）
第 15 回	まとめ

第 6～12 回にかけて実習や実験・観察を取り扱う。

予 習 ・ 復 習

・予習：模擬授業のための学習指導案の作成や教材作成など，事前に自主的な学習や作業が必要になる。

・復習：知識や実験技能の定着を図る小テストを毎時間に行うので，それに対応できる復習が必要である。

履修上の注意

自身の模擬授業を無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。遅刻の取り扱いは，遅刻３回で欠席１回として扱う。また，20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

到 達 目 標

1. 小学校理科を中心に理科の目標･内容･評価等について，学習指導要領を踏まえながら理解できる。
2. 児童の自然認識について考察し，それに基づく授業のあり方を理解できる。
3. 実際に予備実験を行い，指導案を作成して模擬授業を行う。授業後，検討会を行い，授業デザインについて理解を深めることができる。
4. 理科教育に関連する現代的諸問題について理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容を100%近く理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
技能（40%）	模擬授業の方法が分からない他人にアドバイスできる。	何も参照せずに独自の能力模擬授業を行うことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に模擬授業を行うことができる。	他人のアドバイスがあれば模擬授業を行うことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的にも模擬授業を行うことができない。
考察したことを説明する能力（20%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業への参加状況（授業中の課題や実験への取り組み、小テストなど）10%、課題やレポート及び模擬授業50%、教師として必要な知識と技能の取得状況（定期試験）40%
欠席が１/３を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。

テキスト

・教科書名：教科書名：授業をつくる！　最新小学校理科教育法　～2017 学習指導要領準拠～
・著 者 名：左巻健男他
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2018 年
・その他は適宜印刷して配布するが，以下のものを用意しておくことが望ましい。
　小学校 3～6 年生の教科書「たのしい理科」（大日本図書：令和 2 年度版），
　小学校学習指導要領解説　理科編（最新版）

初等教科教育法(生活)

～生活科を通して子どもの育ちを推進するために～

齋藤　澄子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択	－

授業概要

小学校教育における生活科の意義や創設の趣旨を理解し、生活科教育の理論や実践事例を通して、生活科の実践的な指導力が身につくように講義する。そのために具体的な指導方法や授業実践を紹介しながら、生活科の目標・学習内容・単元づくりについて講義し、実際に学習指導案作成・模擬授業を指導していく。

学習指導案の検討や模擬授業の授業活動では、学生の自己表現活動の力を引き出しつつ、他者への共感やコミュニケーション力やＩＣＴを活用した授業構成を講義し、実際の授業の活用できるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の目的と進め方についてのガイダンスを行う。また生活科の創設について講義し、「何故生活科が必要なのか」について理解できるようにする。
第 2 回	生活科の教科目標、学年目標についての課題学習を行い、その後解説の講義を行う。
第 3 回	テキストを使用し、生活科の内容構成（3つの階層性と9つの内容についての確認）についての課題学習を行い、講義で重要点をまとめていく。
第 4 回	内容の取扱いについての配慮事項を講義し、授業実践例を紹介することで実践的な理解を深める。
第 5 回	接続期の教育についての講義を３回シリーズ①「スタートカリキュラム」について講義する。
第 6 回	接続期の教育についての講義を３回シリーズ②「アプローチカリキュラム」の講義する。
第 7 回	接続期の教育についての講義を３回シリーズ③　演習　二つの接続期カリキュラムの実践例を読み解き、グループワークを通して指導する。
第 8 回	生活科のカリキュラムマネジメントについて講義し、教育課程の年間指導計画について理解できるようにする。
第 9 回	学習指導案の作成①（単元を決め学習指導案を作成する）を指導する。
第10回	学習指導案の作成②（学習指導案を発表し合い、意見交換を通して学習指導案の検討をする）を指導する。
第11回	模擬授業①を実施し、話合いを通して授業の流れや改善案を考えることができるように指導する。
第12回	模擬授業②を実施し、話合いを通して学習評価のあり方を考えることができるように指導する。
第13回	子どもの表現と気づきを見とる生活科の授業のあり方や学習評価について講義したり、ワークを通して指導したりする。
第14回	ＩＣＴを活用した生活科の授業についての講義を行い、これからの授業のあり方に見通しをもつ故地ができるように指導する。
第15回	生活科の教科性と児童理解の関係について思考し、生活科の授業の意味付けや重要性を理解できるように指導する。

予習・復習

・予習：シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前にテキストをよく読み、講義内容が理解できるようにしておくこと。

・復習：復習として授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておく。また授業で配布した学修資料の内容を再度確認しながら、資料整理を行い、ファイルするようにすること。

履修上の注意

・授業で配布された資料や指定されたテキストを毎回持参すること。
・予習・復習をしっかり行い、授業内容を活用した学習指導案の作成や模擬授業に臨むこと。
・欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。遅刻については 30 分以内なら出席回数にカウントできるが、30 分を越えた場合は欠席扱いとする。

到 達 目 標

・小学校における生活科教育の意義、目標、指導内容についての理解を深める。
・接続期教育を理解したり生活科の単元構成を考えたりしながら、具体的な授業イメージをもち、学習指導案を作成したり模擬授業を行ったりできる。
・ＩＣＴを活用した生活科の授業づくりについて理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
生活科に関する知識理解度（40%）	授業内容を踏まえ発展的な学修を自主的に行っている。	授業内容をほぼ100%理解している。	一定の理解はしているが、授業内容の理解にやや不足がある。	授業内容について最低限の理解しかしていない。	授業内容をほとんど理解できていない。
課題に対する解決力（30%）	自分の解法を生かして他人にアドバイスができる。	学修したことを活用しながら、工夫して課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、自分の力で課題を解くことができる。	他人のアドバイスを受け、助言を基に課題を解くことができる。	助言を受けても自発的に課題を解くことができない。
学修した内容を遣いレポートを書いたり演習等で活用したりできる力（30%）	学修した内容を考察しつつ、他人を説得するようなレポートを作成することができる。	学習内容に沿い、論理が通った文章でレポートを書くことができる。	内容的に多少の不足する点があるが、学修したこと全体を網羅したレポートを書くことができる。	最低限の学習内容についてしかレポートを作成することができない。	レポートに学習内容が全く反映されていないか未提出である。

評価方法

・受講姿勢や毎回の授業後の振り返りシート（コメント）　50%
・学期末試験　50%

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年（978-4-491-03464-5）

初等教科教育法（音楽）～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	選択	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

小学校音楽科の目標や指導内容，指導計画，指導展開及び評価を含めた基礎的な理論，情報通信技術の活用について理解を深めるとともに，学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また，教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第 2 回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価，音楽教育主要用語について
第 3 回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第 4 回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 5 回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 6 回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 7 回	学習指導案の理解，ワークシートづくりについて
第 8 回	学習指導案の作成，ワークシートの作成
第 9 回	音楽教育史及び音楽史について
第 10 回	中間筆記試験（学習指導要領等，教員採用試験対策）及び解説
第 11 回	「歌唱」の模擬授業
第 12 回	「器楽」の模擬授業
第 13 回	「鑑賞」の模擬授業
第 14 回	「音楽づくり」の模擬授業
第 15 回	まとめ，音楽科における関連と連携

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。演習がある際は，必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。
・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し，内容の理解に努めましょう。特に前半は，教員採用試験対策も含めています。

履修上の注意

・現場に出た際に，「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず，音楽専科がいない学校へ着任したり，自分が音楽専科になったりする可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので，意欲的に取り組みましょう。
・ソプラノリコーダーまたは鍵盤ハーモニカを使用する予定です。なお，新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により別の楽器で代用する場合もあります。
・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので，パソコンが苦手な人は，基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。

到 達 目 標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容，指導計画，指導展開，評価等について理解した上で，学習指導案を作成し，授業を実践することができる力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
小学校学習指導要領(音楽)及び小学校音楽の学習内容に関する理解度（中間・期末試験）（30%）	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をしっかりと理解しており，他の人に解説することができる。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をほぼ全て理解できている。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を理解できていないところがいくつかある。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容の理解が不足している。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を全く理解できていない。
歌唱共通教材の歌唱の能力（中間・期末試験）（10%）	全ての歌唱共通教材を正しく歌うだけなく，曲のイメージなども考え表現することができる。	全ての歌唱共通教材を正しい音程・リズムで歌うことができる。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	低学年の歌唱共通教材や元々知っている曲以外は歌うことができない。
指導案立案及び模擬授業による実践力（40%）	しっかりと練られた指導案を立案し，板書計画や掲示物，見本等の準備も十分に行った上で模擬授業をスムーズに行うことができる。	よく考えて指導案を立案し，模擬授業を行うことができる。	指導案を立案することはできるが，時々，指導案を見ながらでなければ模擬授業を行うことができない。	教師用指導書を参考にしながら指導案を立案しているが，指導案を見ながらでなければ模擬授業をおこなうことができない。	指導案は教師用指導書を丸写しのため授業の流れを把握しておらず，指導案を見ながらでも模擬授業を行うことができない。
学習態度（10%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいつことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。
課題提出（10%）	課題は全て期日内に提出している。	課題は遅れることなく提出している。	課題は概ね期日内に提出している。	課題は提出しているが、期日を守れないものが多い。	未提出の課題がある。

評価方法

筆記試験（中間試験 15%，期末試験 15%），歌唱共通教材の歌唱実技試験（中間試験 5%，期末試験 5%），学習指導案立案・模擬授業の実践（40%），学習態度（10%），課題提出（10%）

テキスト

・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 ―生成の原理による授業デザイン―』
・著 者 名：小島律子（監修）
・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
・出 版 年：2018 年
＊その他，適宜，資料を配布する（専用のファイルを準備すること）

初等教科教育法(図画工作)

～図工で育てる思考力、判断力、表現力～

木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	選択	－

※実務経験のある教員による授業科目乳児保育Ⅰ

授 業 概 要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制 作を行う。1 学年から 6 学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス(受講者自身の振り返り。小学校時代の図工に関して)
第 2 回	図画工作科の目標および内容について理解する
第 3 回	第 1・2 学年の目標と内容について講義をする
第 4 回	第 1・2 学年の目標と内容についての演習を行う
第 5 回	第 3・4 学年の目標と内容について講義をする
第 6 回	第 3・4 学年の目標と内容についての演習を行う
第 7 回	第 5・6 学年の目標と内容について講義をする
第 8 回	第 5・6 学年の目標と内容についての演習を行う
第 9 回	模擬授業のための指導案を書く
第 10 回	模擬授業 1
第 11 回	模擬授業 2
第 12 回	模擬授業 3
第 13 回	模擬授業 4
第 14 回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第 15 回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。

・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。
遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［指導計画等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた指導計画等を作ることができる。	指導計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
判断力［指導計画、見本作品制作等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた、すぐれた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	指導計画、見本作品制作等を作成することができても、判断力の観点が抜けている。	判断力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(25%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(25%)	思考力、判断力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力のどれかを結びつけた実践を行うことができる。	実践を行うことができても、思考力、判断力、表現力が結びついていない。	思考力、判断力、表現力の観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品から、小学校教諭になる者としての思考力、判断力、表現力がどれくらいあるのか、上記の基準に照らしながら評価していく。(75%)
図工における総合的な力がどのくらい身についたか、上記の基準に照らしながら評価していく。(25%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN)：2018 年　(978-4536590112)

初等教科教育法(家庭)　～小学校家庭科の内容と指導方法～	佐藤　真弓

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	初等家庭科教育法の概要説明
第 2 回	小学校家庭科の内容
第 3 回	家庭科の学習指導について①学習指導要領の分析
第 4 回	家庭科の学習指導について②小学校教科書の分析
第 5 回	学習指導案の作成①　作成方法について
第 6 回	学習指導案の作成②　模擬授業の検討、教材・教具の準備 （１）授業の展開（情報機器の活用を含む）
第 7 回	学習指導案の作成③　模擬授業の検討、教材・教具の準備 （２）資料の作成（情報機器の活用を含む）
第 8 回	模擬授業と教材研究①家庭生活と家族（情報機器の活用を含む）
第 9 回	模擬授業と教材研究②食事の役割と栄養
第 10 回	模擬授業と教材研究③調理の基礎（調理実習）
第 11 回	模擬授業と教材研究④衣服の着用と手入れ
第 12 回	模擬授業と教材研究⑤生活に役立つ物の製作（裁縫）
第 13 回	模擬授業と教材研究⑥快適な住まい方
第 14 回	模擬授業と教材研究⑦身近な消費生活と環境（情報機器の活用を含む）
第 15 回	模擬授業と振り返り・評価について（情報機器の活用を含む）

予 習 ・ 復 習

・予習：小学校学習指導要領解説（家庭編）、小学校家庭科教科書を授業に必ず用意し、授業計画に該当する内容を読んでおくこと。

・復習：授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。 家庭科の授業の教材研究として新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく。

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は、「家庭」を履修していることを前提とする。
第１回のガイダンスで、授業の進め方、遅刻の取り扱い等について説明をするので、必ず出席すること。
小学校家庭科教科書（東京書籍・開隆堂）は授業開始までに各自で準備すること。購入方法は全国教科書供給協会のＨＰを参照し自宅の最寄の取り扱い販売店に予約し各自購入すること。

到 達 目 標

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法、評価法に関する基本的事項を理解することができる。
家政学の視野をもった創造的・効果的な学習指導を実践するための指導計画を立て、適切な教材を検討し、学習指導案を立案、作成することができる。
生活課題を発見しそれを解決するための方策を検討することができる。
指導計画に基づき、模擬授業実習を通して実践力を身に付けることができる。
生活の総合性に鑑み、授業で得られた知識を統合させ家庭科の授業実践へつなげることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（　20%）	授業内容を超えた自主的な学習ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
学習指導案立案能力（　20%）	創造的・独創的な家庭科学習指導案を計画することができる。	家庭科の理念を踏まえた家庭科学習指導案を計画することができる。	家庭科学習指導案として多少不足がある。	家庭科学習指導案として多くの不足がある。	家庭科学習指導案を立案できない。
課題解決能力（　20%）	生活課題の解決のために方策を検討し、主体的に実践できる。	生活課題の解決のための方策を主体的に考えることができる。	生活課題の解決のための方策を他人のアドバイスを受けて考えることができる。	生活課題の解決のための方策の検討ができない。	生活課題の解決の必要性に気づくことができない。
授業実践能力（　20%）	創造的・独創的な家庭科授業実践ができる。	授業内容を踏まえた家庭科授業実践ができる。	家庭科授業実践として多少不足がある。	家庭科授業実践として多くの不足がある。	家庭科授業実践ができない。
知識の統合能力（　20%）	知識を統合させ創造的・独創的な授業を計画できる。	知識を統合させた授業を計画することができる。	知識の統合に多少不足がある。	知識の統合に多くの不足がある。	知識の統合ができない。

評価方法

模擬授業への取り組み（学習指導案作成、教材作成含む）（40%）、授業内小課題レポート（20%）、期末レポート（40%）から総合的に評価する。

テキスト

・小学校学習指導要領解説（平 29 告示）家庭編　　文部科学省
東洋館　　ISBN：978-4-491-03466-9
・新しい家庭（小学校家庭科教科書）　浜島　京子他
東京書籍　　2020 年　ISBN：978-4-487-10590-8
・わたしたちの家庭科（小学校家庭科教科書）　鳴海多恵子他
開隆堂　　2020 年　ISBN：978-4-304-08086-9

初等教科教育法(体育)　～実感を実践へ～

小山内弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択	－

授業概要

自らの体育の学習観を再確認し、小学校における体育科教育について考え、その上で、講義を通して援業づくりをする上での基盤を構築するよう講義する。さらに、実際に指導案を作成し、体育の指導についての理解を深め、よりよい授業づくりに向けて基礎を養うよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　初等教科教育法（体育）の授業の進め方と授業の特性に合わせた注意事項を伝達する。
第 2 回	体育の在り方の理解と体育の学習観について：　現状の学校での体育への学習観を考える。
第 3 回	各自のレディネスの確認（ICT の活用含む）：　学校体育で実施される種目を実施し、自身の体育レベルについて確認する。
第 4 回	体育の授業づくりについて：　体育の授業の作り方（年間計画、単元計画、単位時間計画）について知る。
第 5 回	体育の教材研究について理解する：　体育での教材の重要性とその作成方法について知る。
第 6 回	体育授業の基礎的・内容的条件について理解する：　体育の授業を行うに当たっての、基礎的、内容的条件を知る。
第 7 回	模擬授業のための資料作り①（資料収集・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のための資料を集め、模擬授業を行う種目を決める。
第 8 回	模擬授業のための資料作り②（単元作成・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために決まった種目を基に、単元計画を作成する。
第 9 回	模擬授業のための資料作り②（単位時間作成・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために作成した単元計画を基に、単位時間の指導案（シナリオ）を作成する。
第 10 回	模擬授業シミュレーション：　模擬授業のシミュレーション行う。作成のために作成した単元計画を基に、単位時間のシナリオを作成する。
第 11 回	模擬授業および授業分析①：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 12 回	模擬授業および授業分析②）：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 13 回	模擬授業および授業分析③：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 14 回	授業評価および分析と指導案の作成：　模擬授業全体の評価・分析とともに修正を行い、最終版の指導案の作成を行う。
第 15 回	全体評価・分析・まとめ

予習・復習

・予習：

指導要領解説、事前に配布された資料については確認の上で授業に参加すること。また、日常的なスポーツ・運動活動やそれらの観戦を積極的に行うこと。それにより、実践力の向上や種目の特性の理解し、授業作成に生かすことに繋がる。

・復習：

既習の授業プリントは再度見直した上で授業に臨むこと。その上で、指導案作成においては授業内容を反映した指導案を作成すること。

履修上の注意

実践を行う際は、それに適した服装をすること。
・遅刻は３回で１回の欠席とする。
※履修者の状況により，内容を変更する場合がある。

到 達 目 標

初等教科教育法（体育）の特徴を学び、知識・技能の蓄積から、授業づくりの基盤を確立し、体育授業の計画・実践・評価分析ができる基礎を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（20%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（20%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（10%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

授業への貢献度、授業態度：　20%
模　擬　授　業：　40%
模擬授業指導案：　40%

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説（体育編）※巻末、小学校学習指導要領含む
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・最新版
・ISBN　9784491034676

初等教科教育法(英語)
～子ども英語の実践と小学校英語科教育法～

大山　健一

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	必修	－

授業概要

「小学校外国語教育についての基本的な知識・理解」「子どもの第二言語習得についての知識とその活用」「指導技術」「授業作り」を枠組みとして、小学校学習指導要領に定められている外国語活動・外国語科の指導内容の基準について講義・指導する。また、「外国語の音声や基本的な表現」「自分の考えや気持ちなどを伝え合う力」「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」において、マイクロティーチングや模擬授業を通して体験的に指導する。更に、教材・ICT 研究から指導案の作成方法を講義・指導する。その上で、１単位時間分程度の模擬授業を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	特別支援教育における外国語活動（1）：概要
第 3 回	特別支援教育における外国語活動（2）：指導上の留意点
第 4 回	クラスルーム・イングリッシュの活用（1）：使う意味
第 5 回	クラスルーム・イングリッシュの活用（2）：使用の留意点
第 6 回	求められる教育の資質（1）：必要な資質
第 7 回	求められる教育の資質（2）：参加する際の留意点
第 8 回	教材の使い方・選び方（1）：歌とチャンツ
第 9 回	教材の使い方・選び方（2）：教材選択・開発
第 10 回	ICT の効果的な活用（1）：音声指導との関連
第 11 回	ICT の効果的な活用（2）：文字指導との関連
第 12 回	指導の基本と留意ポイント（1）：１時間指導の組み立て方
第 13 回	指導の基本と留意ポイント（2）：振り返りと自己評価表
第 14 回	文字指導の在り方（1）：読む活動
第 15 回	文字指導の在り方（2）：書く活動

予習・復習

・予習：次の授業に備えて与えられた課題を行う。

・復習：授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。

履修上の注意

小学校教職課程希望の履修者が望ましい。
「児童英語」を同時に履修することが望ましい。
授業開始後３０分までを遅刻とし、遅刻２回につき欠席１回とカウントします。

到 達 目 標

①児童の特性や習熟度に応じた指導について理解することができる。
②英語による授業展開の方法について理解することができる。
③学習到達目標に基づく授業の組み立てを考え、学習指導案を作成し、指導に生かすことができる。
④１５分～２０分のマイクロティーチングや４５分～５０分の模擬授業を行うことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（２０％）	自主的に学修する程の授業内容を理解することができる。	授業内容をほぼ理解することができる。	不足する点があるが、授業内容を理解することができる。	最低限の授業内容を理解することができる。	授業内容を理解することができていない。
模擬授業力（２０％）	他人を説得する程の模擬授業内容を教授することができる。	模擬授業内容をほぼ教授することができる。	不足する点があるが、模擬授業内容を教授することができる。	最低限の模擬授業内容を教授することができる。	模擬授業内容を教授することができない。
発表力（３０％）	他人を説得する程の授業内容を説明することができる。	授業内容をほぼ説明することができる。	不足する点があるが、授業内容を説明することができる。	最低限の授業内容を説明することができる。	授業内容を説明することができない。
参加意欲度（３０％）	自己的にならず相手への配慮をして授業に参加することができる。	相手への配慮をほぼして授業に参加することができる。	不足する点があるが、相手への配慮をして授業に参加することができる。	最低限の相手への配慮をして授業に参加することができる。	授業に参加することができない。

評価方法

レポート・課題（２０％）、模擬授業・指導案（２０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）

テキスト

・教科書名：『小学校英語科教育法』
・著 者 名：金森強
・出版社名：成美堂
・出 版 年（ISBN）：2019 年（9784791971961）

道徳の指導法　～道徳教育とは何か～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	必修	－

授業概要

道徳の意義や原理等をふまえ、道徳教育、および、その要となる道徳科について具体的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	道徳の理論（1）道徳の本質（道徳とは何か）
第 2 回	道徳の理論（2）道徳教育の歴史
第 3 回	道徳の理論（3）現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）
第 4 回	道徳の理論（4）子どもの心の成長と道徳性の発達
第 5 回	道徳の理論（5）学習指導要領に示された道徳教育および道徳科の目標と主な内容
第 6 回	道徳の指導法（1）学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要となる道徳科
第 7 回	道徳の指導法（2）道徳教育の指導計画および教育活動全体を通じた指導
第 8 回	道徳の指導法（3）道徳科の特質を生かした多様な指導方法
第 9 回	道徳の指導法（4）道徳科の教材の特徴をふまえた授業設計
第 10 回	道徳の指導法（5）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成①目標設定
第 11 回	道徳の指導法（6）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成②内容
第 12 回	道徳の指導法（7）道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方
第 13 回	道徳の指導法（8）模擬授業の実施と授業改善の視点①模擬授業の内容吟味
第 14 回	道徳の指導法（9）模擬授業の実施と授業改善の視点②他教科との関連
第 15 回	道徳の指導法（１０）模擬授業の実施と授業改善の視点③授業改善

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

※この科目は教育実習Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。
毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

学校の教育活動全体を通じて行なう道徳教育。および、その要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、実践的な指導力を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：廣済堂あかつき
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

特別活動の指導法　～集団活動を学び、実践する～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点および「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	特別活動の意義、目標および内容（１）学習指導要領における特別活動の目標と主な内容
第 2 回	特別活動の意義、目標および内容（２）教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
第 3 回	特別活動の意義、目標および内容（３）学級活動・ホームルーム活動の特質
第 4 回	特別活動の意義、目標および内容（４）児童会活動、クラブ活動、学校行事の特質
第 5 回	特別活動の指導法（１）教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方
第 6 回	特別活動の指導法（２）特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
第 7 回	特別活動の指導法（３）合意形成に向けた話合い活動の準備
第 8 回	特別活動の指導法（４）合意形成に向けた話合い活動の指導
第 9 回	特別活動の指導法（５）合意形成に向けた話合い活動の評価
第 10 回	特別活動の指導法（６）意思決定につながる指導
第 11 回	特別活動の指導法（７）集団活動の意義
第 12 回	特別活動の指導法（８）集団活動の準備
第 13 回	特別活動の指導法（９）集団活動の指導
第 14 回	特別活動の指導法（１０）集団活動の評価
第 15 回	特別活動の指導法（１１）特別活動における家庭・地域住民・関係機関との連携のあり方

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

集団活動の実践として、皆で力をあわせて、学級活動を具体的に企画・立案し、実践します。毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。
学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻３回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、特別活動に必要な視点を持つとともに、特別活動の特質をふまえた指導に必要な知識や素養を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年
・教科書名：『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』
・著 者 名：文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
・出版社名：文渓堂
・出 版 年（ISBN）：2019 年

教育方法論（総合的な学習の時間の指導法を含む）
～子どもの能力を伸ばす保育と教育の展開～

大島真里子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択必修

授業概要

幼稚園、保育所、認定こども園、小学校においてこれからの社会を担う個々の子どもの持つ能力を伸ばすために保育や教育をどのように展開していったら良いのか。基本的な考え方を学ぶと同時に、総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識・技能を身につける。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）／教育方法論とは何か
第 2 回	子ども理解にもとづいた保育方法と評価
第 3 回	子どもにふさわしい園生活と保育形態
第 4 回	養護と教育が一体となった保育の方法
第 5 回	環境を通した保育の方法
第 6 回	遊びを通した保育の方法
第 7 回	個と集団を活かした保育の方法
第 8 回	０・１・２歳児の発達に応じた保育方法
第 9 回	３・４・５歳児の発達に応じた保育方法
第10回	保育の計画・実践・評価
第 11 回	家庭・地域と連携した保育
第12回	配慮を要する子どもへの保育方法
第13回	幼稚園、保育所、認定こども園から小学校への連携
第14回	総合的な学習の時間の意義
第15回	総合的な学習の時間の指導法

予習・復習

・予習：各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。授業の内容によっては、予習を兼ねてレポートを課すことがある。
・復習：講義内容は基本的なことが中心となるので、関連するものについては各自関心を広げること。授業の内容によっては、復習を兼ねてレポートを課すことがある。

履修上の注意

授業では、意見やコメントを書くなどのワークや、内容に応じてグループディスカッション等も用いて進めていくので、積極的に参加すること。

到 達 目 標

・これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
・教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。
・総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識・技能を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの発達に応じた教育の方法を理解している (40%)	子どもの発達に応じた教育の方法を理解し更に発展させている	子どもの発達に応じた教育の方法を十分に理解している	子どもの発達に応じた教育の方法を理解している	子どもの発達に応じた教育の方法をある程度理解している	子どもの発達に応じた教育の方法を理解できていない
教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている (40%)	教育の目的に適した指導技術を理解し身につけ更に発展させている	教育の目的に適した指導技術を十分に理解し身につけている	教育の目的に適した指導技術を理解し身につけている	教育の目的に適した指導技術を理解している	教育の目的に適した指導技術を理解していない
総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識・技能を身につけている (20%)	総合的な学習の時間の指導法についての知識・技能を身につけ更に発展させている	総合的な学習の時間の指導法についての知識・技能を十分に身につけている	総合的な学習の時間の指導法についての知識・技能を理解し身につけている	総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識・技能を理解している	総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識・技能を理解していない

評価方法

授業での取り組み（60%）、定期試験（40%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況、授業への取り組み姿勢なども考慮する。

テキスト

テキストは特に指定しないが、適宜必要に応じて参考書などを紹介する。

ICT 活用の理論と方法

～教育 DX への対応とオンライン授業の実践的活用法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

「情報通信技術（ICT; Information & Communication Technology）を活用した教育の理論及び方法」の習得を目的として、ｸﾗｳﾄﾞﾈｯﾄﾜｰｸを利用した情報や知識のやり取り （＝生徒とｵﾝﾗｲﾝでつながる） に焦点を当て、教育ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝに対応したｵﾝﾗｲﾝ授業の実践的活用方法をﾊﾝｽﾞｵﾝ（体験型学習）形式で指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション －現代社会における ICT の役割－ 日常生活と最先端テクノロジー／ICT の基本理解／教育へのテクノロジー活用の意義
第 2 回	GIGA スクール構想と教育現場のデジタルトランスフォーメーション（DX） ICT 活用指導力が求められる理由／1 人 1 台の情報端末／情報活用能力とモラルの育成
第 3 回	オンライン授業に必要な情報端末（PC・スマートフォン・タブレット類）と基本操作 OS／アプリケーションソフト／データストレージサービス／コラボレーションツール
第 4 回	オンラインコミュニケーションと情報検索・収集の方法 ドメインの理解／電子メール・チャット／Web ブラウザー／検索エンジン／SNS
第 5 回	教育機関向けクラウド型ネットワークサービスの活用方法 クラウドサービスの種類／機能と特徴／活用事例／Microsoft Teams の基本設定の確認
第 6 回	オンライン教室の設定 ①（トライアル・基礎編） テクノロジーを活用した教育の意義／クラウドサービスを活用したオンライン教室の特徴
第 7 回	オンライン教室の設定 ②（実践・活用編） オンライン教室の計画／クラスの作成／生徒の招待／チャネルの作成／チームの設定
第 8 回	オンライン授業の開始 ①（トライアル・基礎編） クラウドサービスを活用したオンライン授業の特徴／オンライン授業の設計
第 9 回	オンライン授業の開始 ②（実践・活用編） 生徒との対話・やり取り／資料ファイルの投稿／メッセージ投稿・返信・編集
第 10 回	オンライン授業の運営 ①（トライアル・基礎編） 授業開始／オーディオ・ビデオ・録画など授業運営の環境設定
第 11 回	オンライン授業の運営 ②（実践・活用編） 出席確認／画面共有／意見交換／グループワーク／質疑応答など授業運営の基本
第 12 回	オンライン授業の運営 ③（応用編） アンケート実施／課題／小テスト／ルーブリック／成績評価など授業運営の応用
第 13 回	オンライン授業の検証（機能・操作確認編） クラス・授業への参加／メッセージ確認・返信／質問・回答確認／録画閲覧／課題確認
第 14 回	模擬授業の実施と参加（実際の授業を想定したオンライン・ロールプレイ）
第 15 回	模擬授業の検証（オンライン授業の改善点・課題の明確化と解決策の検討）

予 習 ・ 復 習

- 予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに学習しておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること。興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること(他に、授業内で課題の指示あり)。

履修上の注意

1. 受講者所有のノートパソコンを持参することを推奨する。
2. 受講者の情報端末操作リテラシーや理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。

到 達 目 標

1. 教育現場おけるICT活用の意義と理論を理解する。
2. ICT活用指導力に必要な情報端末機能を操作することができる。
3. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン教室を設定することができる。
4. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン授業を実施することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ICT活用の意義と理論の理解（20%）	ICT活用の意義と理論の理解にとどまらず、オンライン授業の設計まで習得できている。	ICT活用の意義と理論を理解している。	ICTの役割を理解している。	ICTの役割をある程度理解している。	ICT活用の意義や理論もICTの役割も理解していない。
ICT活用指導力に必要な情報端末の操作（20%）	講義で取り上げていない情報端末の機能を応用することができる。	講義で取り上げた情報端末の機能を活用することができる。	情報端末の機能をある程度活用することができる。	情報端末の機能を不十分であるが、操作することができる。	情報端末を操作することができない。
オンライン教室の設定（30%）	講義で取り上げていないオンライン教室設定の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン教室設定の機能を活用することができる。	オンライン教室設定の機能をある程度活用することができる。	オンライン教室設定の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン教室設定の機能を操作することができない。
オンライン授業の実施（30%）	講義で取り上げていないオンライン授業実施の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン授業実施の機能を活用することができる。	オンライン授業実施の機能をある程度活用することができる。	オンライン授業実施の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン授業実施の機能を操作することができない。

評価方法

受講態度（体験型学習への取り組み）40%、後期定期試験（実技）40%、課題（レポートなど）20%

テキスト

・教科書名：できるMicrosoft Teams for Education すぐに始めるオンライン授業
・著 者 名：清水理史&できるシリーズ編集部
・出版社名：インプレス
・出 版 年（ISBN）：2021年（978-4-295-01099-9）
※その他、講義で用いた資料はMicrosoft Teamsの「ICT活用の理論と方法」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

生徒･進路指導の理論と方法

～児童が生きる今を知り、指導・援助する～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

生徒指導は、一人ひとりの児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる。他の教職員や関係機関と連携しながら生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	生徒指導の意義と原理（1）教育課程における生徒指導の位置付け
第 2 回	生徒指導の意義と原理（2）各教科・道徳教育・総合学習・特別活動における生徒指導の意義
第 3 回	生徒指導の意義と原理（3）集団指導・個別指導の方法原理
第 4 回	生徒指導の意義と原理（4）生徒指導体制と教育相談体制―基本的な考え方と違い―
第 5 回	児童全体への指導（1）校務分掌と学校指導方針および年間指導計画に基づく組織的な取組
第 6 回	児童全体への指導（2）生徒指導のあり方―基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成―
第 7 回	児童全体への指導（3）児童及の自己存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方
第 8 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例１）
第 9 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例２）
第 10 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例３）
第 11 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例４）
第 12 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例５）
第 13 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（1）進路指導・キャリア教育の意義および理論
第 14 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（2）ガイダンスとしての指導
第 15 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（3）カウンセリングとしての指導

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

生徒指導・進路指導は学習指導と並ぶ重要な教育活動である。組織的に生徒・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることが目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%

筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『生徒指導提要』（改訂版）
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年
・教科書名：『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 小学校編（改訂版）』
・著 者 名：長谷川啓三・花田里欧子・佐藤宏平編
・出版社名：遠見書房
・出 版 年（ISBN）：2019 年

教育相談の理論と方法　～子どもの心の理解と関係づくり～

木村　能成

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	必修	必修	選択必修

授 業 概 要

本授業では、子どもと関わる際に必要な教育相談の基礎知識、生じうる問題、教育相談の具体的手法を講義する。また、アクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークを用い、体験を通して事例を理解できるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　教育相談とは何か
第 2 回	教育相談の基礎知識（1）カウンセリングの理論について
第 3 回	教育相談の基礎知識（2）カウンセリングの技法
第 4 回	教育相談の基礎知識（3）教師・保育士のカウンセリングマインドについて
第 5 回	子どもの心理的発達（1）乳幼児期
第 6 回	子どもの心理的発達（2）児童期
第 7 回	子どもの心理的発達（3）思春期
第 8 回	教育相談の実際：不登園・不登校
第 9 回	教育相談の実際：いじめ
第 10 回	教育相談の実際：発達障害
第 11 回	教育相談の実際：児童虐待
第 12 回	教育相談の実際：精神障害（1）
第 13 回	教育相談の実際：精神障害（2）
第 14 回	教育相談の予防的活用
第 15 回	教育相談におけるグループ・アプローチの活用

予 習 ・ 復 習

・予習：配布資料や教材に目を通し、疑問点や知りたい点を考えておくこと。

・復習：分かった点や興味を持った点、よくわからない点についてまとめておくこと。
（疑問点については授業内でフィードバックを行う）

履修上の注意

（１）３０分以上の遅刻は欠席扱い、遅刻３回で１回の欠席とする。リアクションペーパーの未提出は欠席とする。
（２）全ての授業でリアクションペーパーの提出を求め、翌週の授業開始時に授業担当者がフィードバックする。
（３）許可の無い限り、機器の如何にかかわらず授業内容の撮影・録音を禁ずる。

到 達 目 標

（１）保育所・幼稚園・小学校における教育相談の意義および理論、具体的手法を説明できる。
（２）教育相談における専門職・専門機関の活用について説明できる。
（３）児童・生徒の発達段階に応じた課題と、生じうる危機について説明できる。
（４）生じうる問題への理解と対応について基礎的な知識を説明し、体験を通した事例理解ができる。
（５）教育相談の予防的活用について説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教育相談の意義・手法について理解する力（４０％）	授業内容を超えて自主的な学習に基づく理解がなされている	授業の内容を理解している	授業の内容を理解しているが、いくつか理解が足らない点もある	授業の内容について最低限理解できている	授業の内容を理解できていない
問題や事例を理解し、対応について検討する力（４０％）	学んだ知識を活かして自分なりの対応方法を考案し、説明できる	授業資料を参照せずに自力で対応について検討できる	授業資料を参照すれば自力で対応について検討できる	他者のアドバイスを聞くことで対応について検討できる	他者のアドバイスを聞いても対応について検討できない
理解や対応について文章で説明する力（リアクションペーパー）（２０％）	説得力のある内容が記述されている	必要な内容が過不足なく、論理的に記述されている	不足する点がいくつかあるものの、必要な内容がある程度記述されている	最低限の説明がなされている	内容についての説明が不足している

評価方法

学期末試験６０％、リアクションペーパー３０％、受講態度１０％

テキスト

教科書は使用せず、各授業のパワーポイント資料を用いる。その他、適宜資料を配布する。

児童文化　～実践を通して知っておくべき子どもの文化～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

大人が子どもに与えるモノだけでなく、子ども自身が創り出す文化や衣食住を含む子どもを取り巻く環境にも視野を広げて、「児童文化」について講義する。一つひとつの児童文化財や遊び、玩具などへの探究を通して、保育者が身につけておくべき基本知識と、その知識を現場で生かすための技能の双方を指導する。

授業では、児童文化財による教材制作と実演、折り紙やあやとり、言葉あそびなどの実践を通して、その特徴や楽しさを体感してもらう。加えて、保育者の立場からこうした教材（玩具や遊具）の活用を考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	初回ガイダンス・子どもにとっての「遊び」 ・遊びの成立要件としての「三間」
第 2 回	児童文化財① ・メディアミックスと「赤ちゃん絵本」
第 3 回	児童文化財② ・人形劇の世界とフェルトパペットの構想
第 4 回	児童文化財③ ・フェルトパペットの制作と活用の仕方
第 5 回	児童文化財④ ・共遊玩具の世界（布絵本、UD 絵本を含む）
第 6 回	子どもの遊び① ・伝承行事と遊び、あやとりの技の理解と練習
第 7 回	子どもの遊び② ・伝承遊びの種類、あやとりの実技
第 8 回	児童文化の保育活用① ・幼稚園や保育園における壁面装飾や絵本や紙芝居の活用調査
第 9 回	児童文化の保育活用② ・教育実習（幼稚園）での児童文化財の活用実践報告
第 10 回	子どもの遊び③ ・伝承遊びの知識と実践
第 11 回	子どもの遊び④ ・折り紙の知識（基本の型）と制作課題の指示
第 12 回	子どもの遊び⑤ ・折り紙を主とする“壁面装飾”の制作
第 13 回	子どもの生活と社会 ・児童向け文化施設についての理解と各自治体への調査
第 14 回	実演発表会① ・パペットを実演しながらの「児童文化財」の調べ学習課題の発表
第 15 回	発表会② ・パペットを実演しながらの「児童文化財」の調べ学習課題の発表 ・多文化社会とジェンダー概念について

予習・復習

・予習：配布資料を読む、実技の練習、制作の準備

・復習：授業内で行った実技の練習、制作の改良

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・グループワークを含む実演に際しては、事前によく相談して、十分に練習してから臨むこと。
・制作物の準備や改良は、授業時間外に行うこと（他の授業時も同様）。
・制作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・「児童文化」に関する基本的な知識を身につける。
・子どもを取り巻く文化環境について学び、保育者の視座から考える力を身につける。
・実際に「児童文化財」を用いて、遊びを構築し実践する技能を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（40%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
口頭発表力（10%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点はあるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
提出課題完成度（10%）	すべての完成度が高く、指定以上の内容を提出する	指定課題をほぼ100%完成させ期日内に提出できる	完成度に欠点はあるが、期日内に課題は提出できる	提出や完成度に欠点はあるが、最低限の課題数は提出できる	課題提出がないまたは期限超過や完成度に大きな欠点がある
調査分析力と文章表現力（レポート）（10%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	欠点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	欠点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな欠点がある

評価方法

・制作や実技、発表など授業時の課題（パペットの制作と実演、あやとり実技など）50%
・提出課題（学期末レポート、「絵本リスト」、折り紙の制作課題など）40%
・受講態度（「授業シート」の記載内容を含む）10%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

子どもの理解と実践

～子どもの内面を知り、豊かな成長を支える～

鈴木　洋介

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	必修	－	必修

授業概要

保育や教育の実践において、子どもの心身の発達や学びの発達段階を適切に見立てて、実態に応じて子どもに関わることは重要である。そのために、日々の生活や遊びの中で、子どもを理解する基本的な考え方、子ども理解の視点について指導する。そして、子どもの理解に基づく保育士や教員の援助や対応のあり方について考察し、実践力を身につけてほしいと考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　－授業計画と学習の進め方－
第 2 回	子どもの理解に基づく保育及び教育の展開
第 3 回	子どもについての共感的理解と子どもとの関わりの必要性
第 4 回	子どもの理解（1）　身体と運動機能の発達
第 5 回	子どもの理解（2）　言葉の発達、思考の発達
第 6 回	子どもの理解（3）　遊びの変化、友達関係の発達、思いやり（共感性）の心の発達
第 7 回	子どもの友達関係と社会的成長を支える保育士・教員の役割
第 8 回	事例から学ぶ（1）　子どもの遊びと相互の関わり・関係づくり
第 9 回	事例から学ぶ（2）　集団での経験（競争、達成感、協力）と子どもの成長
第 10 回	事例から学ぶ（3）　葛藤やつまずき（いざこざ・ケンカ）と子どもの成長
第 11 回	事例から学ぶ（4）　子どもの成長と保育士・教員の関わり
第 12 回	子どもの理解とカンファレンス
第 13 回	ロールプレイを通して子どもの理解を深める
第 14 回	ロールプレイの実践を通して子ども・保育士・教師の関わりを深める
第 15 回	子どもの理解と保育士・教員の対応のあり方についてのまとめ

予習・復習

・予習：各回の授業については、事前に示された予習資料に目を通して、必要に応じて調べておくこと。授業の内容によっては、予習と復習を兼ねてレポートを課すことがある。

・復習：講義内容は基本的なことが中心となるので、関連するものについては、各自関心を広げ、発展的な学修を行うよう心掛けること。

履修上の注意

１．毎回、出席を取るので休まないこと。
２．講義開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　また、講義開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
３．講義中、グループごとのディスカッションと意見交換を行うことがある。
　　また、講義内容に関連した発言を求めることがあるので、積極的な発言を心掛けること。
４．内容に応じて、小テストを実施することがある。
５．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。

到 達 目 標

１．子どもを理解するための基本的な考え方を理解する。
２．子どもを理解するための基本的な考え方を踏まえて、考えを文章で表現することができる。
３．子どもを理解するための基本的な考え方を踏まえて、発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもを理解するための基本的な考え方についての理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容についてほぼ 100%理解をしている。	授業内容について理解してはいるが、その理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容について理解ができていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（20%）	説得力のある文章で考えを表現することができる。	論理的に矛盾のない文章で考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができる。	文章で最低限の考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができない。
根拠を示しながら発言・議論する力（10%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができるが、根拠の妥当性・信頼性が低い。	最低限の根拠を示しながら発言・議論ができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができない。

評価方法

・学期末試験 70%
・課題への取り組み（レポート等）20%
・授業中の議論や発言等 10%

テキスト

テキストは特に使用しない。授業では配布資料に基づいて進めるが、内容に応じて関連する図書を紹介する。

児童文学　～もっと知っておきたい子どもの本の世界～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択	選択必修

授業概要

子どもと本との関わりには、必ず保護者や保育者といった大人がその橋渡しを担っている。この授業では、教員や保育士が理解しておくべき児童文学の代表的な作品について講義する。

児童文学の領域は多岐にわたるが、この授業の履修生が卒業後に求められる専門性を意識して、主に「絵本」を例に用いながら説明し、学生が希望するテーマを題材とする作品への探究も行う。また、ブックスタートやブックトークといった児童読書活動についても講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・「児童文学」とは
第 2 回	伝承文学 ・日本の昔話について
第 3 回	言葉遊び絵本 ・回文、しりとり、アナグラム、落語など
第 4 回	幼年向け童話① ・宮沢賢治、古田足日、寺村輝夫など
第 5 回	幼年向け童話② ・神沢利子、中川李枝子、海外作品など
第 6 回	海外童話① ・グリム童話
第 7 回	海外童話② ・アンデルセン童話
第 8 回	ファンタジー（日本） ・佐藤さとる、上橋菜穂子など
第 9 回	ファンタジー（海外） ・M.エンデ、A.A.ミルン、ルイス.キャロルなど
第10回	マンガ・アニメーション① ・やなせたかし「アンパンマン」
第11回	マンガ・アニメーション② ・絵本に繋がるアニメーション作品
第12回	ブックスタートからブックトークへ ・保育者の役割
第13回	テーマ別絵本探究① ・履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第14回	テーマ別絵本探究② ・履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第15回	テーマ別絵本探究③ ・まとめ（児童文学の保育活用について）

予習・復習

・予習：配布資料や事前に指定された絵本や童話作品を読む

・復習：授業時に配布された絵本を読み、その特徴を授業内容と結びつけて確認する

履修上の注意

・事前に配布された資料や指定された絵本は、必ず読んで授業に臨む。
・授業時にも多くの絵本に目を通してもらう。毎回、講義内容を踏まえて各自の意見の述べる機会を設けるので、主体的・積極的に授業へ参加してもらいたい。
・児童文学のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する場合もある。

到 達 目 標

・児童文学、特に幼年向け童話や絵本に関する保育者として求められる知識を身につける。
・多様な絵本やジャンルやテーマを理解し、教育・保育活動で活用する技能を身につける。
・子どもと本を繋げる役割を自覚し、その意欲を高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（50%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
調査分析力と文章表現力（レポート）（40%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	欠点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	欠点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな欠点がある
協働学習力（10%）	履修生同士の学習に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	履修生同士の学習において、協力する姿勢がある	協働学習において自分の役割を理解し、それに努める	協働学習において常に受動的な態度だが、活動には参加する	学習に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・発表や意見交換などの授業時の活動　50%
・学期末レポート　40%
・受講態度　10%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

社会福祉論～社会福祉の法制度および相談援助について理解する～	西内 俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員よる授業科目

授 業 概 要

・社会福祉の動向、意義、歴史的経緯について理解する。
・子どもの家庭福祉について理解する。
・社会福祉の制度、実施体系、相談援助について理解する。
・社会福祉における利用者保護について理解する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを実施する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	保育と社会福祉
第 2 回	社会福祉の理念と概念
第 3 回	日本における社会福祉の歴史的変遷
第 4 回	欧米における社会福祉の歴史的変遷
第 5 回	子ども家庭福祉と社会福祉
第 6 回	社会福祉の法制度と法体系　～子ども、障害者に関連するもの～
第 7 回	社会福祉の法制度と法体系　～高齢者、その他に関連するもの～
第 8 回	社会福祉行財政と実施機関
第 9 回	社会福祉施設、社会福祉専門職
第 10 回	社会保障および関連法制度１
第 11 回	社会保障および関連法制度２
第 12 回	相談援助の理論、意義と機能
第 13 回	相談援助の対象、過程、方法、技術
第 14 回	社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み～第三者評価、権利擁護、苦情解決～
第 15 回	これからの社会福祉

予 習 ・ 復 習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つように心がけてください。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は 3 回につき 1 回の欠席とする。授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100％理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（３０％）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（２０％）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　６０％
授業内レポート　３０％
受講態度　１０％

テキスト

授業の中で説明する

子育て支援　～保育者の専門性を活かした子育て支援の実際～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では，現代において子育て支援が必要とされる社会的背景や子育てをめぐる現代的課題，そこにおける保育者の役割を踏まえた上で，保育者の専門性を活かした子育て支援（保育相談支援）の特性と展開，具体的な内容，方法について，事例を通して指導する。ケーススタディーをもとに，子育て支援の様々な対象や場面，展開過程等保育者が行う子育て支援の実際と，保護者理解や支援の方法・技術を学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子育て支援とは
第 2 回	子ども・子育て家庭の現状と子育て支援の課題
第 3 回	子育て支援の意義
第 4 回	「子どもの最善の利益」の保障と子育て支援
第 5 回	子育て支援の基本的価値・倫理
第 6 回	子育て支援の基本的姿勢
第 7 回	子育て支援の基本的技術
第 8 回	園内・園外との連携と社会資源
第 9 回	記録・評価・研修
第10回	日常会話・文書を活用した子育て支援
第11回	行事などを活用した子育て支援
第12回	環境を活用した子育て支援
第13回	地域子育て支援拠点における支援
第14回	入所・通所施設における子育て支援
第15回	子育て支援と保育者の役割／まとめ

予習・復習

・予習：翌回のテーマに関する内容ついて，自分なりに調べておくこと。

・復習：教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子育て支援の社会的な必要性やニーズ，そこにおける保育者の役割について理解する。
2) 保育の専門性を背景とした，保育士の保護者に対する相談，情報提供，行動見本の提示等(保育相談支援)について，その特性と展開を理解する。
3) 保育士の行う子育て支援について，様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，事例等を通して具体的に理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ワークシートの作成及び提出（60%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に文章で説明する力（ワークシートの作成及び提出）（20%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性にも不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性もない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

各回のワークシートの作成及び提出　80%
その他課題（授業内の質疑応答，グループディスカッション等）　20%

テキスト

・教科書名：『子育て支援　15 のストーリーで学ぶワークブック』
・著 者 名：二宮祐子
・出版社名：萌文書林
・出 版 年（ISBN）：2020 年（4893472844）

子ども家庭支援の心理学
～心理、発達、家族、地域の多面的視点から捉える子育て支援～

後藤　沙希

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	－	必修

授 業 概 要

子どもや家庭支援について、心理、発達、家族、地域という視点から捉える重要性について講義する。また、子どもや家庭支援において求められる多職種連携の実践のため、保育現場の社会的役割と機能を知り、自分自身の考えを言語化する力、他者に伝える力を受講を通じて身につける機会を提供し、事例検討やロールプレイを行うことで現場における具体的な対応方法についても指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	家族・家庭の意義と機能について理解する
第 2 回	子育て期における親子の関係性と家族の関係性について学ぶ
第 3 回	子育ての経験と親としての育ちについて理解する
第 4 回	子育てを取り巻く社会的状況について理解する
第 5 回	ライフコースと仕事・子育てについて理解する
第 6 回	多様な家庭とその支援について理解する
第 7 回	特別な配慮を要する家庭とその支援について理解する
第 8 回	乳幼児期から学童期にかけての発達について学ぶ
第 9 回	学童期後期から青年期にかけての発達について学ぶ：グループディスカッション
第 10 回	成人期・老年期における発達/保育者としての発達について学ぶ：グループディスカッション
第 11 回	子どもの生活・生育環境とその影響について理解する：グループディスカッション
第 12 回	子どもの心の健康に関わる問題について理解する：グループディスカッション
第 13 回	子ども家庭支援をめぐる多職種連携①連携機関を理解する：グループディスカッション
第 14 回	子ども家庭支援をめぐる多職種連携②他職種を理解する：グループディスカッション
第 15 回	多職種連携について実践的に考える：グループ発表・事例検討―ロールプレイ―

予 習 ・ 復 習

予習：シラバスにて授業内容を確認し、キーワードやテーマについて調べる（1 時間）。

復習：毎回配布するレジュメを読み返し、保護者や家庭に対する支援や自身の保育者としての在り方について言葉や文章に記すことによって考察する（1 時間）。

履修上の注意

・保育士資格取得希望者の必修科目である
・子どもや家族・家庭を理解し支援するためには、多角的な視点をもつことが求められます。「自分はどの視点で、どう考えるか」と想像力を働かせ主体的な姿勢で受講することを求めたいと思います。また、自らの考えを積極的に発信するということについて学ぶ機会にして頂きたいです。

到 達 目 標

1　家庭や家族機能、親子や家族関係を理解し、子どもと家族を包括的に捉えることができる
2　人の生涯発達と乳幼児期における経験の重要性について理解することができる
3　社会の中の子育て家庭をめぐる課題を理解することができる
4　子どもの精神保健とその課題を理解することができる
5　子どもや家庭の支援における多職種連携について理解することができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を基に主体的な学修を派生させている	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容の理解が部分的に不足している	授業内容について最低限の理解に留まっている	授業内容について理解が出来ていない
課題を見出す力（30%）	自身の考える課題に対する対応や解法について考えることができる	自身の考える課題を他者に説明することができる	レジュメの内容から自身の考える課題を見出すことができる	他者の意見や考えを参考にすれば自身の考える課題を見出すことができる	他者の考えやレジュメを参考にしても課題を見出すことが出来ない
自身の考えを言語化する力（30%）	他者の意見を取り入れながら自身の考えに理由を添えて伝え相互にやりとりすることができる	自身の考えに理由を添えて他者が理解できるように伝えることができる	自身の考えを単語やキーワードを用いて表現することができる	他者の意見やレジュメの内容を参考にすれば自身の考えに似た内容を見つけることができる	自分自身の考えをまとめることができない

評価方法

筆記試験 60% 、授業内レポート（毎回提出するリアクションペーパーへのコメン ト）30% 、ワーク・ディスカッション・発表への主体的・積極的な取り組み 10%で評価します。

テキスト

毎回レジュメを配布します。
・参考図書：最新 保育士養成講座 第 6 巻 子どもの発達理解と援助
・著 者 名：『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会
・出版社名：全国社会福祉協議会
・出 版 年（ISBN）：978-4-7935-1309-1

子ども家庭福祉　～すべての子どもの育ちを支える福祉～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	必修	－	－	必修

授業概要

本授業では，子どもやその家族を取り巻く社会状況を踏まえた上で，子ども家庭福祉の理念，歴史，制度，実施体系等子ども家庭福祉の基本的な知識について講義する。特に，子ども家庭福祉の中心となる子どもの権利や権利擁護という考え方について，保育者として実践につなげることができるよう，具体的な事例に即して理解を深める。また，現代の子どもをめぐる福祉的な課題について，新聞・雑誌記事や映像資料等を用いてできる限り多くの事例を紹介する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども家庭福祉とは何か
第 2 回	現代社会と子ども家庭福祉
第 3 回	子どもの権利と権利擁護
第 4 回	子ども家庭福祉の成立と展開
第 5 回	子ども家庭福祉の制度と法体系
第 6 回	子ども家庭福祉の機関と施設
第 7 回	子育て支援・次世代育成支援と保育施策
第 8 回	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策
第 9 回	子ども虐待と DV 問題の防止施策
第 10 回	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策
第 11 回	障害のある子どもへの福祉施策
第 12 回	非行問題等を抱える子どもへの支援
第 13 回	子どもと貧困
第 14 回	子ども家庭福祉の専門職と連携
第 15 回	子ども家庭福祉の今後の課題／まとめ

予習・復習

・予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み，疑問点について調べておくこと。

・復習：授業のレジュメ，教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子ども家庭福祉の理念，歴史，制度，実施体系等，子ども家庭福祉の基本的な知識について理解する。
2) 子どもの権利や権利擁護という考え方について，実践と関連づけて理解する。
3) 現代の子どもをめぐる福祉的な課題に関心を深め，現状を理解し，今後のあり方について考察する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
自分の考えを論理的に文章で説明する力（レポート）（60%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性も不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性がない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができ，かつ，授業内容を越えた発展的な主張を展開できる。	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，授業への理解が不足している。	授業への理解が不足しており，自分の意見もほとんど述べることができない。	授業の内容を理解できておらず，自分の意見も述べることができない。

評価方法

最終レポート　60%
その他課題（リアクションペーパー，グループディスカッション等）　40%

テキスト

・教科書名：『みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉』,
・著 者 名：喜多一憲監修，堀場純也編集
・出版社名：みらい
・出 版 年（ISBN）：2020 年（9784860154998）

社会的養護Ⅰ　～こどもの権利擁護と自立支援～	西内 俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員よる授業科目

授 業 概 要

・子どもの養護を担う「社会的養護」、「施設養護」について理解する。
・子どもの「権利擁護」、「自立支援」について理解する。
・児童福祉施設について適切な理解をする。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを実施する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	子どもの社会的養護
第 2 回	日本における社会的養護のしくみ
第 3 回	社会的養護に携わる専門職
第 4 回	家庭支援の理論と実践
第 5 回	家庭的養護の理念と里親制度
第 6 回	乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
第 7 回	児童養護施設の歴史と自立支援
第 8 回	非行のある子どもの自立支援
第 9 回	情緒障がいのある子どもの社会的養護
第 10 回	知的障がいのある子どもの社会的養護
第 11 回	身体障がいのある子どもの社会的養護
第 12 回	児童養護施設における子どもの権利擁護
第 13 回	当事者からみた日本の社会的養護
第 14 回	施設の運営
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つように心がけてください。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は 3 回につき 1 回の欠席とする。授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100％理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（３０％）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（２０％）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　６０％
授業内レポート　３０％
受講態度　１０％

テキスト

授業の中で説明する

社会的養護Ⅱ　～子どもの自立を支援する～	西内 俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員よる授業科目

授 業 概 要

・社会的Ⅰで学んだ内容を基礎にして、さらに知識を深める。
・教員自身が福祉施設等で勤務した実務経験に基づき、社会的養護の実際場面の事例課題を提示して、グループワークやディスカッションを実施する。
・施設実習の事前学習として、個別支援計画作成、記録の取り方、自己評価の視点を学ぶ。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会的養護における子どもの理解
第 2 回	日常的支援
第 3 回	治療的支援
第 4 回	自立支援
第 5 回	施設養護の生活特性および実際１
第 6 回	施設養護の生活特性および実際２
第 7 回	施設養護の生活特性および実際３
第 8 回	施設養護の生活特性および実際４
第 9 回	家庭養護の生活特性と実際
第 10 回	アセスメントと個別支援計画の作成
第 11 回	記録および自己評価
第 12 回	保育の専門性に関わる知識・技術と実践
第 13 回	社会的養護に関わる知識・技術と実践
第 14 回	社会的養護における家庭支援
第 15 回	社会的養護の課題と展望

予 習 ・ 復 習

・予習：日々の子育て関係のニュースに関心を持ち、社会的養護に関する理解を深める。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
・施設養護および家庭養護の実際について理解する。
・社会的養護における計画、記録、自己評価の実際について理解する。
・社会的養護に関わる相談援助の方法、技術について理解する。
・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100％理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（３０％）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（２０％）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０％
授業内レポート　３０％
受講態度　　１０％

テキスト

・教科書名：『新版　保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』
・著 者 名：辰己隆　岡本眞幸
・出版社名：みらい
・出 版 年（ISBN）：2021年4月

保育原理　～保育実践の基本的知識や保育の基本を理解する～　川喜田昌代

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	－	－	必修

授業概要

保育所では，０歳児から小学校就学の始期に達するまでの乳幼児を対象として，保育を行っている。幼稚園・保育所での保育は、乳幼児期は人間形成の基礎を培う重要な時期であり，子どもの健全な心身の発育を図るためには正しい子ども観と保育観をもち，子どもの発達を見通して発達段階にふさわしい関わり方が必要となる。保育者としての子ども理解や援助、コミュニケーション力、指導力、協働性等の保育者に求められる保育力の基盤を学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 講義の概要説明/保育原理とは（現代の子どもの生活環境）
第 2 回	保育の理念と子ども 保育をめぐる理念と子どもとのかかわりについて学ぶ
第 3 回	保育所の役割と保育の本質 児童福祉施設としての保育所における役割とその本日について学ぶ
第 4 回	保育士の専門性と役割 保育専門職のひとつである保育士について、資格・意義・役割・専門性について学ぶ
第 5 回	保育の環境 保育の環境（物的・人的・自然・社会的・文化的）について理解する
第 6 回	保育の「ねらい」と「内容」 保育所保育指針に基づく保育における「ねらい」と「内容」について学ぶ
第 7 回	子どもの発達過程と保育 乳児から幼児の発達について、年齢ごとにみられる発達の姿を学ぶ
第 8 回	保育と遊び・進度確認試験 保育における遊びの意義や役割を学ぶ。8 回まで学んだことが確実に身に付いているかどうか確認する。
第 9 回	日本における保育制度の現状と課題 幼稚園・保育所の相違や設置基準等、日本における保育制度の現状とその課題について学ぶ
第 10 回	日本における保育施策の現状と課題 子ども子育て支援新制度等、日本における保育施策の現状とその課題について学ぶ
第 11 回	保育思想の変遷（西洋） 欧米における保育思想について、歴史や意義、思想を学ぶ
第 12 回	保育思想の変遷（日本） 日本における保育思想について、歴史や意義、思想を学ぶ
第 13 回	保育の計画・評価 保育における指導計画（全体的な計画や長期的・短期的指導計画）の意義や評価について学ぶ
第 14 回	多様な保育ニーズ 障碍、外国籍、貧困など様々な観点から、保育ニーズについて学ぶ
第 15 回	保育の方法・進度確認試

予習・復習

・予習：各回でのトピックについて教科書を中心に読み込むとともに、不明確な点については文献、インターネット等で確認する。
・復習：ノートやプリント等で振り返りをしつつ、不足分について関連文献を読み込み、資料収集を行い、成果の定着を図る。

履修上の注意

・積極的に授業に参加すること。
・教科書・資料のプリントをファイルにまとめ、常に持参すること。

到 達 目 標

・保育･教育に関する思想や歴史から保育の意義を理解する。
・保育の基本を理解し､保育目標や内容･方法を考察できる。
・保育の現状や課題について説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイス があれば課題を解くことができる。	他人のアドバイス があっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポ ―ト）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

・授業への参加姿勢（１０％)、課題レポートの提出（３０％)、試験（60％）で評価を行い、総合評価 60点以上を合格点とする。

テキスト

・教科書名：保育原理
・著 者 名：汐見稔幸、無藤隆、大豆生田啓友編著
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN)：ISBN978-4-623-08443-3

・教科書名：幼稚園教育要領・保育所保育指針・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷
・著 者 名：民秋言 編著
・出版社名：萌文書林
・出 版 年（ISBN)：978-4-89347-254-0

参考文献：保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説書

子どもの保健　～保育所における保健活動を学ぶ～	熊坂　隆行

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

子どもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするための子どもの発育や身体的特徴、子どものとの接し方について講義する。保育者として必要な保健の知識、子どもの事故や安全対策について基本的な対応、実践力を講義する。小児保健の意義、小児の生理的機能、運動機能の発達と保健、先天異常の理解と保健のほか、子どもの事故や安全対策について基本的な対応についても講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	保育における子どもの保健 （保育と保健の関係）
第 2 回	子どもの健康と保健の意義 （子どもの保健の意義　子ども期区分　健康の概念と健康指標）
第 3 回	子どもの発育と保健 （子どもの成長・発達　身体発育　身体発育の評価　身体発育の問題点）
第 4 回	子どもの生理機能の発達と保健 （体温　呼吸　循環　消化　排泄　水分代謝　睡眠　感覚　免疫）
第 5 回	子どもの運動機能の発達と保健 （脳の発達と反射　運動機能の発達　発達の評価）
第 6 回	子どもの感染病の予防と対策 （保育所における感染症対策　学校感染症と出席停止期間）
第 7 回	アレルギー疾病
第 8 回	子どもの健康状態の把握について （観察項目　健康で安全な生活のために　子どもによくみられる症状とその対応）
第 9 回	先天異常の理解と保健
第 10 回	家庭看護と保健
第 11 回	予防接種の種類と効果 （ワクチンの種類　予防接種不適者および予防接種要注意者
第 12 回	保育現場における事故防止と安全対策・救急処置
第 13 回	保育現場における安全対策並びに危機管理 （安全教育）
第 14 回	保育所保育指針における小児の保健
第 15 回	幼稚園教育要領における小児の保健

予習・復習

・予習：講義・演習前は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて予習をしてください。
・復習：講義・演習後は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

履修上の注意

自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・演習に参加してください。

到 達 目 標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能の発達と保健について理解できる。
3. 子どもの心身の疾病等と適切な対応について理解できる。
4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解できる。
5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解しているが授業の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
適切な対応能力（30%）	対応が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに問題に対応できる。	参考書や教科書を参考にすれば対応できる。	他人のアドバイスがあれば対応できる。	他人のアドバイスがあっても対応できない。
安全管理能力（20%）	管理が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに安全管理ができる。	参考書や教科書を参考にすれば安全管理できる。	他人のアドバイスがあれば安全管理できる。	他人のアドバイスがあっても安全管理できない。

評価方法

演習レポート（30%）　期末試験（50%）　受講態度（20%）

テキスト

・プリントを配布いたします。

子どもの健康と安全
～保育者として必要な保健の知識・実践力を身につける～

熊坂　隆行

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

集団保育における疾病や事故の対応、安全管理等について学び、疾病や事故を未然に防ぐ危機管理能力を高め、演習を通して、実践できる能力を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	身体の計測と評価　講義 （身長　体重　頭囲　胸囲　腹囲）
第 2 回	身体の計測と評価　演習 （身長　体重　頭囲　胸囲　腹囲）
第 3 回	観察項目の測定の仕方と評価① （バイタルサイン[体温、脈拍、血圧、呼吸、意識]の基礎）
第 4 回	観察項目の測定の仕方と評価② （バイタルサイン[体温、脈拍、血圧、呼吸、意識]の応用）
第 5 回	日常の保育に必要な技術 （抱っこ、おんぶ、食事、口腔内の清拭）
第 6 回	日常の保育に必要な技術 （排泄の援助とトレーニング）
第 7 回	日常の保育に必要な技術 （沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）①
第 8 回	日常の保育に必要な技術 （沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）②
第 9 回	あらゆる症状に対する看護 （発熱、泣き方、咳等）
第 10 回	あらゆる症状に対する看護 （頭痛、腹痛等）
第 11 回	あらゆる症状に対する看護 （嘔吐、便秘、下痢等）
第 12 回	疾病の対応と予防 （感染症、食中毒）
第 13 回	疾病の対応と予防 （手洗い）
第 14 回	応急処置 （心肺蘇生法等）
第 15 回	子どもの保育環境と衛生管理

予習・復習

・予習：講義・演習前は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて予習をしてください。
・復習：講義・演習後は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

履修上の注意

自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・演習に参加してください。

到 達 目 標

1. 保育施設のおける健康管理や環境管理ができる。
2. こどもがかかりやすい疾病と予防について理解ができる。
3. 保育中に体調不良になった場合に適切な対応ができる。
4. 保育中の事故に対する応急処置、緊急時の対応、安全管理ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解しているが授業の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
適切な対応能力（30%）	対応が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに問題に対応できる。	参考書や教科書を参考にすれば対応できる。	他人のアドバイスがあれば対応できる。	他人のアドバイスがあっても対応できない。
安全管理能力（20%）	管理が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに安全管理ができる。	参考書や教科書を参考にすれば安全管理できる。	他人のアドバイスがあれば安全管理できる。	他人のアドバイスがあっても安全管理できない。

評価方法

演習レポート（30%）　実技試験（50%）　受講態度（20%）

テキスト

・プリントを配布いたします。

子どもの食と栄養Ⅰ
～栄養の基本を知ろう、乳幼児の食生活について考えよう～

高尾　　優

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	－	－	必修

授業概要

子どもの食生活、食習慣は小児期だけでなく、障がいの健康にも影響を及ぼすことが知られている。しかし、現在の子どもたちの食生活、食を取り巻く環境には問題点が多く見られるのが現状である。

子どもの食と栄養Ⅰの授業では、まず現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について考える。次に栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養（胎児期・離乳期・幼児期）について学ぶ。離乳期・幼児期の栄養に関しては講義だけではなく、調乳や離乳食の調理についても学び、実践できる力を養うこととする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　子どもの健康と食生活の意義①
第 2 回	子どもの健康と食生活の意義②
第 3 回	栄養に関する基本的知識　栄養の基本、消化と吸収
第 4 回	栄養に関する基本的知識　栄養素１
第 5 回	栄養に関する基本的知識　栄養素２
第 6 回	栄養に関する基本的知識　栄養素３
第 7 回	栄養に関する基本的知識　栄養バランスのとれた食事、調理の基本
第 8 回	子どもの発育・発達と食生活　小児期の発育と発達
第 9 回	子どもの発育・発達と食生活　妊娠・授乳期の栄養
第 10 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 乳汁栄養
第 11 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 調乳
第 12 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 離乳栄養
第 13 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 離乳食とベビーフード
第 14 回	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の食生活
第 15 回	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の食事

予習・復習

・予習：次の授業内容に該当する部分の教科書を読んでくること。
・復習：事後学習として出された課題は必ず取り組むこと。授業内に小テストを行うので、授業内容を復習すること。

履修上の注意

授業には積極的に参加すること。私語、居眠りをしないこと。
課題等の提出期限を遵守すること。
スマートフォンの利用については指示のあったとき以外は認めない。
遅刻は授業開始後 30 分以内、それ以降は欠席とする。

到 達 目 標

子どもを取り巻く環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる
栄養学の基本的な知識を身につけ、乳児期および幼児期の栄養と食生活について理解し、実践できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの食生活の現状と課題について（10%）	自分で子どもの食生活の現状を情報収集でき、課題をみつけ、解決策を提案できる。	子どもの食生活の現状を理解でき、課題に対する解決策を提案できる。	子どもの食生活の現状を理解でき、課題もわかる。	子どもの食生活の現状を理解できるが、課題が何かわからない。	子どもの食生活の現状がわからない。
栄養について理解する（10%）	栄養について、授業内容を超えた自主的な学修ができる。	食品に入っている栄養素が理解できる。	5 大栄養素の働きを理解している。	5 大栄養素をいうことができる。	5 大栄養素がわからない。
栄養バランスのよい食事について理解する（10%）	栄養バランスについて、授業内容を超えた自主的な学修ができる。	栄養バランスのとれた食事を具体的に考えることができる。	栄養バランスのとれた食事がわかる。	栄養バランスはわかるが、バランスのよい食事がどんなものかわからない。	栄養バランスとは何かわからない。
乳児期、幼児期の栄養について理解する（10%）	乳児期、幼児期の栄養について授業内容を超えた自主的な学修ができる。	乳児期、幼児期の栄養について理解しており、調乳・調理することができる。	調乳・離乳食の作り方がわかる。	各時期にどんな食事を摂取するか理解できる。	乳児期、幼児期の食事についてイメージできない。
授業内課題、小テストについて（60%）	授業内課題は提出しており、小テストの正答率が 80 点以上である。	授業内課題は提出しており、小テストの正答率が 60 点以上である。	授業内課題は提出しており、小テストの正答率が 40 点以上である。	授業内課題は提出しており、小テストの正答率が 20 点未満である。	授業内の課題を提出していない。小テストの正答率が 20 点未満である。

評価方法

授業の取り組み（課題の提出を含む）30%＋小テスト 30%、定期テスト（レポート）40%

テキスト

・教科書名：新・子供の食と栄養
・著 者 名：今津屋直子・久藤麻子編著
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2022 年（ISBN978-4-909378-37-8）

子どもの食と栄養Ⅱ　～食育を実践しよう、特別な配慮を必要とする子供の食生活について考えよう～

中西　由季子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

小児期（学童期・思春期）、および成人の栄養について学び、自身の食生活についても考える力を養う。

子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである（食育基本法）。本授業では、講義および実習を通して、食育基本法について学び、子どもの食の問題点や改善点について検討し、食育を実践できる力を養っていく。また、児童福祉施設や家庭での食と栄養、食の安全（食中毒）、疾患のときの食と栄養、肥満ややせの子どもの食と栄養、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。疾患のときの食と栄養では近年増加している食物アレルギーを持つ子どもへの対応について理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス・子供の食と栄養Ⅰの復習
第 2 回	子どもの発育・発達と栄養・食生活　学童・思春期の食事
第 3 回	成人の栄養・食生活
第 4 回	食育の基本と実践
第 5 回	食育について計画する
第 6 回	食育について計画する・食育媒体の作成
第 7 回	クッキング保育を計画する
第 8 回	児童福祉施設や家庭における食と栄養
第 9 回	食の安全（食中毒）
第 10 回	食育発表会
第 11 回	食育発表会
第 12 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①体調不良および疾患の子どもへの対応
第 13 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②食物アレルギーのある子どもへの対応
第 14 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③障がいのある子どもへの対応
第 15 回	食物アレルギーのある子どもの食事を計画する

予習・復習

・予習：次の授業内容に関して教科書を読み、わからないことをチェックしておくこと。
・復習：事後学習として出された課題は必ず取り組むこと。授業内に小テストを行うことがあるため授業内容を復習すること。

履修上の注意

子どもの食と栄養Ⅰを履修していること。
授業には積極的に参加すること。私語、居眠りをしないこと。
課題等の提出期限を遵守すること。スマートフォンの利用については指示のあったとき以外は認めない。
遅刻は授業開始後 30 分以内、それ以降は欠席とする。

到 達 目 標

学童期、思春期、成人期の栄養と食生活について理解し、実践できる。
なぜ食育が必要なのか理解することができ、実際に食育を行うことができる。
疾患のある子ども、肥満ややせの子どもへの対応ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学童期、思春期、成人期の栄養と食生活について（20%）	学童期～成人期の栄養、食生活について授業内容を超えた自主的な学修ができる。	学童期～成人期の食生活の問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	学童期～成人期の食生活の問題点について考え、解決策を検討することができる。	学童期～成人期の食生活の問題点について考えることができる。	学童期～成人期の栄養、食生活について理解できない。
食育について（50%）	積極的に食育の取り組みについて実践することができる。	子どもの食に関する問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	子どもの食に関する問題点について考え、解決策を検討することができる。	子どもの食に関する問題点について考えることができる。	なぜ食育が必要なのかわからない。
体調不良、疾患のあるときの食事について（10%）	体調不良の子どもの食事について授業内容を超えた自主的な学修ができる。	体調不良時の子どもの食事について考えることができる。	体調不良時の対応方法が理解できる。	体調不良について理解できる。	体調不良について理解できない。
食物アレルギー児の食事について（10%）	食物アレルギー児への対応、食事内容について授業内容を超えた自主的な学修ができる。	食物アレルギー児への対応、食事内容について理解できる。	食物アレルギー児への対応について理解できる。	食物アレルギーについて理解できる。	食物アレルギーについて理解できない。
障がいのあるこどもの食事について（10%）	障がいのある子どもの嚥下障害、食事について授業内容を超えた自主的な学修ができる。	障がいのある子どもの食事について考えることができる。	障がいのある子どもの嚥下障害、食事について理解できる。	障がいのある子どもの嚥下機能について理解できる。	障がいのある子どもの嚥下機能、食事について理解できない。

評価方法

授業の取り組み（課題の提出、小テストを含む）60%　定期テスト（レポート）40%

テキスト

2022 年度に、「子どもの食と栄養Ⅰ」で使用した教科書を使用します。

乳児保育Ⅰ　～乳児保育の基本を理解する～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教科書解説、実務経験を活かした教員の解説、DVD視聴、などから、乳児保育の理念、基本について講義する。乳児の発達や援助方法などを理論的に理解できるよう講義する。また、学生同士のディスカッションも行う。講義だけでなく、具体的な保育実践について現場での実践に基づいて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、乳児保育の意義・目的・歴史的変遷について
第 2 回	乳児保育の役割と機能について
第 3 回	日本の保育・子育ての支援のシステム
第 4 回	保育所における乳児保育、保育内容（養護と教育）、保育士の役割
第 5 回	3歳未満児とその家族をとりまく環境と子育て支援について
第 6 回	これからの日本の乳児保育の課題について
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助①
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助②
第 9 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助③
第10回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助④
第11回	乳児保育における環境（安全・清潔など）について
第12回	乳児保育における環境（人・物・自然・社会事象）について
第13回	乳児保育における計画・記録・評価について
第14回	乳児保育における連携・協働について
第15回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：保育所保育指針、教科書を読んでおく。

・復習：授業内容のプリント、ノートを整理し、重要事項をチェックする。

履修上の注意

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること。

到 達 目 標

１、 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解する。
２、 保育所をはじめとする多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
３、 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
４、 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
５、 乳児の遊びについて理解し、実践に繋げる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
乳児保育の意義と目的の理解（ 10%）	授業内容を超えた学修ができる	授業内容を100%理解している。	授業内容に興味関心をもち、理解するよう努める。	授業内容に興味関心が薄く、理解が浅い。	授業内容に興味関心がなく、理解ができない。
多様な保育現場の現状と課題の理解（ 10%）	多様な保育現場について自ら調査をし、現状の理解ができる。	多様な保育現場について理解している。	多様な保育現場について興味関をもち、理解するよう努める。	多様な保育現場について興味関心が薄く、理解が浅い。	保育現場に興味がなく、理解ができない。
3 歳未満児の発育発達の理解（ 50%）	3 歳未満児の発達について様々な情報を入手して理解ができる。	3 歳未満児の発育発達について授業により理解できる。	3 歳未満児の発達発育に興味をもち、理解するよう努める。	3 歳未満児に興味関心が薄く、教員の助言により理解する。	3 歳未満児に興味がなく、理解ができない。
保育実技の実践（ 10%）	授業を超えた自主的な学修をして保育実践ができる。	声や表情に配慮した保育実技の実践ができる。	一人で保育実技の実践ができる。	周囲の人と共に保育実技の実践ができる。	保育実技の実践ができない。
課題作品への取り組み（ 20%）	課題以上の工夫を凝らした作品作りに取り組む。	課題作品に前向き丁寧に取り組む。	課題作品に取り組む。	課題作品に雑な取り組みが見られる。	課題作品に取り組まない。

評価方法

試験　70%　　課題の評価　20%　　授業態度　10%

テキスト

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年：2020 年（ISBN：978-4-909655-20-2）

乳児保育Ⅱ　～乳児保育の実践～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

乳児保育Ⅰで学習した理論を実践していくための指導をする。保育現場において保育方法の技術が向上するよう、実務経験を活かした具体的な実践方法を指導する。学生同士の意見交換や発表の場を多く設け、学生自らが考え、理論と実践が伴った保育ができるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　子どもと保育士等との関係の重要性
第 2 回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち　子どもの体験と学びの芽生え
第 3 回	子どもの1日の生活の流れと保育の環境 子どもの生活や遊びを支える環境構成
第 4 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際①（抱っことおんぶ）
第 5 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際②（着替えとおむつ替え）
第 6 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際③（調乳と授乳）
第 7 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際④（おもちゃ作成）
第 8 回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際⑤（おもちゃ作成と実践）
第 9 回	子ども同士の関わりとその援助の実際 集団での生活における配慮
第10回	長期的な指導計画　個別的な指導計画と集団の指導計画
第11回	短期的な指導計画の作成
第12回	指導計画の実践①
第13回	指導計画の実践②
第14回	指導計画の実践③
第15回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：実践のための計画を立て、準備しておく。

・復習：授業での実践を各自、自宅、実習などで実践する。

履修上の注意

保育士を志す学生として主体的・積極的に授業に参加すること

到 達 目 標

１、3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
２、養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活と遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
３、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
４、上記 1～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し実践する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
3 歳未満児の援助の考え方について理解する（ 30%）	3 歳未満児の援助について積極的に情報を入手し理解ができる。	3 歳未満児の援助方法の考え方が授業により理解できる。	3 歳未満児の援助方法が理解できる。	3 歳未満児の援助方法について理解が薄い。	3 歳未満児の援助についての理解ができていない。
養護と教育の一体性を踏まえた保育方法について理解する。（ 30%）	養護と教育の一体性を踏まえた保育方法を保育所の役割を把握の上理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育方法を理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育の理解は薄いが、保育方法については理解できる。	養護と教育の一体性を踏まえた保育についての理解が乏しく、保育方法の理解が難しい。	保育所保育に興味がなく、保育方法を理解できない。
乳児の遊びにおいての活動の実践（ 20%）	子どもの発達に即した方法で実践を行い、臨機応変な対応ができる。	指導案に即した実践を積極的な態度で実践する。	指導案に即した実践ができるが、消極的である。	指導案に即した実践ができない。	実践ができない。
乳児保育における指導計画（ 10%）	指導計画の学習を理解し、詳細で綿密な指導計画の立案ができる。	指導計画の学習を理解し、指導計画の立案ができる。	テキスト等から情報を入手し、指導計画の立案ができる。	教員の助言を受け、指導計画の立案ができる。	指導計画について理解ができず、立案ができない。
保育実践に対する積極性（ 10%）	子どもの前に立つ保育士の在り方を理解し、実践に取り組む。	自らが楽しんで保育実践に取り組む。	周囲の人の助言を受け保育実践に取り組む。	保育実践に取り組む態度が消極的である。	保育実践に取り組まない。

評価方法

試験 60%　保育実践 20%　指導計画 10%　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：乳児保育の基礎と実践
・著 者 名：関根久美　山本智子
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年 2020 年（ISBN：978-4-909655-20-2）

特別支援論Ⅰ（対象理解）　～特別支援教育の基礎・基本～　井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

障害のある子どもに携わる教師，保育士として必要な特別支援教育に係る基礎・基本的事項について以下の3点を重点的に学ぶ。

- 障害児理解，支援方法に係る基礎・基本的事項
- 多様な学びの場における障害のある子供の教育課程や実践内容等
- 特別支援教育に関する現状と課題，諸制度等

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：障害児・者との関わりと特別支援教育の理念 ※シラバス、授業の進め方の説明及び自分と障害児・者との今までの関わりについて確認する。
第 2 回	障害児教育の歴史と特別支援教育の現状 ※世界と日本における障害児教育の歴史を学び、障害の捉え方の変化について学ぶ。
第 3 回	視覚障害，聴覚障害の特性の理解と支援 ※視覚障害，聴覚障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 4 回	知的障害の特性の理解と支援 ※知的障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 5 回	肢体不自由，病弱・身体虚弱の特性の理解と支援 ※肢体不自由，病弱・身体虚弱の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 6 回	言語障害，情緒障害の特性の理解と支援 ※言語障害，情緒障害の定義及び特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 7 回	発達障害①：自閉症の特性の理解と支援Ⅰ ※社会性の障害、コミュニケーションの障害の特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 8 回	発達障害②：自閉症の特性の理解と支援Ⅱ ※想像力の障害、感覚過敏等の特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 9 回	発達障害③：学習障害の特性の理解と支援 ※LD の定義と特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 10 回	発達障害④：注意欠陥／多動性障害等の特性の理解と支援 ※ADHD の定義と特性について理解し、その具体的な支援方法について学ぶ。
第 11 回	共生社会の形成とインクルーシブ教育システムの構築に関する理解 ※インクルーシブ教育の背景やその理念の概要について学ぶ。
第 12 回	連続性のある多様な学びの場①　特別支援学校における指導の実際 ※特別支援学校の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要について学ぶ。
第 13 回	連続性のある多様な学びの場②　特別支援学級における指導の実際 ※特別支援学級の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要について学ぶ。
第 14 回	連続性のある多様な学びの場③　通級による指導，通常の学級での特別支援教育 ※通級による指導の位置付けや対象障害種、教育課程等の概要及び通常の学級における取組について学ぶ。
第 15 回	まとめ：特別支援教育を巡る状況の変化

予習・復習

- 予習：授業で取り扱う内容について，書籍やインターネットや新聞，TV 等を活用して情報収集を行う。
- 復習：資料（PPT スライド等）を用いて学んだ内容を整理して確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的マナーを守ること。
- 授業遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 障害や特別支援教育についての基礎・基本を理解する。
- 特別支援教育を巡る状況や現状の概要を理解する。
- 連続性のある多様な学びの場の概要を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>（60%）	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等に関する知識は概ね理解しているが、不十分な内容がる。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等関する知識を最低限理解している。	授業で扱った特別支援教育に係る基礎・基本的事項等関する知識を理解するに至っていない。
レポート・発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>（20%）	授業で習得した知識等をいかして、レポートや発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、不十分な内容がる。	レポートや発表の内容が、十分に課題と関わっていない。	レポートや発表の内容が、課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか）（20%）	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　60%
提出物，授業内レポート等 20%
受講態度　20%

テキスト

- 教科書は使用しないが，各回資料（PPT スライド等）を配布する。

特別支援論Ⅱ（乳･幼児への支援方法）

～特別な支援を要する乳・幼児への適切な支援を行うために～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ，特別な支援を要する子どもの支援について、以下の3点を重点的に学ぶ。

- 障害児保育の基本的知識
- 子どもの理解と発達の援助
- 家庭及び関係機関との連携

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　「障害のある子どもとは」 ※シラバス、授業の進め方についての説明及び「障害」のとらえについて学ぶ。
第 2 回	気になる子どもとは ※「気になる子ども」とはどういう子どもなのか実習体験を踏まえて協議する。
第 3 回	障害に関する法律・制度の理解 ※新しい児童福祉施設のサービス体系や障害者手帳等の制度等について学ぶ。
第 4 回	障害のある子どもの特徴（1）　感覚と運動 ※感覚の特性に配慮した支援について学び、具体的な方法について協議する。
第 5 回	障害のある子どもの特徴（2）　認知・コミュニケーション ※認知の発達やコミュニケーションの発達について学び、具体的な支援について協議する。
第 6 回	障害のある子どもの保育における理解 ※統合教育のとらえ方と必要性について学び、理解を深める。
第 7 回	障害のある子どもに配慮した環境設定 ※応用行動分析学のABC分析を使い、気になる子どもの行動変容についての演習を行う。
第 8 回	障害のある子どもに配慮した関わりとコミュニケーション ※生活の自立に向けた支援、障害特性に合わせた環境構成について学ぶ。
第 9 回	障害のある子どもと他の子どもとの関わり ※他の子どもとの関係の支援、他の子どもの理解について学ぶ。
第10回	保護者・家族との理解と支援 ※障害のある子ども・気になる子どもの保護者の心理について学び、その支援について協議する。
第11回	地域の関係機関との連携と個別の支援計画 ※地域の関係機関の機能を調べ、個別の支援計画との連携について学ぶ。
第12回	就学支援と小学校との連携 ※就学先と就学支援システムについて、就学に向けての保護者支援について協議する。
第13回	個別支援計画の作成と観察・記録・評価 ※保育における指導計画の位置づけと個別指導計画を立てることの大切さについて学ぶ。
第14回	インクルーシブ保育について ※統合保育とインクルーシブ保育の相違点について、事例を通して整理する。
第15回	まとめ　障害児保育の現状と課題

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読み、概要を把握しておく。
- 復習：復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的マナーを守ること。
- 授業遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 特別な支援を要する子どもへの具体的な支援方法を理解する。
- 関係する専門機関の機能やその役割について理解する。
- 保護者への支援について，その具体的な方法や内容について理解する。
- 保育の記録や個別の支援計画の役割や必要性、活用について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>(60%)	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った障害保育等に関する知識は概ね理解しているが、不十分な内容がる。	授業で扱った障害保育等に関する知識を最低限理解している。	授業で扱った障害保育等に関する知識を理解するに至っていない。
レポート・発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>(20%)	授業で習得した知識等をいかして、レポートや発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されている。	レポートや発表の内容が、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、不十分な内容がる。	レポートや発表の内容が、十分に課題と関わっていない。	レポートや発表の内容が、課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか)(20%)	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　60%
提出物，授業内レポート等 20%
受講態度　20%

テキスト

・教科書名：障害児保育
・著 者 名：監修　市川奈緒子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN)：2020 年　978-4623087631

特別支援論Ⅲ（児童への支援方法）

～特別な教育的ニーズを要する児童に要する具体的な支援～

井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ，小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援について、具体的な支援や指導内容等の検討・演習を通して以下の4点を重点的に学ぶ。

- 小学校における特別支援教育体制
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法
- 各教科等における指導内容や指導方法の工夫
- 通常の学級，通級による指導，特別支援学級における指導の実際

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　特別な教育的ニーズとは　インクルーシブ教育とは ※シラバス及び授業の進め方を説明し、特別支援教育の理念、インクルーシブ教育の動向を確認する。
第 2 回	小学校における特別支援教育体制の理解 ※多様な学びの場の連続性としての特別支援学級、通級による指導、通常の学級の支援体制について学ぶ。
第 3 回	学習指導要領から読み解く小学校における特別支援教育 ※小学校学習指導要領及び同解説総則編に示されている「障害のある児童などへの指導」の内容について確認し、ポイントとなる事柄について学ぶ。
第 4 回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫 ※小学校学習指導要領解説の各教科編に示されている指導内容や指導方法の工夫について学ぶ。
第 5 回	障害のある子を対象とした学習指導案の作成 ※目標設定や実態把握、学習評価等、障害のある子を対象とした学習指導案の作成する際に留意すべき点について具体的な事例を通して学ぶ。
第 6 回	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用 ※学習指導要領に示されている位置付けや留意点を確認し、作成する意義、必要性について学ぶ。
第 7 回	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の工夫 ※授業におけるユニバーサルデザインについて事例を通して、その工夫や効果を協議する。
第 8 回	知的障害児への支援 ※小学校に在籍する知的障害児への具体的な指導内容や指導方法等について学ぶ。
第 9 回	発達障害のある児童への支援① ※小学校に在籍する自閉症スペクトラムのある児童への具体的な支援方法について学ぶ。
第10回	発達障害のある児童への支援② ※小学校に在籍するLD,ADHDの児童への具体的な支援方法について学ぶ。
第11回	模擬授業① ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第12回	模擬授業② ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第13回	模擬授業③ ※先生役、児童役等役割分担をして模擬授業を行い、終了後に反省会を開き振り返りを行う。
第14回	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制及び保護者への支援 ※小学校等で特別支援教育を行うための体制の整備及び必要な取組について、その具体的な内容について学ぶ。
第15回	帰国子女や日本語の習得が困難な児童及び不登校児童への指導 ※指導の在り方について、小学校学習指導要領解説総則編に示されている内容を確認して、その内容等について学ぶ。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関連する学習指導要領等の該当部分を事前に確認しておく。必要に応じて課題を提示する。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は，必ず授業資料を受け取りに来ること。

到 達 目 標

- 指導の実際を知り、小学校における特別支援教育体制を理解する。
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法を理解する。
- 各教科等のおける具体的な指導内容や指導方法の工夫について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識/理解度<何を理解しているか>（60%）	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解しているとともに、実習等に活用できるレベルに達している。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解し、実習等への活用が期待できる。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等は概ね理解しているが、不十分な内容がある。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を最低限理解している。	授業で扱った小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援内容等に関する知識等を理解するに至っていない。
模擬授業/レポート発表力<思考・判断・表現：理解したことをどう使うか>（30%）	授業で習得した知識等をいかして、模擬授業の指導案やレポートが作成され、課題やテーマが明確に表現され、今後の工夫や課題点も示されている。	授業で習得した知識等をいかして、模擬授業の指導案やレポートが作成され、課題やテーマが表現されている。	模擬授業の指導案やレポートの発表内容は、授業で習得した知識等を踏まえて示されているが、一部不十分な内容がある。	模擬授業やレポートの内容が、十分に指導案や課題と関わっていない。	模擬授業やレポートの内容が、指導案や課題と関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか）（20%）	積極的に授業に参加するとともに、自らの学習状況を把握し、よりよく学ぼうとする意欲をもって取り組んでいる。	積極的に授業に参加し、理解したことを学びに生かそうと努力している。	授業に参加しているがやや積極性に欠け、理解したことを学びに生かそうすることがあまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

学期末試験　50%
模擬授業，授業内レポート等 30%
受講態度　20%

テキスト

- 教科書名：①小学校学習指導要領②小学校学習指導要領解説総則編③特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
- 著 者 名：①～③文部科学省
- 出 版 社 名: ①②東洋館出版社　③開隆堂出版
- 出 版 年：①～③2018
- ＩＳＢＮ：①978-4-491-03460-7　②978-4-491-03460-4　③978-4-304-04231-7

地域子育て支援論～地域の多様なネットワークと子育て支援～　佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

近年，地域の子育て支援は保育者にとって重要な役割となっている。他方，地域社会には，多様な組織・団体，施設があり，子育てや子どもの育ちを支える様々な取り組みが行われ，ネットワークが形成されている。本授業では，幼稚園・保育所のみならず児童館，公民館などの各種地域施設，またボランティア団体，NPO等各種団体など，様々な主体による地域子育て支援の実践について取り上げ，その現状と課題について映像資料等を用いて検討する。また，受講生自身が地域子育て支援のプログラムを作成し，模擬保育と相互検討を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／「地域子育て支援」が必要とされる背景
第 2 回	幼稚園・幼稚園・認定こども園における子育て支援（子育てサロン等）：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 3 回	児童館における子育て支援①乳幼児：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 4 回	児童館における子育て支援②小学生：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 5 回	児童館における子育て支援③中高校生：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 6 回	保護者主体による子育て支援①子育てサークル，子育てネットワーク：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 7 回	地域住民による子育て支援②プレイパーク：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 8 回	地域子育て支援における自治体の役割
第 9 回	世界の子育て支援（カナダ・ドロップインセンター，ニュージランド・ネウボラ等）
第10回	地域子育て支援プログラムの考え方と実際：活動見学
第11回	地域子育て支援プログラムの作成と準備①：グループ活動
第12回	地域子育て支援プログラムの作成と準備②：グループ活動
第13回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討①模擬保育と振り返り
第14回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討②模擬保育と振り返り
第15回	まとめ：「地域子育て支援」の今後の課題 「支援」の意味を考える

予習・復習

・予習：翌回のテーマに関する内容ついて，自分なりに調べておくこと。グループ活動の準備を積極的に行うこと。

・復習：授業のレジュメ，資料を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

- 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
- 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。
- 演習形式で進められるため，議論や発表等積極的な参加が求められる。

到 達 目 標

1) 地域において子育て支援が必要とされる背景を理解する。
2) 具体的な地域活動の現状と課題について理解する。
3) 地域における子育て支援プログラムを作成できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（プログラム作成）（30%）	提示された課題に沿い，かつ発展的なプログラムを作成することができる。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができる。	提示された課題とプログラムに少しずれがある。	提示された課題とプログラムがあっていない。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（プログラム作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

プログラム作成及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。各回でレジュメ，資料を配布する。

子ども家庭支援論　～様々な家庭と子どもを支援するために～　佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では，保育者が子どもとその家庭を支援していくために必要な知識と基本的な態度について理解することを目的とし，子ども家庭支援の意義と役割，保育士による子ども家庭支援の基本，子育て家庭に対する支援の体制，多様な支援の展開と関係機関との連携について講義する。また，現代社会における子どもや家庭への支援の必要性や多様な支援のニーズをおさえた上で，保育所等保育施設における子育て家庭への支援，さらには市区町村レベルでの子育て支援のあり方について考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども家庭支援とは何か
第 2 回	子ども家庭支援の目標と機能
第 3 回	子ども家庭支援における保育者の役割
第 4 回	保育士に求められる基本的態度
第 5 回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
第 6 回	保護者との相互理解と信頼関係の形成
第 7 回	家庭の状況に応じた支援
第 8 回	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
第 9 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第10回	次世代育成支援対策と子ども・子育て支援新制度の推進
第11回	子ども家庭支援の対象と内容
第12回	保育所等利用児童とその家庭への支援
第13回	地域の子育て家庭への支援
第14回	要保護児童およびその家庭への支援
第15回	子ども家庭支援の現状と課題／まとめ

予習・復習

・予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み，疑問点について調べておくこと。

・復習：授業のレジュメ，教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子ども家庭支援の意義や目的について理解する。
2) 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。
3) 子育て家庭に対する支援の体制とその多様な展開について理解する。
4) 子ども家庭支援の現状と課題について理解，考察する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
自分の考えを論理的に文章で説明する力（レポート）（60%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性も不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性がない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができ，かつ，授業内容を越えた発展的な主張を展開できる。	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，授業への理解が不足している。	授業への理解が不足しており，自分の意見もほとんど述べることができない。	授業の内容を理解できておらず，自分の意見も述べることができない。

評価方法

最終レポート　60%
その他課題（リアクションペーパー，グループディスカッション等）　40%

テキスト

・教科書名：『MINERVA 初めて学ぶ子どもの福祉 4　子ども家庭支援』
・著 者 名：倉石哲也・伊藤嘉余子監修，倉石哲也・大竹智編著
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年（4623079295）

在宅保育　～ベビーシッターの仕事～	関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	－	－	選択必修

授 業 概 要

ベビーシッターの職務について、教科書解説、DVD 視聴を通して、具体的、実践的に学ぶ講義をする。ベビーシッターとして子どもの遊びの援助や産後ケアの業務について演習を行う。そのための具体的な方法を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	子ども子育て支援新制度における「居宅訪問型保育」と「ベビーシッター」について
第 3 回	一般的ベビーシッターの業務について
第 4 回	子どもの発達とそのケア①
第 5 回	子どもの発達とそのケア②
第 6 回	子どもの発達とそのケア③
第 7 回	子どもの発達とそのケア④
第 8 回	産後ケアについて（解説）
第 9 回	産後ケアについて（演習）
第 10 回	季節に応じた遊びの実践
第 11 回	安全管理について①
第 12 回	安全管理について②
第 13 回	保育計画、保育報告について
第 14 回	「講演：ベビーシッター業務の事例」を聞く。
第 15 回	振り返りとまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストを熟読しておく。

・復習：演習したことは、自宅などで振り返り実践してみる。

履修上の注意

保育士資格取得者としてのベビーシッター認定資格取得を目的とする授業であることを自覚して受講すること。

到 達 目 標

ベビーシッターの職務について理解する。その理解が的確で実践することができるか否かの試験に合格し、認定資格を取得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ベビーシッターの職務についての理解（ 70%）	授業内容を超えた学修ができる。	授業内容 100%理解している。	授業内容を 70%理解している。	授業内容を 50%理解している。	授業内容についての理解ができていない。
子どもの遊びへの取り組み（ 20%）	授業内容を超えた学修ができる。	授業内容を理解し、積極的に演習に取り組む。	自らが楽しんで演習に取り組む。	周囲の人の助言を受けて演習に取り組む。	演習に取り組まない。
産後ケアの演習への取り組み（ 10%）	授業内容を超えた学修ができる。	授業内容を理解し、積極的に演習に取り組む。	自らが楽しんで演習に取り組む。	周囲の人の助言を受けて演習に取り組む。	演習に取り組まない。

評価方法

試験　70%　　課題の評価　20%　　授業態度　10%

テキスト

・教科書名：「家庭訪問保育の理論と実践」
・著 者 名：公益社団法人全国保育サービス協会監修
・出版社名：中央法規出版
・出 版 年（ISBN）：2022 年（ISBN978-4-8058-8427-0）

栽培　～主な野菜の作り方を学ぼう～	橋本　敏幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	－	－	－

授業概要

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について）
第 2 回	トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える）
第 3 回	エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る）
第 4 回	土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する）
第 5 回	ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する）
第 6 回	トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する）
第 7 回	キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理）
第 8 回	葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど）
第 9 回	根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ）
第10回	ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ
第11回	エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ
第12回	菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする）
第13回	地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義）
第14回	幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義）
第15回	栽培授業のまとめ

予習・復習

・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノートにまとめる。

・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

履修上の注意

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業が多くあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

到 達 目 標

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。
栽培（農業）が子どもの発達に影響を及ぼすことについて考えられるようになる。
地道に野菜作りに取り組める姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
栽培方法についての理解度（４０％）	栽培方法を理解し次に行う管理を自ら判断し正確に行うことができる。	栽培方法を理解し指示に従って正確に管理を行うことができる。	栽培方法はほぼ理解できているが正確な管理を行うことが困難である。	栽培方法がやや理解不足のため指導のもとある程度の管理ができる。	栽培方法が理解不足のため指導のもとでも管理が困難である。
栽培実習能力についての到達度（４０％）	機械や道具を正しく使いこなし作業手順について先を見ながら率先して行うことができる。	機械や道具を正しく使いこなし指示通りに作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があるが積極的に作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があり作業が消極的で時間がかかる。	消極的で実習を行う姿勢が見られない。
文章で説明する力（２０％）	栽培手順や重点箇所を理路整然と正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや大まかであるが正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや正確さに欠けるがまとめることができる。	栽培手順や重点箇所が説明不足なまとめ方である。	栽培手順や重点箇所をまとめる力が劣っている。

評価方法

学期末考査　４０％
実習態度　　４０％
レポート　　２０％

テキスト

教科書は使いません。必要に応じて資料を配布します。

演劇　～想像力と創造力～	伊東　弘美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2 年	後期	1	選択	－	－	－

授業概要

演劇のツールを使って、コミュニケーション能力を伸ばす。想像力と創造力を駆使して、自由に表現出来るように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	空間認識。仲間を知り、課題を通して自身の開放を目指す。
第 2 回	同上
第 3 回	ストーリーを作る。全員で既成の物語を言葉を紡いで再生する。
第 4 回	ストーリーを作る。全員で課題に沿ってオリジナルのストーリーを創造する。
第 5 回	ミラーゲーム。相手の動きを観察して自身が鏡のように動けるようになる。
第 6 回	１つの音を歌って全員で１曲にしていく。
第 7 回	単音で自身の出来事を表現する。課題を表現して他者は想像して当てる。
第 8 回	ジブリッシュを使って表現する。課題に沿ってジブリッシュで会話する。
第 9 回	「外郎売り」を使って、早口言葉を表現する。
第 10 回	「３人の時計職人」朗読劇を使って、読解力と表現力を培う。
第 11 回	同上
第 12 回	同上
第 13 回	同上
第 14 回	同上
第 15 回	全授業のふり返り。試験に向けてのブラッシュアップ。

予習・復習

・予習：課題を読んでくる。

・復習：授業で出来たこと、出来なかったことをふりかえり、何が原因か考える。

履修上の注意

動きやすい服装が望ましい。
遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到達目標

表現力を使って、他者とのコミュニケーションを円滑に出来るようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　４０％）	出された課題を他者にきちんと説明でき、尚且つ個性的である。	出された課題を他者にきちんと説明できる。	出された課題を他者が理解出来るように説明出来ない。	出された課題を理解できないので、他者に説明出来ない。	説明されても理解出来ていない。
表現力（　４０％）	課題に対して、個性的で、自由に表現できる。	課題に対して、求められた表現ができる。	課題に対して、求められた表現が出来ていない。	課題に対して、表現をどうしていいか悩んでいる。	課題を表現することに、恐怖を感じている。
授業態度（　２０％）	きちんと準備をして、課題に集中している。他者に対して寛容である。	課題に集中している。	時々、集中していない。	全く集中していない。	他者に対して排他的である。

評価方法

学期末試験３０％、授業の理解度３０％、表現力３０％、受講態度１０％

テキスト

印刷したものを配布します。

教育実習指導（事前事後）（幼稚園）

～教育実習を有意義な体験にするために～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ（幼稚園）それぞれについて、実習に向けての事前指導と実習を終えてからの事後指導を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	教育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 3 回	実習生としてのマナーと心構え
第 4 回	課題を明確にして教育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌について①―日誌の意義を理解する
第 6 回	実習日誌について②―日誌の書き方を学ぶ
第 7 回	「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題
第 8 回	「教育実習Ⅱ」学内オリエンテーション
第 9 回	「教育実習Ⅱ」実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第10回	実習日誌について③―場面の記録の書き方を理解する
第11回	指導案作成①―指導案の意義を理解する
第12回	指導案作成②―指導案の書き方を学ぶ
第13回	指導案作成③―指導案に沿った保育の展開を理解する
第14回	教育実習Ⅱの課題と心構え
第15回	「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題

予習・復習

(1) 予習：次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
(2) 復習：課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。

履修上の注意

・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

. 教育実習Ⅰ

・マナーを守り、意欲的に教育実習Ⅰに取り組むために課題を明確して実習に臨む。
・3 歳から 5 歳の発達を理解し、幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
・保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができるようになり実習に臨む。
・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・教育実習Ⅰを振り返り、教育実習Ⅱの課題を明確にできる。

2. 教育実習Ⅱ

・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
・保育者の援助の意図を感じ取り、「気づき」を日誌に書くことができるようになって実習に臨む。
・＜導入、展開、まとめ＞の一連の流れを指導案として作成できる。
・子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができ、指導計画の準備をして実習に臨む。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習の流れの理解と準備に対する取り組み（40　%）	実習の流れを理解し、主体的、積極的に準備に取り組む。	実習の流れを理解し、教員の見守りのもと準備に取り組む。	実習の流れの理解にやや不安があり、教員の助言を受け、準備に取り組む。	実習の流れの理解が不足していて、教員の助言・援助を受け準備に取り組む。	実習の流れを理解することができず、準備することが難しい。
幼稚園の理解（10　%）	幼稚園教育の意義、幼稚園の役割、幼児理解について積極的に学び、十分に理解している。	幼稚園教育、幼稚園の役割、幼児理解について学ぶ意欲があり、ほぼ理解できている。	幼稚園に対する理解への意欲は見られるが、理解について不十分な部分がある。	幼稚園に対する理解への意欲は乏しいが、教員の指示や助言によって学ぼうとする。	幼稚園に対する興味・関心が見られず、実習生としての学びがなされていない。
実習課題の作成（　10%）	実習においての学びの具体的な見通しがもて、自分自身で課題の作成ができる。	実習においての見通しがもて、教員の助言により課題の作成ができる。	実習においての見通しに不安があるが、教員の具体的な助言によって課題の作成ができる。	実習においての見通し、具体的な課題について教員の個別指導を受け課題を作成する。	実習においての見通しが持てず、課題を作成することが難しい。
日誌記述に対する理解（20　%）	実習日誌の意義、記述についての説明を十分に理解している。	日誌の記述についての説明を理解している。	日誌の記述についての理解に不足が見られるが、実習中の記述はできると予想される。	日誌の記述についての理解が不十分であるか、現場での学びによって記述できる可能性がある。	日誌の記述について理解できず、「書く」ことが難しい。
指導案作成に対する理解（20　%）	指導案の意義、記述について理解しており、事前授業において主体的に立案できる。	指導案の記述について理解しており、教員の助言により、立案できる。	指導案の記述においての理解がやや不足しているが、教員の指導助言をうけ、立案できる。	指導案の記述についての理解が不十分であるが、教員の個別指導を受け、現場での学びによって記述できる可能性がある。	指導案の記述について理解できず、「立案」することが難しい。

評価方法

授業態度・課題の提出物により、総合的に評価する。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、最新版
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社、2015 年
（ISBN）978-4-907270-15-5

教育実習Ⅰ（幼稚園）

～幼児理解・幼稚園教諭の仕事の理解に向けて～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に幼稚園の生活や教育活動を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。

授業計画

（1）実習期間

2023年11月16日～11月30日（10日間）

（2）実習内容

・観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。
・実習園の指導のもと、幼児の「前に立つ」ことを体験し省察する。

予習・復習

（1）予習　①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。
②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。
③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。

（2）復習　①実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

（1）教育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること

（2）教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度

・マナーを守り、意欲的に取り組む。
・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ。
・自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める。

2. 知識および技能

・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
・3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む。

3. 実習日誌

・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる。
・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる。
・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる。
・「気づき」を書くことができる。

4. 指導案

※教育実習Ⅰでは、記録に重点を置き、指導案は教育実習Ⅱの課題とする。

5. 手続きと提出物

・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない
教育活動の実践（20%）	幼児に対する教育活動を、積極的・主体的に行う	幼児に対する教育活動を、意欲的に行う	幼児の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる	教育活動において幼児に対する配慮が不十分である	幼児の前にたって教育活動を行うことができない
幼児の理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の子どもの姿からそれを確認できる	幼児の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する	観察が不足し、幼児の興味や関心への理解が不十分である	幼児への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い
園への理解（10%）	教育理念や保育者の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割について学ぶ姿勢がみられる	教育理念や保育者の役割についての学びが不十分である	学校の理念や役割への理解が薄い
実習の記録（10%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）および実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

教育実習Ⅱ（幼稚園）

～幼稚園教諭として必要な能力・技術について学ぶ～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。

授業計画

（1）実習期間

2023年6月5日～6月16日（10日間）

（2）実習内容

参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い、実践的に学ぶ。

予習・復習

（1）予習　①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する
②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める
③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める

（2）復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

（1）教育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること

（2）教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む
・「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする
・「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める

2. 知識および技能
・保育におけるPDCAサイクルを理解する
・ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す
・幼児の言動から心情を感じ取りながら、関わることができる

3. 実習日誌
・保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
・「個」と「集団」の姿を記録できる
・幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる。

4. 指導案
・子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げることができる
・導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる

5. 手続きと提出物
・期日を確認し、計画的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない
教育活動の実践（10%）	幼児に対する教育活動を、積極的・主体的に行う	幼児に対する教育活動を、意欲的に行う	幼児の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる	教育活動において幼児に対する配慮が不十分である	幼児の前にたって教育活動を行うことができない
幼児・児童の理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の子どもの姿からそれを確認できる	幼児の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する	観察が不足し、幼児の興味や関心への理解が不十分である	幼児への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い
学校への理解（10%）	教育理念や保育者の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる	教育理念や保育者の役割について学ぶ姿勢がみられる	教育理念や保育者の役割についての学びが不十分である	学校の理念や役割への理解が薄い
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない
責任実習（10　%）	指導案作成を含む準備が万全であり、当日も責任感を持って子どもの姿に配慮し臨機応変に保育を展開する	指導案作成を含む準備が十分であり、当日も責任感を持って子どもの姿に配慮して保育を展開する	指導案を作成し、当日は保育者として責任感をもって子どもの姿に配慮して保育を展開する	指導案を作成し保育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる	指導案を含む準備が不十分で、保育活動の展開に困難を伴う

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

教育実習指導（事前事後）(小学校)

～実り多い実習を実現して今後へ生かす

長沼・鈴木・大多和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年 ・2年	後期 ・前期	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

事前指導においては、各自が、小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。

事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、今後の実践的指導力を培うために自らの課題を明確にできるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】ガイダンス、小学校における教育実習の意義・目的、教育実習の概要
第 2 回	教育実習上の諸注意 オリエンテーションへの参加 心構え
第 3 回	児童と学校生活（1）学校の現状・諸問題と対応
第 4 回	児童と学校生活（2）児童の諸問題と対応
第 5 回	教師の服務（1）学校目標、学年・学級の指導目標、校務分掌、教育環境、学期・月・週・ 日程および教師の仕事の流れ、カリキュラムと時間割
第 6 回	教師の服務（2）教科指導とその他の指導、学級運営、地域・保護者との連携・対応
第 7 回	指導の実際（1）実習生としての児童への接し方、言葉遣い・態度
第 8 回	指導の実際（2）場面指導の具体例
第 9 回	指導の実際（3）学習指導の実践事例―授業設計と教材研究―
第 10 回	指導の実際（4）学習指導の実践事例―授業設計と指導案の書き方―
第 11 回	指導の実際（5）学習指導の実践事例―授業実践―
第 12 回	指導の実際（6）学習指導の実践事例―授業評価―
第 13 回	教育実習参加についてのまとめ―教師としての抱負をもつ―、実習日誌の書き方
第 14 回	【事後指導】（1）実習の報告・反省
第 15 回	（2）実習のまとめ、各自の今後の課題

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

・事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。
・1 年間にわたる科目のため、実際には 20 回程度の授業回数となる予定。

到 達 目 標

事前指導を通じて、自信を持って教育実習へ臨むことができるよう十分な力を身につけること。
また、事後指導を通じて、実習で学んだ成果を今後の教育実践に役立てられるよう万全の準備をすることができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組もうとする。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組もうとする。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習へ臨む取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認しようとする。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげようとしている。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている。	観察への努力が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぼうとしている。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぼうとしている。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載を十分に行おうとしている。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載ができる。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出しようとするが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

授業の成果（模擬授業を含む）100%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第２版）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2019 年

教育実習Ⅰ（小学校）　～より良い教師になるということ～　こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法を観察し、 大学での講義と関連付けて理解を深める。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して学ぶ。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 10 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 15 回	教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

到 達 目 標

教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解 し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（20%）	児童に対する教育活動を、積極的・主体的に行う。	児童に対する教育活動を、意欲的に行う。	児童の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる。	教育活動において児童に対する配慮が不十分である。	児童の前にたって教育活動を行うことができない。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行なう。

テキスト

・石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版）』（事前指導で使用）
・学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
・教育実習日誌(小学校)

教育実習Ⅱ（小学校）　～より良い教師になるということ～	こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科指導や特別活動等を観察し、多様な指導内容や方法について理解する。
・児童の身体的・知的・社会的発達の特性を知り、学校での生活のリズムを捉える。
・授業設計や指導案作成、授業実践等を実施することにより、児童の発達に合わせた指導内容 や指導法を学ぶ。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 10 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。研究授業。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。お別れ会など。
第 15 回	教育実習反省会。教師になるということについて再認識。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

到 達 目 標

教科教育、道徳教育、特別活動、総合的学習の時間、外国語の活動を通じて、小学校教育が道 関連させて計画が立てられているか理解する。
実際に、学習指導案の作成ができるようになり、クラス運営ができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開する。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し教育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴う。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行なう。

テキスト

・石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド（第２版）』（事前指導で使用）
・学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
・教育実習日誌(小学校)

保育実習指導Ⅰ（事前事後）～有意義な実習を行うために～	岩﨑・宮澤・大多和・小林・宮本

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前事後指導を行う、また、実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】保育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習生としてのマナーと心構え
第 3 回	保育所の生活と社会的役割
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌の書き方①記録の意義、記入上の諸注意
第 6 回	実習日誌の書き方②記録の取り方、記入の仕方
第 7 回	実習日誌の書き方③記録の取り方、記入の実際（ワーク）
第 8 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	実習目標と課題の立て方
第 10 回	３歳未満児のデイリープログラムと実習日誌の書き方
第 11 回	指導案の作成①指導案を作成する意味と指導案の書き方
第 12 回	指導案の作成②実際に指導案を作成する
第 13 回	実習直前オリエンテーション
第 14 回	【事後指導】実習成果発表会
第 15 回	保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない（講義要項 p.1 および p.16 参照）　・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

到 達 目 標

実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む　・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む　・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む　・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる　・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』わかば社，2017 年（ISBN：4907270155）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN：457781448X）

保育実習指導Ⅱ（事前事後）
～有意義な施設実習とするために～

井上・小山内・齊藤・佐藤・大多和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。また、実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習日誌の書き方、実習施設の特色等について事前指導を行う。

実習終了後には、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習成果報告会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての目標、自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業は、特別支援学校での勤務経験を反映させて実施する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	【事前指導】	保育実習Ⅱ（施設）の概要／実習事前事後指導の流れ
第 2 回		保育実習Ⅱ（施設）の意義／施設保育士の役割
第 3 回		子ども・利用者の人権と最善の利益
第 4 回		施設の理解（1）各種施設の概要
第 5 回		施設の理解（2）各種施設の子ども・利用者
第 6 回		施設の理解（3）各種施設における支援の実際
第 7 回		施設の理解（4）保育士（支援者）の役割
第 8 回		特別なニーズを持つ対象との対人関係のつくり方
第 9 回		実習日誌の書き方（1）実習施設の概要
第 10 回		実習日誌の書き方（2）施設での日々の記録を書くために
第 11 回		実習日誌の書き方（3）施設での場面記録を書くために
第 12 回		実習の課題・毎日の課題の意義と立て方
第 13 回		実習における諸注意と事前の自己チェック
第 14 回	【事後指導】	実習成果発表会
第 15 回		保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

・事前指導（13 回）の欠席が 2 割を超えた場合、実習はできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

・人権を理解し尊重する態度を身につけて実習に臨む。
・施設の役割と社会的な位置づけ、施設の現状（生活、職員の役割）を理解して実習に臨む。
・観察することの意味を理解して実習に臨む。
・記録の取り方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・期日を守り、提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
・保育実習Ⅱを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度・実習に向けた準備（30%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習や準備ができる。	授業内容を十分理解し、実習に向けた準備ができている。	授業内容を理解できていない部分があり、実習に向けた準備が不十分である。	授業内容をほとんど理解できておらず、実習に向けた準備もほとんどできていない。	授業内容を理解できておらず、実習に向けた準備も全くできていない。
課題解決及び発表能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	資料を調べたり参照したりすることができず、提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	資料を調べたり参照したりすることができず、提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
授業に対する積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2014 年（ISBN：4907270097）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(平成 29 年度告示) フレーベル館, 2018 年 3 月（ISBN:457781448X）

保育実習Ⅰ（保育所）　～保育所の機能・子ども理解に向けて～　専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する

授業計画

(1) 実習期間
2023年2月・3月の間の2週間、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる）。
(2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

予習・復習

予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。 実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める・

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. **実習生の姿勢・態度**
・保育実習に関するマナーを学ぶ
・安全に配慮できる
・子どもの生活や遊びにおける関心を高める
2. **知識および技能**
・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
・信頼関係を築くための技能を身につける
・子どもの発達過程を理解する
3. **実習日誌**
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ
4. **指導案**
・指導案とは何かを知る
5. **手続きと提出物**
・期日を守り、自主的に進められる

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる

テキスト

なし

保育実習Ⅱ(施設)

～施設保育士の役割と子ども・利用者援助理解について～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

授 業 計 画

(1) 実習期間実習時間
2023 年 2 月・3 月の間の 12 日間、実習を行う（実習施設により日程が異なる)。

(2) 実習内容
観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある)。

予 習 ・ 復 習

・予習　① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。

・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の授業に原則全て出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の到達目標に達していること。

(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・人権を理解し尊重する態度を身につける。
・施設実習を通し自己の成長を目指す。
・観察することの意味を理解して実践する。

2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。

3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。

4. 指導案
・部分実習の具体例を学ぶ。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習指導Ⅲ・Ⅳ（事前事後）~実習の集大成として~

井上・関根・佐藤・岩﨑・宮澤・小林

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅲ（保育所）・Ⅳ（施設）の意義、目的、方法などを学ぶとともに、保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅱ（施設）において明確になった課題について、さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また、子どもや利用者、保育士の役割と職務内容について理解を深め、保育士としての専門性や実践的知識を高めるため、責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習反省会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題が明確になるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
	保育実習Ⅲ（保育所）	保育実習Ⅳ（施設）
	【事前指導】	
第 1 回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第 2 回	保育実習Ⅲ（保育所）の目的と意義	保育実習Ⅳ（施設）の目的と意義
第 3 回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌とその活用（1）	実習日誌とその活用（1）
第 6 回	実習日誌とその活用（2）	実習日誌とその活用（2）
第 7 回	指導案の作成（1）	施設の役割と現状
第 8 回	指導案の作成（2）	実習課題と実習日誌の書き方（1）
第 9 回	模擬保育（1）	実習課題と実習日誌の書き方（2）
第 10 回	模擬保育（2）	指導案の作成
第 11 回	模擬保育（3）	模擬保育
第 12 回	模擬保育（4）	模擬保育（2）
第 13 回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第 14 回	実習の総括と自己評価① レポート作成	実習の総括と自己評価① レポート作成
第 15 回	実習の総括と自己評価② グループワーク	実習の総括と自己評価② グループワーク

予習・復習

（1）予習　①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
　　②実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む。

（2）復習　①課題を完成させ、期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
　　②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

・事前指導は、欠席が２割を超えた場合、実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

・園や施設の方針を理解したうえで、保育者の関わりを基に適切に行動できるようになり実習に臨む。
・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解して実習に臨む。
・記録のとり方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
・指導案を書く意味を理解し、指導案を保育実習につなげることができる。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り、今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(平成 29 年度告示) フレーベル館, 2018 年 3 月（ISBN:457781448X）
・Ⅲ：小櫃智子他編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社, 2017 年（ISBN：4907270155）
・Ⅳ：守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社, 2014 年（ISBN：4907270097）

保育実習Ⅲ(保育所)～保育所理解および保育理解を深める～	専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰ(保育所)の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する

授業計画

（1） 実習期間と実習時間

2022年8月･9月の間の2週間、90時間の実習を行う（実習園によって日程が異なります)。

（2）実習内容

実習園の指導のもと参加実習、指導実習（部分実習および責任実習）を行い、省察する。

予習・復習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める

(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。

①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④保育実習指導Ⅲ（事前事後）の到達目標に達していること

(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。

保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる
・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる

2. 知識および技能
・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる
・生活・遊びを促すための援助ができる

3. 実習日誌
・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。

4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる
・全日実習指導案の作成から実践につなげる

5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（実習態度、保育所理解、幼児理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習Ⅳ(施設)

～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～

専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授業計画

(1) 実習期間実習時間

2022年8月・9月の間の12日間の実習を行う（実習施設により日程は異なります)。

(2) 実習内容

観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

予習・復習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める

② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する

③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める

(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。

①実習派遣条件科目の単位を修得していること

②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること

③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること

④保育実習指導Ⅳ（事前事後）の到達目標に達していること

(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。

保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度

・施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる

・保育者として学んだことを主体的に果たすことができる

2. 知識および技能

・信頼関係を築くための技能を身につける

・施設の役割と社会的な位置づけを知る

・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する

3. 実習日誌

・子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる

・「個」と「集団」の姿を記録できる

・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。

4. 指導案

・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる

5. 手続きと提出物

・期日を守り、計画的に進められる

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育・教職実践演習（幼・小）～これまでの学びをふりかえる～	長沼・関根・佐藤. 岩﨑・小林・西内 大多和・鈴木・宮本

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から２年次前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。免許・資格取得関連項目について、何をどう学んだか、学修評価表（かわたんシート）を通じて確認し、保育所をはじめとする各児童福祉施設、幼稚園および小学校について、分野ごとに、子ども理解、クラス経営、内容の指導法等に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	全体講義①外部講師の講義（先輩から学ぶ保育・教育の現場）
第 3 回	クラス別演習①
第 4 回	全体講義②外部講師の講義（保育所で働くということ）
第 5 回	クラス別演習②
第 6 回	全体講義③外部講師の講義（児童福祉施設で働くということ）
第 7 回	クラス別演習③
第 8 回	全体講義④外部講師の講義（幼稚園で働くということ）
第 9 回	クラス別演習④
第 10 回	全体講義⑤外部講師の講義（小学校で働くということ）
第 11 回	クラス別演習⑤
第 12 回	全体講義⑥ふりかえり
第 13 回	クラス別演習⑥
第 14 回	全体報告会
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：日頃から、情報メディアセンター（図書館）へ赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。

・復習：授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

履修上の注意

原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、必ず届け出ること。
クラス別演習は、２０～３０名程度のクラスを編制し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

到 達 目 標

これまで大学で学んできた授業内容、および実習での活動について、学修評価表（かわたんシート） を通して全体の関係性を理解することができる。
また、自己の学修と他者の学修とをグループディスカッション等を通して比較し、教育・保育・福祉の多様性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（40%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（10%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

学期末レポート 70%
授業内レポート 20%
受講態度 10%

テキスト

教科書は使用しない。

保育･教育学演習Ⅰ　～『クオーレ』を読む～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

イタリアの作家エドモンド・デ・アミーチスの名作『クオレ』(1886 年刊行) を講読します。この作品には、今から 130 年ほど前の北イタリアの都市の 1 年間の学校生活が小学 4 年生の日記形式で綴られています。作品の講読をつうじて各自が保育・教育学に関する諸問題を発見・分析し、皆で討議することを通じて、各自が保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるよう指導します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第 2 回	作品の講読・分析（その 1）
第 3 回	作品の講読・分析（その 2）
第 4 回	作品の講読・分析（その 3）
第 5 回	作品の講読・分析（その 4）
第 6 回	作品の講読・分析（その 5）
第 7 回	作品の講読・分析（その 6）
第 8 回	作品の講読・分析（その 7）
第 9 回	作品の講読・分析（その 8）
第 10 回	作品の講読・分析（その 9）
第 11 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 1）
第 12 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 2）
第 13 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 3）
第 14 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 4）
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。

遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 70%

学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：『クオレ』（21 世紀版 少年少女世界文学館 22）
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年（ISBN）：2011 年

保育･教育学演習Ⅰ　～絵本を読む・絵本をつくる～

木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

幼稚園実習や就職後に使うための、創作絵本の制作をする。
創作紙芝居の共同制作し、その方法と意義の理解を指導していく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	紙芝居の共同制作　アイディア出し　作画
第 2 回	紙芝居の共同制作　作画　脚本
第 3 回	紙芝居の共同制作　完成　上演練習
第 4 回	絵本の制作 アイディアを出す
第 5 回	絵本の制作 構成
第 6 回	校外授業
第 7 回	校外授業
第 8 回	絵本の制作 作画
第 9 回	絵本の制作 作画
第 10 回	絵本の制作 作画
第 11 回	絵本の制作 彩色
第 12 回	絵本の制作 彩色
第 13 回	絵本の制作 製本
第 14 回	絵本の制作 製本
第 15 回	まとめ・振り返り

予習・復習

・予習：できるだけ多くの絵本を読む。

・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

履修上の注意

自分の宝物を作るつもりでこの授業に臨む。
校外授業を行う(場所、取り組みなどについては授業の中で説明する)。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

絵本について詳しくなる。
自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後に役立つ知識や経験を積む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［絵本・紙芝居制作等における活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［絵本・紙芝居制作等におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［絵本・紙芝居制作等における表現力］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた作品を作る表現力を持っている。	作品を作る表現力を持っている。	作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

提出作品(70%)

制作態度・発表(30%)

テキスト

使用せず。適宜プリントを配布する

保育･教育学演習Ⅰ　～特別支援教育に関心を深める～　井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習は、特別支援教育に関する研究領域において、受講生一人ひとりが疑問に感じていること、もっと知りたいこと等を中心に、個人またはグループで調査・研究テーマを設定して取り組む。領域は特に指定せず、心理、病理、生理、教育課程、指導方法、指導内容、指導体制等幅広く扱い、受講生が特別支援教育に関心を持ち、深めることができるよう指導する。

前半は調査・研究テーマに基づく資料の収集と整理及び分析を行い、中間報告に臨む。後半はポスター制作に取り組み、発表会を行う。発表と討議からさらに理解が深まるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	調査・研究テーマ設定について
第 3 回	調査・研究活動①　資料の収集と整理
第 4 回	調査・研究活動②　資料の収集と整理
第 5 回	調査・研究活動③　資料の分析
第 6 回	調査・研究活動④　資料の分析
第 7 回	調査・研究活動⑤　中間発表用レジュメ作成
第 8 回	中間発表　質疑応答
第 9 回	調査・研究活動⑥修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析
第10回	ポスター制作①　構想立案
第11回	ポスター制作②　制作活動
第12回	ポスター制作③　製作活動
第13回	ポスター制作④　発表練習
第14回	ポスター発表会
第15回	まとめ

予習・復習

- 予習：調査・研究活動、ポスター制作のスケジュールに沿って、効率よく活動が進むように計画的に準備を行う。
- 復習：取り組んだ活動の見直しや不足部分の補充を行い、次回に備える。

履修上の注意

- 資料収集、分析を重視し、エビデンスに基づいた調査・研究活動、発表になるように努めること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

- テーマに関連する資料や文献を収集・整理し、それらを引用・参照して分析を行う方法を学び、理解する。
- 設定した調査・研究テーマのポスターを制作し発表を行う。
- 特別支援教育への関心が高まる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
レポート・ポスター発表力＜思考・判断・表現：理解したことをどう使うか＞ (40%)	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を十分に活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が、テーマと関わって示されている。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わって示されているが、一部不十分な内容がある。	レポートやポスターの発表の内容が、十分にテーマと関わっていない。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか） (60%)	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加するとともに、自らの進捗状況を把握し、よりよく活動を遂行しようとする意欲をもって取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加し、よりよいものにしようと改善・工夫をしながら取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に参加しているが、やや積極性に欠け、改善・工夫しようとする態度があまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

発表内容：40%
受講態度（参加度、貢献度を含む）：60%

テキスト

教科書は使用しない。

保育･教育学演習Ⅰ　～体育・健康科学　実践・実感を通して～	小山内弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習では、「身体、身体活動」を中心に実践していく。自分自身が様々な運動を経験し、その中での気づきを発見する。また、運動の「できない」から「できる」に変わるためにどのように活動を組み立てていく必要があるかを自分たちで探索的に考えていく。その経験を踏まえて、運動に対して多角的に取り組めるように運動あそびの作成も行っていく。実践、実感し、物事を系統的に考えられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　保育・教育学演習Ⅰ　体育・健康科学についての進め方や注意事項を伝達する。
第 2 回	運動遊びの実践①：　運動遊びを実践し、自己の運動遊びの「できる」「できない」を確認するとともに、互いに教えあうことを実践してみる。
第 3 回	パラバルーンの立案、作成、実践①：　全員で行う種目であるパラバルーンを知るとともに、体験してみる。
第 4 回	パラバルーンの立案、作成、実践②：　パラバルーンの演技を、音楽、振付から考え、完成させるための準備を進める。
第 5 回	パラバルーンの発表（リハーサル）①：　一通り完成したパラバルーンの演技を実際に行い、細かな調整を行う。
第 6 回	パラバルーンの発表：　全員で発表を行う。
第 7 回	運動遊びの実践②：　大人であっても「できない」遊びを実施しながら、「できる」ための方法を ICT やアイディアを持ち寄って検討してみる。
第 8 回	運動遊びの立案：　運動遊びを人に「行わせること」を目指して、各自が実践する内容を立案する。
第 9 回	運動遊びの作成：　運動遊びを人に「行わせること」を目指して立案した内容を実践できるようにシナリオを作成する。
第 10 回	遊びの発表（シミュレーション）：　運動遊びを人に「行わせること」を目指して作成した内容のシミュレーションを行い、発表の準備をする。
第 11 回	運動遊びの発表・実践①：　運動遊びを人に「行わせること」を実際に実践してみる。
第 12 回	運動遊びの発表・実践②：　運動遊びを人に「行わせること」を実際に実践してみる。
第 13 回	運動あそびの評価分析：　運動遊びを人に「行わせること」の実践について、互いに評価・分析を検討することで、その内容の理解を深める。
第 14 回	保育・教育学演習Ⅱについて：　保育・教育学演習Ⅱの内容について説明することで、保育・教育学演習Ⅱへの見通しをもった準備を行わせる。
第 15 回	全体総括

予習・復習

集団での活動が中心となることから、内容の理解が薄い場合は他の多くの学生に負担を強いることになることから、以下の予習・復習を必ず行う事。

・予習：内容の理解を深めるようシミュレーションや内容の確認を十分にして授業に臨む。

・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見する。

履修上の注意

実技での活動を中心とする。全ての内容において多くの準備を必要とする。できる・できないのみではなく、積極的で「一生懸命」な姿勢で取り組むこと。集団での活動が中心となることから、協調性を持ち、積極的にコミュニケーションを取ることを期待する。
・主にアリーナで行うが、その際は適した服装をすること。
・遅刻は 3 回で 1 回の欠席とする。
※履修者の状況に合わせて，内容を変更する場合がある。

到 達 目 標

初めて行う運動や、「できる」または「できない」運動に取り組むことで、運動へどのようにアプローチしていくかを積極的に考えることができる。
互いに協力しあいながら、運動に取り組み楽しみを共有することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（30%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
問題発見能力（20%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
授業での協調性（20%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・授業への貢献度（積極性、協調性）（50%）
・発表（30%）
・提出物（20%）

テキスト

なし。
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～保育学～

関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

児童文化財である「エプロンシアター」を作成について指導する。
人形劇、児童劇などのパフォーマンスを観覧の場を設定し指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	エプロンシアターの題材を決定する。
第 3 回	エプロンシアターの型紙つくり①
第 4 回	エプロンシアターの型紙つくり②
第 5 回	エプロンシアターの型紙つくり③
第 6 回	布の裁断①
第 7 回	布の裁断②
第 8 回	エプロンシアターの縫製①
第 9 回	エプロンシアターの縫製②
第 10 回	外部での実践見学
第 11 回	観覧した「演目」に関るまとめ
第 12 回	エプロンシアターの縫製③
第 13 回	エプロンシアターのしかけつくり①
第 14 回	エプロンシアターのしかけつくり②
第 15 回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：作成について資料収集をする。

・復習：各自の計画に間に合うよう、自宅での実践を行う。

履修上の注意

自分の課題に向かって前向きに取り組むこと。

到 達 目 標

教員の援助を受けながら、自分の力で「エプロンシアター」を完成させる。作成方法、裁縫の技法を身に付ける。「人形劇」「児童劇」の観劇から感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
エプロンシアター作成への取り組み（ 80%）	自らの技量で作成することができ、主体的に作成に取り組む。	教員の助言を受けながら、主体的に作成に取り組む。	教員の助言、補助を受けながら、主体的に作成に取り組む。	教員の補助、周囲の人の助言を受けながら、作成に取り組む。	エプロンシアターの作成に取り組まない。
外部での観劇からの学び（ 20%）	子どもの感性を豊かにするという観点から演目の楽しさを捉えることができる。	子どもの目線での演目の楽しさを捉え学びに繋げる。	自らが感じた楽しさから演目の楽しさを捉え、学びに繋げる。	自らが演目を楽しむ。	観劇に参加しない。

評価方法

作成の取り組みの評価 80%　課題提出 20%

テキスト

特になし。メディアセンター等を利用し各自の課題に適した資料を入手する。

保育･教育学演習Ⅰ（音楽教育実践学）

～管・打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

管・打楽器や身の回りにあるもの等を用いて，自らも主体的且つ豊かに表現することで，子ども達 に「音楽の楽しさ」「表現することの楽しさや大切さ」を伝えられるような保育者・教育者を目指す。 また，楽曲分析や討論，演習などを通して研究を深めるための方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，研究テーマの検討	
第 2 回	研究計画について	楽器の奏法の習得①
第 3 回	楽器編成や幼児・児童に合わせた編曲について	〃 ②
第 4 回	探求・研究活動①	〃 ③
第 5 回	探求・研究活動②	〃 ④
第 6 回	探求・研究活動③	〃 ⑤
第 7 回	探求・研究活動④	〃 ⑥
第 8 回	中間発表(学園祭での発表)	
第 9 回	探求・研究活動⑤	〃 ⑦
第 10 回	探求・研究活動⑥	〃 ⑧
第 11 回	探求・研究活動⑦	〃 ⑨
第 12 回	探求・研究活動⑧	〃 ⑩
第 13 回	探求・研究活動⑨	〃 ⑪
第 14 回	探求・研究活動⑩	〃 ⑫
第 15 回	探求・研究活動⑪	〃 ⑬

予習・復習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

履修上の注意

大学祭での発表など授業外での活動も行うため，必ず参加すること。

到 達 目 標

・管・打楽器，鍵盤楽器，声等によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表に向けた企画・運営のための実践力の向上

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
楽器の技能（30%）	担当楽器を自由に演奏することができ、さらに上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	担当楽器をしっかりと演奏することができ、所々、工夫することができる。	時々躓くが、担当楽器を一人であれば、ほぼ演奏できる。	アドバイスを参考に、担当楽器を演奏しようとするが躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず、全く演奏することができない。
器楽合奏の技能（30%）	周りに指示を出しながら練習や演奏を進め、全体の流れを把握しながら的確にアドバイスすることができる。	全体の流れを把握し、周りの人と合わせてしっかり演奏することができる。	全体の流れはあまり把握できておらず、周りと上手く合わせられないところがある。	全体の流れを把握できておらず、一度躓くと、途中から流れに戻ることが難しい。	全体の流れや自分の役割を全く把握しておらず、合奏は見ているだけになっている。
ステージ発表に向けた創意工夫（10%）	曲に応じた音色の工夫や振付、パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	曲に応じた振付、パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	演奏することはほぼできるが、パフォーマンスは所々だけ意識することができる。	演奏することはあまりできず、パフォーマンスまで意識を向けることは難しい。	演奏することがほぼできず、パフォーマンスを意識することは全くできない。
企画・運営の能力（10%）	発表に向け、魅せる演奏をするためのパフォーマンスを含めた企画・運営方法を考えることができる。	周りと協力して、ステージ発表の企画・運営について考えることができる。	ステージ発表の企画・運営について、意見を求められたときに発言することができる。	ステージ発表の企画・運営について、意見を求められてもほとんど何もいうことなく、お願いされたことだけを行う。	ステージ発表の企画・運営について何も考えておらず、お願いされたことも行うことができない。
学習意欲（20%）	話し合い活動の際にリーダーを務め、話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し、積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際、意見を求められたらいうことはできるが、授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。課題は概ね期日内に提出している。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいうことがなく、授業に臨む姿は積極性に欠ける。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	話し合い活動の際、その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず、授業に臨む姿は消極的である。未提出の課題がある。

評価方法

演奏技能及びアンサンブル力（60%）　発表（20%）　学習態度・課題提出（20%）

テキスト

適宜，楽譜や資料を配布するため、スクラップブック等に整理し、まとめること。

保育･教育学演習Ⅰ　～絵本や昔話、幼年童話を深く学ぶ～　佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、ゼミ生一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。

前半は教育実習Ⅰでの部分実習活動を念頭に、絵本の種類や知識、使い方など、絵本において知っておくべき基本的な事柄を確認する。その上で、想定される対象年齢児の発達や成長を踏まえて選んだ絵本の読み聞かせを実演してもらい、それに対して個別指導を行う。

後半は、1つの研究テーマを柱に、ゼミ生間で発表や意見交換を行う。研究テーマに該当すれば、児童文学や児童文化作品から研究対象を自由に選ぶことができる。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・２年間のゼミ授業とチューター制度の確認 ・学生同士で自己紹介
第 2 回	絵本研究の基本① ・個別面談指導（１回目）
第 3 回	絵本研究の基本② ・絵本の特徴と“絵本でリブリオバトル”（※お気に入りの絵本を１冊持参）
第 4 回	絵本研究の基本③ ・絵本作品の鑑賞と研究観点（形態別）について説明、学園祭に関して
第 5 回	絵本研究の基本④ ・絵本作品の鑑賞と研究観点（作家別）について説明、学園祭に関して
第 6 回	学園祭での出展を通じて① ・学園祭に向けての準備や練習（※協働活動）
第 7 回	学園祭での出展を通じて② ・学園祭での実践と振り返り
第 8 回	児童文化の活動① ・「クリスマス・ガーランド」の制作
第 9 回	絵本研究の基本⑤ ・「研究テーマ（共通）」の説明
第 10 回	絵本研究の基本⑥ ・「研究テーマ（共通）」に則した絵本の選書と紹介
第 11 回	教育実習Ⅰに向けて① ・絵本の読み聞かせの指導
第 12 回	教育実習Ⅰに向けて② ・個別面談指導（２回目）
第 13 回	児童文化の活動② ・折り紙「指人形」の作成と実演
第 14 回	絵本研究の基本⑦ ・調査と分析の準備
第 15 回	絵本研究の基本⑧ ・「プレ発表」研究テーマに則した研究発表

予習・復習

・予習：文献や配布資料の読み込み、教材（絵本）の調査、発表準備など（毎回授業時に指示する）

・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
・遅刻は 20 分までとし、3 回で 1 回の欠席とみなす。
・児童文学や児童文化のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する予定である。

到 達 目 標

・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論と、それを現場で生かす実践力を身につける。
・文献や資料をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
調査分析力（25%）	指導内容を超えて、主体的に調査や分析ができる	指導内容を踏まえて、必要十分な調査や分析ができる	調査や分析が指導時に求めたレベルに満たない	調査や分析の精度や独自性が十分でない	事前の調査や分析をほとんどしていない
口頭発表力（25%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
協働活動力（20%）	ゼミ生同士の活動に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	ゼミ生同士の活動において、協力する姿勢がある	協働活動において自分の役割を理解し、それに努める	協働活動において常に受動的な態度だが、活動には参加する	活動に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・研究発表　50%
・制作課題　30%
・受講態度　20%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ（教育学・子ども家庭福祉論）
～地域と子ども・子育て～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

「地域と子ども・子育て」というテーマのもとに，その現状と課題を概観した上で，地域において行われている子ども・子育て支援の実際について，文献や映像資料等に加え実地調査や体験学習を通して検討を行う。具体的には，受講生自らが育ってきた／住んでいる地域における子育て支援の実践事例について，その意義や役割，課題等について調査研究する。また，実際に地域に出て，子育て支援活動を実施し，準備から計画，実施に至るまで，学生主体で活動を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	地域と子ども・子育てをめぐる現状と課題①（文献を用いたグループディスカッション）
第 3 回	地域と子ども・子育てをめぐる現状と課題②（文献を用いたグループディスカッション）
第 4 回	地域における子ども･子育て支援の実際（映像資料等を用いたグループディスカッション）
第 5 回	事例調査の進め方（先行研究，資料収集の方法や成果のまとめ・発表方法等について）
第 6 回	地域における子ども・子育て支援事例の収集，発表準備
第 7 回	地域における子ども・子育て支援の実際①受講生による事例調査報告
第 8 回	地域における子ども・子育て支援の実際②受講生による事例調査報告
第 9 回	地域での子育て支援活動の準備①対象についての事前学習
第 10 回	地域での子育て支援活動の準備②指導案の作成等（グループ活動）
第 11 回	地域での子育て支援活動の準備③模擬保育等（グループ活動）
第 12 回	地域での子育て支援活動の実施（学外授業）
第 13 回	学外授業の振り返り
第 14 回	実践活動記録の作成（グループ活動）
第 15 回	活動報告会／まとめ

予習・復習

・予習：個人またはグループでの課題や活動の準備

・復習：特になし。

履修上の注意

- 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
- 学外での活動を予定しているが，実施回・日については未定である。また，社会状況により中止や他の方法への変更もありうる。

到 達 目 標

1) 地域と子ども・子育てに関する諸課題について研究的姿勢を持って探究し，論理的思考やプレゼンテーション能力を身につける。
2) 保育者としての立場から，地域子育て支援活動を観察及び実践し，基本的知識と技術を習得する。
3) 自分の役割を見つけ，能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（プログラム作成）（30%）	提示された課題に沿い，かつ発展的なプログラムを作成することができる。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができる。	提示された課題とプログラムに少しずれがある。	提示された課題とプログラムがあっていない。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（プログラム作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

プログラム作成及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育･教育学演習Ⅰ　～臨床保育学演習～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

園生活で使用されている保育知識・技術を、受講生の興味・関心に応じて理解が深められるように指導する。現在、保育現場で行われているモンテッソーリ教育やシュタイナー保育、ヨコミネ式保育等について文献、実地調査を交えて学習を進める。また、保育現場で使用できる教材を作成し発表を行えるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	各自で保育方法を調べる
第 3 回	各自で調べた保育方法を発表する
第 4 回	テーマに基づきグループで理解を深める
第 5 回	グループで実地調査に向けて準備を行う
第 6 回	グループワーク発表準備：学内
第 7 回	グループワーク発表
第 8 回	保育教材について調べる
第 9 回	保育教材作成①-ペープサート作成１-
第 10 回	保育教材作成②-ペープサート作成 2-
第 11 回	保育教材作成③-ペープサート作成 3・練習-
第 12 回	保育教材作成④-ペープサート作成 3・練習 2-
第 13 回	作成した保育教材の発表①
第 14 回	作成した保育教材の作成②
第 15 回	まとめ・振り返り

予習・復習

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

履修上の注意

・自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・オープンキャンパス等の学校行事に参加する。

到 達 目 標

・保育方法について学び、知識を増やし今後の自分の保育に生かす。
・教材作成を通じて、実習や就職後に生かす。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
製作物（30%）	期限内に丁寧な作品を作成できる	期限内に作品を作成出来る	製作は終了したが期限内に仕上げることができない。	期限内に製作は終了したが雑な仕上がりである。	授業回数終了までに製作を終わらすことが出来ない。
発表（30%）	具体的な指導案を作成し練習の成果が発揮できる。	練習不足であるが具体的な指導案作成が出来る。	具体的な指導案作成、発表に向けた練習ができない。	具体的な指導案作成ができないがアドバイスがあれば発表ができる。	アドバイスがあっても指導案を作成し発表ができない。
受講態度（40%）	授業や行事に積極的に参加し自身の課題に向けた取り組みができる。	授業や行事に参加し自身の課題を見いだす事ができる。	授業や行事に参加するが自身の課題が見つけられない。	授業や行事に対する参加が不十分であるが自身の課題を見いだせる。	授業や行事に参加出来ず自身の課題を見つけることができない

評価方法

課題への取り組み 30%　　発表 50%　　受講態度 20%

テキスト

・特になし。適時、資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～～歌唱を中心とした音楽表現の探究～　宮澤多英子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

歌唱を中心とした音楽表現の探究活動を通して、音楽表現の創意工夫や演奏技能を指導する。

大学祭での演奏発表では、聴き手が音や音楽を楽しむことができるコンサートを目指し、主体的・協働的に企画・発表を行う。また、身の回りの音を聴くサウンド・ウォークと「サウンド・マップ」の作成や、身近な素材を用いた「音色づくり」にも取り組み、音や音楽に対する豊かな感性や創造的な表現力を育成する。

合唱活動においては、対面での合唱だけでなくリモート合唱動画の制作にも取り組み、自分自身の演奏発表を客観的に振り返って改善する表現活動のプロセスについて学ぶ。また、演奏発表における視覚的要素の重要性や効果についても触れ、演奏発表に本格的に取り組む「保育・教育学演習Ⅱ」へとつなげる。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、大学祭での演奏発表の企画
第 2 回	合唱・ミュージックベル合奏①個人・グループ練習
第 3 回	合唱、ミュージックベル合奏②個人・グループ練習
第 4 回	合唱・ミュージックベル合奏③個人・グループ・全体練習
第 5 回	合唱・ミュージックベル合奏④個人・グループ・全体練習
第 6 回	合唱・ミュージックベル合奏⑤個人・グループ・全体練習
第 7 回	【大学祭での演奏発表】準備・リハーサル・本番・片付け
第 8 回	身の回りの音を聴く①サウンド・ウォークの実施
第 9 回	身の回りの音を聴く②「サウンド・マップ」の作成と発表
第 10 回	身の回りの音を聴く③身近な素材を用いた音色づくり
第 11 回	合唱①パート練習
第 12 回	合唱②パート練習・全体練習
第 13 回	合唱③パート練習・全体練習、リモート合唱動画の制作
第 14 回	合唱④リモート合唱動画の制作
第 15 回	【リモート合唱動画の鑑賞・対面での合唱発表】

予習・復習

・予習：楽譜が配布された楽曲については全て、事前に譜読みをして練習しておく。
・復習：授業で演奏した部分について、確実に演奏できるように反復練習をする。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・大学祭での演奏発表は、準備・リハーサル・本番・片付けまで、全ての活動への参加を必修とする。

到 達 目 標

・自分自身の音や音楽に対する感性や表現力を伸ばそうとする意欲をもち、授業に主体的、協働的に取り組むことができる。
・楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして演奏発表することができる。
・身の回りの自然音や環境音について知覚・感受したことをサウンド・マップとして他者に伝えたり、石や紙など身近な素材に働きかけることで多種多様な音色を発見したりすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（40%）	指定された予習・復習や課題以外にも自主的に課題を設定して取り組み、音楽表現活動に積極的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、音楽表現活動に主体的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みがやや消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みが消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、音楽表現活動への取り組みが消極的である。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして演奏発表することができる。	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして演奏発表することができる。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、演奏発表の技能がやや不足している。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、演奏発表の技能が不十分である。	楽曲にふさわしい表現の工夫がみられず、演奏発表の技能も不十分である。
音に対する思考力と判断力（10%）	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を十分に知覚・感受し、その関わりについて多角的な視点から考え、思考を深めた上で判断することができる。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受し、その関わりについて多角的な視点から思考・判断することができる。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受し、その関わりについての自分なりに思考・判断している。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受するものの、その関わりに対する思考・判断が不十分である。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受するものの、その関わりに対する思考・判断がみられない。

評価方法

・受講態度 40%　…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・演奏発表 50%　…【評価項目】表現の創意工夫と演奏発表の技能
・テキストへの記述課題 10%　…【評価項目】音に対する思考力と判断力

テキスト

「保育・教育学演習Ⅰ」に引き続き以下のテキストを使用する。
・教科書名：：『保育者養成のための創作表現活動―音楽・造形・身体動作のつながり―』
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：株式会社 外為印刷
・出 版 年：2021 年

保育･教育学演習Ⅰ　～科学的探究の方法と実践～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習では、科学的な遊びを通して、その遊びの中の不思議さの解明や、遊びがより魅力的に展開されるための方法を主体的に探求できるように指導する。特に演習Ⅰでは日常生活や、学校内外の身近な自然に潜む不思議さ、おもしろさ、美しさに出会える体験活動を設定することで、科学的な見方・考え方に加えて、受講生自身が自ら課題（問）をもち、探求しようとする意欲・態度を育成することを目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	色素のふしぎで遊ぶ①ペーパークロマトグラフィの色あそび。
第 3 回	色素のふしぎで遊ぶ②インクアートのしおり製作。
第 4 回	プラスチックのふしぎであそぶ①ペットボトル飲料ラベル、食品カップ・パックでオリジナルパッケージづくり。
第 5 回	プラスチックのふしぎであそぶ②プラバンシートを活用したプラバン作品製作。
第 6 回	科学あそびを活用したお店屋さんの開店計画作成、看板・チラシ等の準備。
第 7 回	科学あそびを活用したお店屋さんの実施。
第 8 回	PVA のふしぎであそぶ①割れないシャボン玉の材料・道具の探究。
第 9 回	PVA のふしぎであそぶ②スライムの触感遊びと「光るスライム」製作を通して化学発光の仕組みにふれる。
第 10 回	学外学習（科学館見学）
第 11 回	結晶化のふしぎで遊ぶ①過冷却を利用した氷の花と凝固点降下によるアイスづくり。
第 12 回	結晶化のふしぎで遊ぶ②尿素でクリスマスオーナメント製作。
第 13 回	人工イクラ・人工クラゲを作りふしぎな感触遊びを楽しむと共にゲル化の仕組みにふれる。
第 14 回	思い通りに泳ぐお魚・浮沈子ボトル製作で圧力と浮力の見える化実験。
第 15 回	振り返り、ドキュメンテーション作成。

予習・復習

・予習：授業計画に沿って、次の活動の材料や工程等を調べる。
・復習：ドキュメンテーション用の写真、配布資料等を整理し学習内容を振り返る。

履修上の注意

・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。
・受講生一人ひとりが生活や学習を進める過程で見つけた課題（問い）を探求することを推奨しますので、上記の計画にとらわれず、自らの「不思議だな」「やってみたいな」と思うことを積極的に発信してください。

到 達 目 標

・身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。
・自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。
・自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。
・他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。(25%)	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに頻繁に心を動かし、表現し、他者によりよい影響を与えている。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それ積極的に表現できる。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かしているようだが、表現が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。(25%)	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、積極的に自らの問いや意見を表現し、他者によりよい影響を与えている。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、積極的に自らの問いや意見を表現できる。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題について、自らの問いや意見をもっているが、表現の仕方が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。(25%)	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が常に見られ、他者のモチベーションも高めている。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が見られる。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度があまり見られない。	自らの課題（問い）を問うても回答がなく、指導された方法でのみ活動を行っている。	ほとんど活動に参加しようとしない。
他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。(25%)	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように、リーダー的な立場で他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働しているが、活動がより深い学びとなるような姿勢が見られない。	他のゼミ生との協働は見られないが、常に活動には参加している。	ほとんど活動に参加しようとしない。

評価方法

授業態度　50%、活動実践による成果物 30%、ドキュメンテーション 20%
※本授業内で指示された手順をその通りに行うことよりも、自ら探究しようとする姿勢や意欲を評価します。

テキスト

・指定しない。必要に応じて資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅰ ～福祉心理学（いのちの教育含む）を学ぶ～	西内 俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

・福祉対象者への心理支援について
・福祉心理学における心理支援の実際
・子どもの健全育成にとって重要とされる「いのちの教育」「死への準備教育」についての理解を深める。なお、教員自身の医療機関での実務経験に基づいて、授業の各回の中で様々な話題提供を行う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会福祉の展開と心理支援
第 2 回	生活を支える心理支援
第 3 回	暴力被害者への心理支援
第 4 回	高齢者への心理支援
第 5 回	障害・疾病のある方への心理支援
第 6 回	生活困窮・貧困者への心理支援
第 7 回	児童虐待への心理支援の実際
第 8 回	子どもと親への心理支援の実際
第 9 回	認知高齢者の心理支援の実際
第10回	ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際
第11回	精神障害者への心理支援の実際
第12回	家族・福祉施設職員等への心理支援の実際
第13回	福祉・介護分野での多職種協働の実際
第14回	がん医療における心理支援の実際と「死への準備教育」について
第15回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に配布した資料を読んで授業に臨んでください

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。
・授業の中でグループワークを実施するので、積極的に参加してください。

到 達 目 標

・保育者、教育者として必要とされる児童福祉分野、高齢福祉分野、最新の医療保健の動向についての理解を深め、具体的な実践活動につなげていける基本的能力を培う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100％理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（３０％）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（２０％）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

課題レポート・発表　５０％
受講態度　５０％

テキスト

授業の中で説明する

保育･教育学演習Ⅰ
～社会とのつながりのなかで子どもと学校教育について考える～

大多和雅絵

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習では、子どもや学校教育にかんする文献を取り上げ精読し、内容について皆で議論を行う。文献の精読、発表、ディスカッションを通して、文献を批判的に読み解き、問題にたいする自分自身の考えをまとめることができるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：自己紹介、授業の進め方など
第 2 回	講義①：近年の子どもを取り巻く問題について
第 3 回	講義②：近年の学校教育をめぐる問題について
第 4 回	講義③：文献の読み方について
第 5 回	報告①文献の精読と議論
第 6 回	報告②文献の精読と議論
第 7 回	報告③文献の精読と議論
第 8 回	報告④文献の精読と議論
第 9 回	報告⑤文献の精読と議論
第 10 回	報告⑥文献の精読と議論
第 11 回	報告⑦文献の精読と議論
第 12 回	報告⑧文献の精読と議論
第 13 回	報告⑨文献の精読と議論
第 14 回	報告⑩文献の精読と議論
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：授業の前に文献を読み、内容を捉え、問題にたいする自分の考えをある程度まとめてくること。

・復習：授業のなかで関心を持った内容や疑問に思った点について、自分で文献や資料等で調べ理解を深めること。

履修上の注意

授業外の時間を利用して、文献の分担部分を要約し考察を加えたレジュメを作成する必要があります。
遅刻３回で欠席１回の扱いとします。

到 達 目 標

・文献を精読したうえで内容を要約し、さらに批判的な考察を加えたレジュメを作成し、発表することができる。
・ディスカッションを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを再構築することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
考察力（40%）	授業の内容にとどまらず発展的な内容にまで踏み込んで考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分のことばでまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	内容についての説明ができない

評価方法

提出物や発表内容（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）

テキスト

取り上げる文献については、授業内で紹介する。

保育･教育学演習Ⅰ

～心理学・カウンセリングテクニックを活かした保育・教育実践演習～

鈴木　洋介

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習では、保育・教育現場で使える心理学の知識やカウンセリングテクニックを体験的に学ぶために演習を行う。保育現場で使えるカウンセリング演習、子どもにかかわる保育カウンセリング演習、保護者に関わる保育カウンセリング演習、同僚と支え合うための保育カウンセリング演習、心理テストを用いた自己理解演習などを実施し、カウンセリングテクニックを体験的に学べるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	保育カウンセリングとは
第 3 回	保育現場で使えるカウンセリング技法演習①：ペーシング、リフレクション、ミラーリング
第 4 回	保育現場で使えるカウンセリング技法演習②：わたしメッセージ、リフレーミング、エンカウンター
第 5 回	子どもに関わる保育カウンセリング①：かんしゃくが止まらない子、友だちと遊べない子、ケンカが絶えない子への対応
第 6 回	子どもに関わる保育カウンセリング②：保育者になつかない子、関心を持ったり集中したりできない子、嘘をつく子への対応
第 7 回	子どもに関わる保育カウンセリング③：暴力をふるう子、よい食習慣がない子、まばたき・指しゃぶりが多い子への対応
第 8 回	子どもに関わる保育カウンセリング④：性に関心がある子、発達に課題がある子、家族が問題を抱えている子への対応
第 9 回	保護者に関わる保育カウンセリング①：保護者への関わり方、保護者との関係づくりのポイント､親子の関係性支援
第 10 回	保護者に関わる保育カウンセリング②：発達障害の子どもを抱える保護者、精神疾患を抱える保護者との関わり、地域のネットワークと保護者
第 11 回	同僚の保育者と支え合うための保育カウンセリング① ：保育者のチームワークを育むエクササイズ、同僚が保育者に行うカウンセリング
第 12 回	同僚の保育者と支え合うための保育カウンセリング② ：保育者のための専門家によるコンサルテーション、保育者のメンタルヘルスのために
第 13 回	保育者としての自分を知る　自己理解演習①：YG 性格検査を用いた自己理解
第 14 回	保育者としての自分を知る　自己理解演習①：東大式エゴグラム（TEG3）を用いた自己理解
第 15 回	保育者としての自分を知る　自己理解演習②：ジョハリの窓を用いた自己理解と他者理解

予習・復習

・予習：配布資料の読み込み、関連文献の読み込みなど（授業時に指示をする）

・復習：演習を振り返るリフレクションを行い、ミニレポートにまとめる。

履修上の注意

１．毎回、出席を取るので休まないこと。
２．講義開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　また、講義開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
３．演習形式の授業なので、積極的に自分の思いや考えを述べること。

到 達 目 標

１．演習を通して、保育者・教員に必要とされる心理学の知識、カウンセリングテクニックを身につける。
２．保育カウンセリングのテクニック及び基盤となる理論を踏まえて、考えを文章で表現することができる。
３．保育カウンセリングのテクニック及び基盤となる理論を踏まえて、発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育カウンセリングテクニックの習得度（40%）	演習内容を超えた保育カウンセリングテクニックが十分に身につけることができる。	演習した保育カウンセリングテクニックをほぼ100%身につけている。	演習した保育カウンセリングテクニックを身につけているが、多少不足がある。	最低限の保育カウンセリングテクニックを身につけている。	保育カウンセリングテクニックを身につけることができない。
考えを文章で表現する力（レポート）（40%）	説得力のある文章で考えを表現することができる。	論理的に矛盾のない文章で考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができる。	文章で最低限の考えを表現することができる。	文章で考えを表現することができない。
根拠を示しながら発言・議論する力（20%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができるが、根拠の妥当性・信頼性が低い。	最低限の根拠を示しながら発言・議論ができる。	根拠を示しながら発言・議論をすることができない。

評価方法

・保育カウンセリングテクニックの習得度 40%
・課題への取り組み（レポート等）40%
・授業中の議論や発言等 20%

テキスト

・特になし。必要に応じてプリント配布や指示を出す。

保育･教育学演習Ⅰ　～子どもの健康福祉学＜理論と実践＞～　宮本雄司

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

・本演習では、「子どもの生活習慣」を中心に理論と実践を組み合わせて指導していく。自らが休養・栄養・運動の理論を理解するとともに、それぞれが生活リズムとしてつながっていることに留意し、子どもたちや保護者が理解し実践できるように、わかりやすく伝えることができるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	現代の子どもの実態から、疑問点や問題点を探し出す方法①
第 3 回	現代の子どもの実態から、疑問点や問題点を探し出す方法②
第 4 回	子どもの生活習慣における休養①-睡眠 1-
第 5 回	子どもの生活習慣における休養②-睡眠 2-
第 6 回	子どもの生活習慣における栄養①-食事-
第 7 回	子どもの生活習慣における栄養②-排便-
第 8 回	子どもの生活習慣における運動①-外あそび-
第 9 回	子どもの生活習慣における運動②-デジタルメディア-
第 10 回	子どもの生活習慣改善に向けた啓発方ポスター作成方法
第 11 回	子どもの生活習慣改善に向けたポスター作製の実践
第 12 回	発表とディスカッション①
第 13 回	発表とディスカッション②
第 14 回	発表とディスカッション③
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：次の授業の事前学習として示された項目を調べて、授業に臨むこと。

・復習：授業中の重要ポイントを振り返り、現代社会の課題と関連付けて自分の考えをもつ。

履修上の注意

・自らの考えをもち、自分の意見を述べることを求める。
・他学生の意見を聞き、多様な意見や考えがあることを理解し、自らの考えと関連付けて理解を深める。
・やむを得ない理由による遅れの場合を除き、原則、遅刻は認めない。

到 達 目 標

①子どもの生活習慣（休養・栄養・運動）とそのリズムについて理解する。
②健康管理上の留意点を理解し、子どもや保護者に自分の言葉で伝えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
専門知識の理解（40%）	授業内容を越え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
専門知識の活用力・応用能力（20%）	専門的な知識を実社会での実践に役立てることができる。	課題について、専門的な知識を用いて説明できる。	専門的な知識について理解しているが、活用・応用能力に多少不足がある。	専門的な知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できない。	専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない。
発言力・傾聴力（20%）	自らの意見を論理的に発言でき、相手の意見を尊重し、理解しながら聞くことができる。	自らの意見を発言でき、相手の意見を理解しながら聞くことができる。	自己主張の発言や、周囲の意見に同意してばかりである。相手の意見は聞いている。	最低限の発言のみで、相手の意見も聞いていないことがある。	発言をしない。相手の意見を尊重せず、自分の考え方や意見を押し付ける。
授業での協調性（20%）	授業内で他学生と顕著に協調を図れる。	授業内で他学生と十分に協調を図れる。	授業内で他者と部分的に協調を図れる。	授業内で他者と協調を図る努力はみられる。	授業内で他者と協調を図れない。

評価方法

授業への貢献度及び授業態度 70%、提出物や発表内容 30%

テキスト

なし（適宜、プリント配布）

保育･教育学演習Ⅱ　～『クオーレ』を読む（続）～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

1 年次の成果を十分にふまえて、各自の問題意識を文学作品の講読・分析を通じて、さらに学問的に深めていけるよう指導します。具体的には、各自が追究すべき課題および作品を設定し、授業を通じて分析・考察をすすめます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第 2 回	課題の設定および作品の選定（その 1）
第 3 回	課題の設定および作品の選定（その 2）
第 4 回	課題の設定および作品の選定（その 3）
第 5 回	作品の講読・分析（その 1）
第 6 回	作品の講読・分析（その 2）
第 7 回	作品の講読・分析（その 3）
第 8 回	作品の講読・分析（その 4）
第 9 回	作品の講読・分析（その 5）
第 10 回	作品の講読・分析（その 6）
第 11 回	論文の作成（その 1）
第 12 回	論文の作成（その 2）
第 13 回	論文の作成（その 3）
第 14 回	論文の作成（その 4）
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。

遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の能力を養うことができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 70%

学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：『クオレ』（21 世紀版 少年少女世界文学館 22）
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年（ISBN）：2011 年

保育･教育学演習Ⅱ～絵本や紙芝居を読む・手作り作品を作る～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

絵本を読み、絵本に対する理解を深める。絵本と紙芝居を比較することで、それぞれの良さを知る。
手作り絵本や紙芝居を制作し、実習に持っていき園児達の前で読む。
演習を通して、絵本や紙芝居が保育にはたす役割について理解を深めるように指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業の概要とスケジュール
第 2 回	好きな絵本を紹介する
第 3 回	紙芝居と絵本の違いを知る
第 4 回	紙芝居と絵本の分析する
第 5 回	園で読まれる絵本について調べる
第 6 回	共同制作 大きな絵
第 7 回	かんたんな絵本の制作の仕方を学ぶ
第 8 回	絵本の共同制作 アイディアを出す
第 9 回	絵本の共同制作 下描き
第 10 回	校外授業
第 11 回	校外授業
第 12 回	絵本の制作　彩色
第 13 回	絵本の制作　彩色
第 14 回	絵本の制作　製本
第 15 回	絵本の制作　完成 まとめ・振り返り

予 習 ・ 復 習

・予習：できるだけ多くの絵本を読む。

・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

履修上の注意

この授業で自分の宝物を作る。
校外授業を行う(場所、取り組みなどについては授業の中で説明する)。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

絵本について自分の考えを言えるようになる。
読者である園児を想定した自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後に役立つ知識や経験を実践を通して積む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［絵本・紙芝居制作等における活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［絵本・紙芝居制作等におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［絵本・紙芝居制作等における表現力］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた作品を作る表現力を持っている。	作品を作る表現力を持っている。	作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

提出作品(70%)

制作態度・発表(30%)

テキスト

使用せず。適宜プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～特別支援教育の理解を深める～　井上　昌士

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

保育・教育学演習Ⅰで学んだことを発展させ、関心を持ったテーマについてさらに掘り下げて研究・調査活動を行い、その成果をまとめて発表する。 実際に実習先や卒業後の就職先等を想定して、教材・教具の作成や ICT 機器の活用等も踏まえて研究課題（テーマ)を設定する、その研究課題に沿って調査研究し、研究発表会に向けた制作活動を行う。研究発表会では個人もしくはグループごとにオリジナリティーを発揮した成果物を発表する。最後に全体で意見交換会を行い、今後の実践に生かす。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	調査・研究テーマ設定について
第 3 回	調査・研究活動①　資料の収集と整理
第 4 回	調査・研究活動②　資料の収集と整理
第 5 回	調査・研究活動③　資料の分析
第 6 回	調査・研究活動④　資料の分析
第 7 回	調査・研究活動⑤　中間発表用レジュメ作成
第 8 回	中間発表　質疑応答
第 9 回	調査・研究活動⑥−１修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析
第 10 回	調査・研究活動⑥−２修正・改善点の確認　追加資料の収集と整理、分析
第 11 回	レポート・ポスター制作①　構想立案
第 12 回	レポート・ポスター制作②　制作活動
第 13 回	レポート・ポスター制作③　製作活動
第 14 回	レポート・ポスター制作④　発表練習
第 15 回	ポスター発表会

予 習 ・ 復 習

- 予習：調査・研究活動、レポート・ポスター制作のスケジュールに沿って、効率よく活動が進むように計画的に準備を行う。
- 復習：取り組んだ活動の見直しや不足部分の補充を行い、次回に備える。

履修上の注意

- 資料収集、分析を重視し、エビデンスに基づいた調査・研究活動、発表になるように努めること。
- 遅刻３回で欠席１回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

- テーマに関連する資料や文献を収集・整理し、それらを引用・参照して分析を行う方法を身につける。
- 設定した調査・研究テーマのレポートまたはポスターを制作し発表を行う。
- 特別支援教育への理解が深まる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
レポート・ポスター発表力＜思考・判断・表現：理解したことをどう使うか＞ (40%)	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を十分に活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が根拠に基づいて明確に示されている。	収集・整理したテーマに関連する資料や文献を活用して、レポートやポスターが制作され、発表の内容が、テーマと関わって示されている。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わって示されているが、一部不十分な内容がある。	レポートやポスターの発表の内容が、十分にテーマと関わっていない。	レポートやポスターの発表の内容が、テーマと関わっていない。
主体的に学ぶ態度（どのように学びと向き合うか） (60%)	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加するとともに、自らの進捗状況を把握し、よりよく活動を遂行しようとする意欲をもって取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に積極的に参加し、よりよいものにしようと改善・工夫をしながら取り組んでいる。	調査・研究活動及び制作活動に参加しているが、やや積極性に欠け、改善・工夫しようとする態度があまり見られない。	主体的に学ぶ態度にやや欠ける面が見られる。	主体的に学ぶ態度が見られない。

評価方法

発表内容：40%
受講態度（参加度、貢献度を含む）：60%

テキスト

教科書は使用しない。

保育･教育学演習Ⅱ　～実践的検討を通して～

小山内弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

身体、身体活動」の視点からテーマを選定し、検討、実践、まとめを行っていく。特に、運動遊びを作成、発表する事を中心に進めていく。運動の実践について学習していくよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　保育・教育学演習Ⅱ　体育・健康科学についての進め方や注意事項を伝達する。
第 2 回	運動遊びについての確認：　簡単な運動遊びを実施することで、各自の身体的な活動能力を確認する。
第 3 回	運動実践について学ぶ①：　運動を実践させるために必要なことを考え、それを実践できる方策について検討する。
第 4 回	運動実践について学ぶ②：　運動を実践させるために必要なことを考え、それを実践できる方策について検討する。
第 5 回	運動遊び最終発表の検討③：　最終発表に向けた運動遊びの立案を ICT なども用いながら行い、物品等の確認を行う。
第 6 回	運動遊び最終発表の検討④：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 7 回	中間発表①：　最終発表の運動遊びを実際の準備を行った上で、簡略的に実践してみる。（10 分×4 人）
第 8 回	中間発表②：　最終発表の運動遊びを実際の準備を行った上で、簡略的に実践してみる。（10 分×4 人）
第 9 回	課題発表　評価・分析・修正：　最終発表の運動遊びの中間発表を踏まえ、評価・分析を行って問題を発見し、最終発表に向けて修正する。
第 10 回	発表シミュレーション：　最終発表の運動遊びにむけ、中間発表での評価・分析・修正を踏まえ最後のシミュレーションを行う。
第 11 回	最終発表①：　運動遊びの最終発表を行う。(20 分×3 人)
第 12 回	最終発表②：　運動遊びの最終発表を行う。(20 分×3 人)
第 13 回	最終発表③：　運動遊びの最終発表を行う。(20 分×2 人)
第 14 回	最終検討：　最終発表を基に、評価・分析を行い、運動遊びの資料の最終提出に向けて作業を行う。
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

授業内での内容以外にシミュレーションや分析を必要とすることから、以下の予習・復習を行うこと。
・予習：授業前には机上での活動のみならず、様々な側面から内容を十分に理解してくるようにする。
・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見するとともに、資料の最終版に反映させる。

履修上の注意

全ての内容において、多くの準備を必要とする。それらに対しては積極的な姿勢で取り組むこと。また、「一生懸命」であること。

・実践を行う際は、それに適した服装をすること。

・遅刻は3回で1回の欠席とする。

到 達 目 標

「身体、身体活動」に注目して、課題の追求のために、グループで協力して実践的に学習していく。テーマの選定と実践を通して、身体活動についての視点や思考するための基礎を獲得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（30%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（20%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（20%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・発表（40%）

・提出物（40%）

・授業への貢献度（協調性）（20%）

テキスト

なし。

必要に応じてプリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～保育学～

関根　久美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

保育者として、子どもが「楽しい」と感じることができる児童文化財の作成、それの実践について具体的な指導をする。実際のパフォーマンスから「子どもの感性」について考察する場を設定し、指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	エプロンシアターの振り返り①
第 3 回	エプロンシアターの振り返り②
第 4 回	人形劇などのパフォーマンス観覧
第 5 回	人形劇などのパフィーマンスの振り返り
第 6 回	エプロンシアター発表①
第 7 回	エプロンシアター発表②
第 8 回	エプロンシアター発表の振り返り
第 9 回	児童文化財作成①
第 10 回	児童文化財作成②
第 11 回	児童文化財実践①
第 12 回	児童文化財実践②
第 13 回	保育現場における行事についての研究①
第 14 回	保育現場における行事についての研究②
第 15 回	これまでの授業のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：子どもの発達に合った児童文化財について事前学習する。

・復習：実践後には、各自で反省をし、自分の課題を見出す。

履修上の注意

自ら課題を見つけ、積極的に授業に取り組む。

到 達 目 標

保育・教職実践演習Ⅰにおいて作成したエプロンシアターを保育園において、子どもの発達や興味・関心、環境に見合った実践をする。

様々な児童文化財を子どもたちが楽しめるよう、工夫して作成し、実践する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
エプロンシアター作品の評価（ 40%）	丁寧な仕上げで独自の工夫がみられる。	丁寧な仕上がりで人形や仕掛けができている。	人形や仕掛けができている。	人形や仕掛けの仕上がりが雑である。	エプロンシアターが未完成である。
エプロンシアター実践の評価（ 40%）	子どもの発達に即した実践で独自の工夫がみられる。	子どもとのやり取りを楽しみながら、実践ができる。	子どもの前に立って笑顔で実践ができる。	子どもの前に立って実践できるが緊張して笑顔はない。	子どもの前で実践ができない。
児童文化財への取り組み（ 20%）	自主的、積極的に取り組み、独自の工夫がみられる。	自主的、積極的に取り組組む。	周囲の人の助言や援助を受け、取り組む。	教員の援助を必要とする。	課題に取り組まない。

評価方法

作品評価 40%　　実践（発表）における評価 40%　　授業態度　20%

テキスト

特になし。メディアセンター等を利用し各自の課題に適した資料を入手する。

保育･教育学演習Ⅱ（音楽教育実践学）

～管・打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

発表会・ミニコンサート等の企画・運営を行うことで，保育・教育現場における発表会等の企画・運営のための実践力を養う。また，研究テーマに関する楽曲分析や演習等を通して，研究を深めるための方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，研究計画	管・打楽器奏法の習得①
第 2 回	探求・研究活動①	〃 ②
第 3 回	探求・研究活動②	〃 ③
第 4 回	探求・研究活動③	〃 ④
第 5 回	探求・研究活動④	〃 ⑤
第 6 回	探求・研究活動⑤	〃 ⑥
第 7 回	コンサートの企画・立案	〃 ⑦
第 8 回	探求・研究活動⑥	〃 ⑧
第 9 回	探求・研究活動⑦	〃 ⑨
第 10 回	探求・研究活動⑧	〃 ⑩
第 11 回	探求・研究活動⑨	〃 ⑪
第 12 回	探求・研究活動⑩	〃 ⑫
第 13 回	探求・研究活動⑪	〃 ⑬
第 14 回	リハーサル	
第 15 回	ミニコンサート	

予習・復習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

履修上の注意

・オープンキャンパスでのミニコンサートや学園祭での発表等，授業外での活動にも必ず参加すること。
・大学祭が行われる 10 月までは練習を行うので，必ず参加すること。

到 達 目 標

・管・打楽器によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表に向けた企画・運営のための実践力の向上

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
篠笛及び太鼓の技能（30%）	どの楽器も自由に演奏することができ、上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	どの楽器も基本的な奏法を意識しながらしっかりと音を響かせながら演奏することができる。	太鼓は演奏することはできるが、響きにムラがある。篠笛は音の出せない音域があり、音がでるかどうかは不安定である。	太鼓はしっかりと音を鳴らすことができず、リズムも不安定である。篠笛で出せる音は数音のみである。	太鼓は音を出しているだけで、曲を演奏することはできない。篠笛は吹くことができない。
篠笛及び太鼓によるアンサンブルの技能（30%）	周りに指示を出しながら練習や演奏を進め、全体の流れを把握しながら的確にアドバイスすることができる。	全体の流れを把握し、周りの人と阿吽の呼吸で演奏することができる。	なんとなく周りに合わせることはできるが、全体の流れはあまり把握できていない。	なんとなく周りに合わせようとはしているが、流れの把握もできておらず、上手く合わせることができない。	周りに合わせようとすることなく、合っていなくても気にすることなく自分のペースで演奏している。
ステージ発表に向けた創意工夫（10%）	曲に応じた音色の工夫や振付、パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	曲に応じた振付、パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	演奏することはほぼできるが、パフォーマンスの動きや声は小さい。	演奏することはほぼできるが、リズムを小手先で刻んでいるだけで、動きはなく、声も出していない。	簡単なところのみ音を出しているが、曲を演奏しているとは言い難く、創意工夫は全く何もしていない。
企画・運営の能力（10%）	発表に向け、魅せる演奏をするためのパフォーマンスを含めた企画・運営方法を考えることができる。	周りと協力して、ステージ発表の企画・運営について考えることができる。	ステージ発表の企画・運営について、意見を求められたときに発言することができる。	ステージ発表の企画・運営について、意見を求められてもほとんど何もいうことなく、お願いされたことだけを行う。	ステージ発表の企画・運営について何も考えておらず、お願いされたことも行うことができない。
学習意欲（20%）	話し合い活動の際にリーダーを務め、話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し、積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際、意見を求められたらいうことはできるが、授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。課題は概ね期日内に提出している。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいうことがなく、授業に臨む姿は積極性に欠ける。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	話し合い活動の際、その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず、授業に臨む姿は消極的である。未提出の課題がある。

評価方法

演奏技能及びアンサンブル力（60%）　発表（20%）　学習態度・課題提出（20%）

テキスト

適宜，楽譜や資料を配布するため、スクラップブック等に整理し、まとめること。

保育･教育学演習Ⅱ　～絵本や童話について専門的に学ぶ～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、履修学生（ゼミ生）一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。「保育・教育学演習Ⅰ」での学びを発展させ、ゼミ生個人が選んだ研究テーマについて調査や分析を進める。発表やグループ討議を経て、一人ひとりの考察を深め、全員でその成果をまとめる。

この一連の研究活動を通して、児童文学や児童文化全般に対する知識を増やし理解が深まってくように個別に指導を行う。また、就学や学生生活に関する相談はもちろん、実習活動や就職活動への支援を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・研究発表についての説明と個別面談指導の日程決め
第 2 回	絵本研究に向けて① ・作家論アプローチと様式（形態）アプローチ
第 3 回	絵本研究に向けて② ・個別面談指導（１回目）
第 4 回	絵本研究に向けて③ ・受容者アプローチと教材活用論アプローチ
第 5 回	絵本研究に向けて④ ・作品論アプローチ
第 6 回	教育実習Ⅱに向けて① ・折り紙シアターやマジックショーの習得 ・責任実習の活動案（指導案）の指導
第 7 回	教育実習Ⅱに向けて② ・絵本の読み聞かせ指導
第 8 回	絵本研究に向けて⑤ ・文献調査や資料収集と整理
第 9 回	絵本研究に向けて⑥ ・文献調査や資料収集と整理
第 10 回	絵本研究に向けて⑦ ・「プレ発表会」と質疑応答、個別面談指導（２回目）
第 11 回	個人研究発表活動① ・「中間発表会」と質疑応答
第 12 回	個人研究発表活動② ・個別面談指導（３回目）
第 13 回	児童文化活動 ・長い「あやとり」を用いた「遊び」体験
第 14 回	個人研究発表活動③ ・「研究発表会」（前半）での研究発表
第 15 回	個人研究発表活動④ ・「研究発表会」（後半）での研究発表

予習・復習

・予習：文献や配布資料の読み込み、教材（絵本）の調査、発表準備など（毎回授業時に指示する）

・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
・遅刻は 20 分までとし、3 回で 1 回の欠席とみなす。
・児童文学や児童文化のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する予定である。

到 達 目 標

・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論と、それを現場で生かす実践力を身につける。
・文献や資料をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
調査分析力（25%）	指導内容を超えて、主体的に調査や分析ができる	指導内容を踏まえて、必要十分な調査や分析ができる	調査や分析が指導時に求めたレベルに満たない	調査や分析の精度や独自性が十分でない	事前の調査や分析をほとんどしていない
口頭発表力（25%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
協働活動力（20%）	ゼミ生同士の活動に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	ゼミ生同士の活動において、協力する姿勢がある	協働活動において自分の役割を理解し、それに努める	協働活動において常に受動的な態度だが、活動には参加する	活動に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・研究発表　50%
・制作課題　30%
・受講態度　20%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ（教育学・子ども家庭福祉論）
～地域と子ども・子育て～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

「地域と子ども・子育て」というテーマのもとに，受講生自らの問題関心に沿って，グループで調査研究を進め，成果発表を行う。調査研究は，子どもや保護者，保育者・支援者等へのインタビューや，子育て支援活動や団体・施設等へのフィールドワークなど実地調査を行うことを基本とし，調査を行うために必要な基礎的知識や方法論等について指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	調査研究の進め方①資料収集，文献研究の方法について
第 3 回	調査研究の進め方②主にインタビューやフィールドワークの方法・技法について
第 4 回	各自の研究関心についてのグループディスカッション
第 5 回	各自の研究関心に関連する文献・資料の検討①
第 6 回	各自の研究関心に関連する文献・資料の検討②
第 7 回	各自の研究テーマ・調査対象の発表とグループ編成
第 8 回	各グループの研究テーマの発表と具体的な研究スケジュールの作成（グループ活動）
第 9 回	調査準備①（グループ活動）
第 10 回	調査準備②（グループ活動）
第 11 回	調査の実施（グループ活動，学外活動）
第 12 回	調査・研究のまとめ①（全体での振り返り，共有）
第 13 回	調査・研究のまとめ②（グループ活動）
第 14 回	調査・研究のまとめとグループ発表の準備
第 15 回	グループ報告会／まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：個人またはグループでの課題や活動の準備

・復習：個人またはグループでの課題や活動の振り返り。

履修上の注意

- 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
- 学外での活動を予定しているが，実施回・日については未定である。また，社会状況により中止や他の方法への変更もありうる。

到 達 目 標

1) 地域と子ども・子育てに関する諸課題について研究的姿勢を持って探究し，論理的思考やプレゼンテーション能力を身につける。
2) 保育者としての立場から，地域の子ども・子育て及びその支援の実態を考察し，自らの子ども・保育観，保育者としてのあり方について捉え直す。
3) 自分の役割を見つけ，能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
研究課題を設定し，探究する力（課題レポート作成）（30%）	自分自身の関心のあるテーマを設定し，それに即したレポートを作成することができ，関連した事柄について積極的に研究を深めることができている。	自分自身の関心のあるテーマを設定し，それに即したレポートを作成することができる。	自分自身の関心のあるテーマを設定することはできているが，レポートの内容に不足がある。	テーマ設定及びレポートの内容に不足がある。（研究的ではなく，調べ学習に留まっている）	テーマの設定やレポートを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（課題レポート作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

課題レポート及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育･教育学演習Ⅱ　～自分の保育を見つめなおす～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

保育・教育学演習Ⅰに続き、保育方法を学び保育の技術・知識が増えるように指導する。また、就職に向けて各自の保育観に合った就職先の選定を行うための材料とし、指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	実習先での保育方法を学ぶ
第 3 回	実習先での保育方法を考察する
第 4 回	実習先での保育方法・保育計画について発表①
第 5 回	実習先での保育方法・保育計画について発表②考察
第 6 回	教材研究
第 7 回	教材作成-パネルシアター
第 8 回	主活動での実践計画を立てる①調べ学習
第 9 回	主活動での実践計画を立てる②活動計画を立てる
第 10 回	主活動での実践計画を立てる②発表　前半
第 11 回	主活動での実践計画を立てる④発表　後半
第 12 回	模擬保育振り返り
第 13 回	教材制作-ペープサート・スケッチブックシアター
第 14 回	教材発表
第 15 回	まとめ-卒業までの自身の課題を見つめ直す-

予 習 ・ 復 習

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

履修上の注意

自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。学生の状況により、授業内容が変更する可能性がある。
遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
オープンキャンパスに授業の一環として参加する可能性がある。
学外に出向き、授業を行うことがある。

到 達 目 標

・様々な保育について学び、各自の保育観を確立する。
・就職に向けて各自の強みを身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
製作物（30%）	期限内に丁寧な作品を作成できる	期限内に作品を作成出来る	製作は終了したが期限内に仕上げることができない。	期限内に製作は終了したが雑な仕上がりである。	授業回数終了までに製作を終わらすことが出来ない。
発表（30%）	具体的な指導案を作成し練習の成果が発揮できる。	練習不足であるが具体的な指導案作成が出来る	具体的な指導案作成、発表に向けた練習ができない。	具体的な指導案作成ができないがアドバイスがあれば発表ができる。	アドバイスがあっても指導案を作成し発表ができない。
受講態度（40%）	授業や行事に積極的に参加し自身の課題に向けた取り組みができる。	授業や行事に参加し自身の課題を見いだす事ができる。	授業や行事に参加するが自身の課題が見つけられない	授業や行事に対する参加が不十分であるが自身の課題を見いだせる。	授業や行事に参加出来ず自身の課題を見つけることができない

評価方法

課題への取り組み 30%　　発表 50%　　受講態度 20%

テキスト

・特になし。適時、資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～演奏発表に向けた音楽表現の探究～　宮澤多英子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

演奏発表に向けた音楽表現の探究活動を通して、聴き手と一体となって楽しめる表現の創意工夫や演奏技能を指導する。

保育現場での演奏発表では、「保育・教育学演習Ⅰ」における演奏発表の経験と学びを生かして、子どもが音や音楽を楽しむことができるコンサートを目指し、主体的・協働的に企画・発表を行う。

また、音楽に造形や身体動作などの他媒体を関わらせた総合的な表現として、音楽あそびの考案や音楽づくり・図形楽譜づくり、大学祭での発表に向けた音楽朗読劇に取り組み、音や音楽に対する豊かな感性や創造的な表現力を育成する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、保育現場での演奏発表（コンサート）の企画	
第 2 回	歌唱（斉唱・合唱）、ミュージックベル合奏、音楽あそび①個人・グループ練習	
第 3 回	歌唱（斉唱・合唱）、ミュージックベル合奏、音楽あそび②個人・グループ練習	
第 4 回	歌唱（斉唱・合唱）、ミュージックベル合奏、音楽あそび③個人・グループ・全体練習	
第 5 回	歌唱（斉唱・合唱）、ミュージックベル合奏、音楽あそび④個人・グループ・全体練習	
第 6 回	歌唱（斉唱・合唱）、ミュージックベル合奏、音楽あそび⑤リハーサル	
第 7 回	【保育現場での演奏発表（コンサート）】	
第 8 回	【オープンキャンパスでの演奏発表】	
第 9 回	総合的な表現活動①身近な素材を用いた音作品の創作と発表、図形楽譜づくり	
第 10 回	総合的な表現活動②図形楽譜を用いた器楽合奏作品の創作と発表	合唱①
第 11 回	総合的な表現活動（音楽朗読劇）①個人・グループ練習	合唱②
第 12 回	総合的な表現活動（音楽朗読劇）②個人・グループ練習	合唱③
第 13 回	総合的な表現活動（音楽朗読劇）③個人・グループ・全体練習	合唱④
第 14 回	総合的な表現活動（音楽朗読劇）④個人・グループ・全体練習	合唱⑤
第 15 回	【音楽朗読劇の発表】	

予習・復習

・予習：楽譜が配布された楽曲については全て、事前に譜読みをして練習しておく。
・復習：授業内容を振り返り、次回の授業で確実に演奏できるように反復練習をする。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・保育現場での演奏発表は、リハーサルと本番両方の出席を必修とする。
・オープンキャンパスや大学祭での発表等、授業外での活動にも必ず参加すること。

到 達 目 標

・自分自身の音や音楽に対する感性や表現力を伸ばそうとする意欲をもち、授業に主体的、協働的に取り組むことができる。
・聴き手が楽しめる演奏発表の企画を考案し、表現を創意工夫しながら演奏することができる。
・音楽作品の創作活動を通して、音楽と造形や身体動作等の他媒体とのつながりや関わりを理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（40%）	指定された予習・復習や課題以外にも自主的に課題を設定して取り組み、音楽表現活動に積極的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、音楽表現活動に主体的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みがやや消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みが消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、音楽表現活動への取り組みが消極的である。
表現の創意工夫と演奏発表の技能（50%）	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして演奏発表することができる。	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして演奏発表することができる。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、演奏発表の技能がやや不足している。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、演奏発表の技能が不十分である。	楽曲にふさわしい表現の工夫がみられず、演奏発表の技能も不十分である。
総合的な表現に対する思考力・判断力（10%）	音楽と造形・身体動作等の他媒体とのつながりや関わりについて、多角的な視点から思考し・思考を深めた上で判断することができる。	音楽と造形・身体動作等の他媒体とのつながりや関わりについて、多角的な視点から思考し・判断することができる。	音楽と造形・身体動作等の他媒体とのつながりや関わりについて、自分なりに思考・判断している。	音楽と造形・身体動作等の他媒体とのつながりや関わりについての思考・判断がやや不足している。	音楽と造形・身体動作等の他媒体とのつながりや関わりについて、思考・判断が不十分である。

評価方法

・受講態度 40%　…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・演奏発表 50%　…【評価項目】表現の創意工夫と演奏発表の技能
・テキストへの記述課題 10%　…【評価項目】総合的な表現に対する思考力・判断力

テキスト

「保育・教育学演習Ⅰ」に引き続き、以下のテキストを使用する。
・教科書名：：『保育者養成のための創作表現活動―音楽・造形・身体動作のつながり―』
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：株式会社 外為印刷
・出 版 年：2021 年

保育･教育学演習Ⅱ　～多様な探求の方法と展開～

小林　佳美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

演習Ⅰから続く本演習では、引き続き受講生自身が自ら課題（問）をもち、探求しようとする意欲・態度を育成することを目指す。その方法として、本演習では、認定こども園における子育て支援行事への参画や、学校周辺での自然フィールドワーク、季節の科学遊び等について、ゼミ生同士で計画、実践し、ドキュメンテーション記録を作成するサイクルを通して学び合う体験ができるように指導していく。また、自らの保育観やキャリア展望を内省し、ディスカッションする機会を設け、今後の実習、就職活動はもとより、専門的職業人として自律的にキャリアを選択していくための探究方法を指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	ダイラタンシー現象を生かした触感遊びと片栗粉スクイーズ製作、及び写真による記録。
第 3 回	活動記録としての「ドキュメンテーション」の作成意義・方法の講義と情報機器を用いた作成。
第 4 回	学外保育演習① 子育て支援行事「ナイトコドモエン」での科学あそびコーナーの計画・準備。
第 5 回	学外保育演習② 子育て支援行事「ナイトコドモエン」でのコーナー運営の体験。
第 6 回	学外保育演習③ 情報機器を用いた「ナイトコドモエン」のドキュメンテーション作成。
第 7 回	（オンライン課題）保育職場の就労環境、保育の構造の質に関する情報収集と整理。
第 8 回	（オンライン課題）保育職場の運営・経営形態、組織構造の特性に関する情報収集と整理。
第 9 回	子ども・子育てを支援する仕事の探究①自らのキャリア展望に基づく情報収集と、プレゼンテーションソフトを用いた発表資料の作成。
第 10 回	子ども・子育てを支援する仕事の探究②プレゼンテーションの実施。
第 11 回	フィールドワーク① 大学周辺の自然環境を生かせる遊びの調査と散策マップの作成。
第 12 回	フィールドワーク② 大学周辺の自然散策マップを活用した自然遊びの実践。
第 13 回	フィールドワーク③ 自然素材を生かしたドキュメンテーションの作成。
第 14 回	夏の遊びの探究① 光/水/空気/音のふしぎを楽しむ遊びの立案（ウェブ型指導計画の作成とプレゼンテーション）。
第 15 回	夏の遊びの探究② 前回の指導計画をもとにした子ども主体の遊びの実践。

予 習 ・ 復 習

・予習：授業計画に沿って、次の活動の材料や工程等を調べる。
・復習：ドキュメンテーション用の写真、配布資料等を整理し学習内容を振り返る。

履修上の注意

・3 回の遅刻で 1 回の欠席、20 分以降の入室は欠席として扱います。
・受講生一人ひとりが生活や学習を進める過程で見つけた課題（問い）を探求することを推奨しますので、上記の計画にとらわれず、自らの「不思議だな」「やってみたいな」と思うことを積極的に発信してください。

到 達 目 標

・身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。
・自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。
・自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。
・他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それを表現できる。(25%)	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに頻繁に心を動かし、表現し、他者によりよい影響を与えている。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かし、それ積極的に表現できる。	身のまわりの自然や生活のなかにある不思議さや美しさに心を動かしているようだが、表現が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、自らの問いや意見をもち、それを表現できる。(25%)	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、積極的に自らの問いや意見を表現し、他者によりよい影響を与えている。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、積極的に自らの問いや意見を表現できる。	自然科学や子どもの遊び、保育に関連する社会問題、キャリアについて、自らの問いや意見をもっているが、表現の仕方が偏っていて、十分でない。	表現方法が適切でないため、ときに他者の心情・意欲・態度にネガティブな影響を及ぼす。	他者に認識される表現がほとんど見られない。
自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度を身に着ける。(25%)	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が常に見られ、他者のモチベーションも高めている。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度が見られる。	自らの課題（問い）を、自分なりの方法で試行錯誤して解決しようとする姿勢・態度があまり見られない。	自らの課題（問い）を問うても回答がなく、指導された方法でのみ活動を行っている。	ほとんど活動に参加しようとしない。
他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるようにリーダーシップを発揮できる。(25%)	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように、リーダー的な立場で他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働し、活動がより深い学びとなるように他者に影響力を発揮している。	他のゼミ生と協働しているが、活動がより深い学びとなるような姿勢が見られない。	他のゼミ生との協働は見られないが、常に活動には参加している。	ほとんど活動に参加しようとしない。

評価方法

授業態度　50%、活動実践による成果物 20%、ドキュメンテーション 30%
※遊び・活動のプロセスを指示した通りに行うことよりも、自ら探究しようとする姿勢や意欲を評価します。

テキスト

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～社会とのつながりのなかで子どもと学校教育について考える～	大多和雅絵

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

本演習では、子どもや教育における自分自身の関心に基づいて参照する文献を選び、精読し、内容について発表を行う。自分で選んだ文献を精読したうえで、内容にたいする自分自身の考えをまとめることができるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：自己紹介、授業の進め方など
第 2 回	（講義）近年の子どもを取り巻く問題について
第 3 回	（講義）近年の学校教育をめぐる問題について
第 4 回	（講義）文献の読み方について
第 5 回	課題の設定と文献の選定①
第 6 回	課題の設定と文献の選定②
第 7 回	課題の設定と文献の選定③
第 8 回	文献の精読と分析①
第 9 回	文献の精読と分析②
第 10 回	文献の精読と分析③
第 11 回	（報告）発表と議論①
第 12 回	（報告）発表と議論②
第 13 回	（報告）発表と議論③
第 14 回	（報告）発表と議論④
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：自分で選んだ文献を読み進めること。

・復習：授業のなかで関心を持った内容や疑問に思った点について、自分で文献や資料等で調べ理解を深めること。

履修上の注意

授業外の時間を利用して、文献を要約し考察を加えたレジュメを作成する必要があります。
遅刻３回で欠席１回の扱いとします。

到 達 目 標

・自分の問題関心に基づき、参照すべき文献を選ぶことができる。
・文献を精読したうえで内容を要約し、自分なりの考察を加えたレジュメを作成し、発表することができる。
・ディスカッションを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを再構築することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
考察力（40%）	授業の内容にとどまらず発展的な内容にまで踏み込んで考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分のことばでまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	内容についての説明ができない

評価方法

提出物や発表内容（50%）、授業への取り組み姿勢（50%）

テキスト

参照すべき文献は、授業内で紹介する。

文学　～文学とドラマの交わり～

柴田　勝二

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

古典劇と近現代の代表的な小説作品の映画化を取り上げ、日本文学・演劇の世界を知るとともに、文学とドラマがどのように交わるのかを講義します。近現代の作品については、著名作品の内容を把握するとともにそれを映画監督がどのようにアレンジし、自身の世界を作り上げているのかを探ります。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：文学とドラマ
第 2 回	『伊勢物語』と『井筒』①：狂気をはらんだ情念
第 3 回	『源氏物語』①：「似姿」を求める人々
第 4 回	『源氏物語』②：堀川とんこう監督作品の鑑賞と検討
第 5 回	『曽根崎心中』：義理と意地の狭間に生きる男女
第 6 回	『心中天網島』：自己の尊厳へのこだわり
第 7 回	『それから』①：夏目漱石作品の概要と主題
第 8 回	『それから』②：森田芳光監督作品の鑑賞と検討
第 9 回	『細雪』①：谷崎潤一郎作品の概要と主題
第 10 回	『細雪』②：市川崑監督作品の鑑賞と検討
第 11 回	『春の雪』①：三島由紀夫作品の概要と主題
第 12 回	『春の雪』②：行定勲監督作品の鑑賞と検討
第 13 回	『ドライブ・マイ・カー』①：村上春樹作品の概要と主題
第 14 回	『ドライブ・マイ・カー』②：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討
第 15 回	『ドライブ・マイ・カー』③：濱口竜介監督作品の鑑賞と検討

予習・復習

・予習：各時間に取り上げる作品についてあらかじめ学んでおくこと。
・復習：学習した内容を振り返り、課題で出された小レポートを提出すること。

履修上の注意

・毎時間欠かさず出席すること。
・授業中は私語を慎むこと。

到 達 目 標

・日本の古典劇にどのような特質があるかを説明できる。
・漱石・谷崎・三島・村上といった近現代の代表的な作家がどのような作品を生み出しているか説明できる。
・文学と劇・ドラマの間にどのような差異と特質があるかを説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
日本文学への理解度（40%）	古典・近現代の代表的な作家・作品の特質を十分に説明できる。	古典・近現代の代表的な作家・作品の標準的な特質を説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質をある程度説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質を最低限説明できる。	古典か近現代の代表的な作家・作品の特質を説明できない。
日本演劇・映画への理解度（30%）	古典劇と現代映画の特質と、文学作品との連関を十分に説明できる。	古典劇と現代映画の特質と、文学作品との連関を標準的に説明できる。	古典劇か現代映画の特質をある程度説明できる。	古典劇か現代映画の特質を最低限説明できる。	古典劇か現代映画の特質を説明できない。
作品への鑑賞と批評の能力（30%）	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握したうえで自身の見解を明晰に述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握し、自身の見解を不足なく述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴を把握し、自身の見解をある程度述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴に対する自身の見解を最低限述べることができる。	原作の作品とそのドラマ化の特徴に対する自身の見解を適切に述べることができない。

評価方法

・時間ごとに課する小レポート：60%
・期末レポート：40%

テキスト

なし

文化論　～映像で学ぶ企業理解のための「文化」論～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

授業計画をご覧になって「企業」と「文化」って関係あるのと疑問に思うかもしれません。実は企業活動のプロセスや結果に大きな影響を及ぼすのです。この授業では「経営文化」「組織文化」「企業文化」を学びます。「文化」という概念で企業を見ることができるようになっていただきたいので、授業はできるだけ映像を使い具体的に理解できるように進めます。具体的には次のようなことを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	「文化」とは何かを学ぶ前に　その1 文化が違うとはどういうことか、映像を見て考えてみよう。
第 3 回	「文化」とは何かを学ぶ前に　その2 文化を理解するとはどういうことか、映像を見て考えてみよう。
第 4 回	「文化」とは何かを学ぶ前に　その3 文化の違いを互いに理解しあうとどんな効果があるか映像を見て考えてみよう。
第 5 回	「文化」とは何か 多様な「文化」の概念からどの概念をとるか。「文化」を学ぶ意義はどこにあるか。
第 6 回	「文化」をつくる 文化はどのようにつくられるのか、ある企業の場合から学んでみる。
第 7 回	日本企業と「文化」　その1 日本企業の「文化」について映像で理解を深めよう。
第 8 回	日本企業と「文化」　その2 日本的経営について映像をみながら理解を深めよう。
第 9 回	「文化」で企業を比べてみよう　その1 「文化」で企業を見ることができるか、映像を使って確かめてみよう。
第10回	「文化」で企業を比べてみよう　その2 「文化」で企業を比べることができるか、映像を使って確かめてみよう。
第11回	振り返り（中間）：授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。 これまでの授業で何を知り、何ができるようになり、思えや行動がどう変ったか確かめる。
第12回	「文化」で企業研究　その1 「文化」で企業を研究する方法を学ぶ。
第13回	「文化」で企業研究　その2 「文化」で企業を研究してみる（練習1）。
第14回	「文化」で企業研究　その3 「文化」で企業を研究してみる（練習2）。
第15回	まとめと振り返り 授業の意図が伝わっていたか、学生・教員間で確かめる。

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約・予想の三つです。

・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学びの成果の確認です。

・予習：前回の授業のポイントを1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。そして、できれば次の授業で教員がどんなことを言うか予想してみてください。

履修上の注意

・電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。合理的理由のない遅刻は成績に反映させます。
・やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
・授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　文化という視点で企業を比較し、企業を理解できるようになる。
2　あらゆる組織で、文化の違いに気づき、理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・成長度（50%）	指導内容を十分に理解し、思考・行動に生かすことができる。	指導内容の大半は理解し、成長している。	指導内容を理解できていないところがややある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（50%）	意欲的に受講し、全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講して、全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に参加している。	意欲的に参加しているとは言えない。	意欲が見られない

評価方法

・学期末試験（50%）:「理解・成長度」に対応します。
試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：考察を求めたときなど、どれだけ意欲的に取り組んでいるかを重要視します。

テキスト

教科書はありません。教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分できちんと確実に実行してください。

環境論　～人と自然とのつながりを考える～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

講義前半は、自然科学・社会科学的な視点から「生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体)」とは何かについて考えます。後半は、動物園動物や身近なペットを題材に、「生命のつながり」について法的倫理的な問題を扱います。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考える、②物事を批判的に見る目を持つ、③常に弱者へ配慮を忘れないようにする、④科学の限界を知る、の４つの視座から分析・検証を行なうことができる問題設定をし，講義を行います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	野生動物への餌づけ 野生動物へ餌をあげることによる影響
第 3 回	野生動物の交通事故 野生動物の交通事故の原因と対策
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち１ レッドリスト、レッドデータブックとは何か
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち２ 生物の絶滅原因
第 6 回	動物園の役割と今後 1 動物園は必要？動物園の実態とは？
第 7 回	動物園の役割と今後 2 動物園を評価するための準備と予備知識
第 8 回	動物園の役割と今後 3 動物園評価の方法とその意味
第 9 回	動物園の役割と今後 4 動物園評価の発表
第 10 回	動物園の役割と今後 5 動物園の将来像
第 11 回	ペットと私たちの生活１ 身近なペット、イヌ・ネコ
第 12 回	ペットと私たちの生活２ 外来生物が引き起こす問題、輸入規制対象となる飼育動物
第 13 回	ペットと私たちの生活３ 飼育動物に関する法律
第 14 回	ペットと私たちの生活４ ペット産業の実態
第 15 回	ペットと私たちの生活５ イヌ・ネコの命を救う活動

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をします。
・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

可能な限り前期の「自然科学」を履修するようにしてください。本講義は、受講生にとって興味深いであろうとっておきの問題の題材ばかりを集め、また、受講生の人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意しています。魅力的な講義ができるよう最大限の努力をしていますので、楽しみにしておいてください。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

「環境問題」について、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する「多面的視点」を養うことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30 の物語』
・著者名：小島望
・出版社名：農山漁村文化協会出版
・出版年：2010 年

経営学　～経営学の基礎を学ぶ～

吉沢　正広

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経営学総論という科目にはいくつかの特徴があります。第1番としては，経営学についての基本的な内容について理解を得ることです。経営学という学問は多くの研究対象があり，それらについて大学で初めて経営学を学ぶ学生に対して全体像が把握できるような学習を進めます

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の進め方，期末試験，テキストなどについて説明する
第 2 回	株式会社のシステムについて理解する。会社機関とは何かなどを確認する
第 3 回	経営資源とは何かについて理解する。会社を動かす原動力を確認する
第 4 回	マネジメント理論を理解する―テイラーの科学的管理法とは何か？
第 5 回	マーケティングについて知る－基礎的な知識を得る
第 6 回	経営戦略についてその概要を知る。現代企業運営に不可欠な戦略とは何か。
第 7 回	経営戦略について知る―事業戦略の概略を理解する。
第 8 回	組織とは何か―その基本形を理解する。
第 9 回	職能制組織とは何かを理解する。
第10回	事業部制組織とは何かを理解する
第11回	日本企業におけるこれまでの働き方を知る―人的資源管理とは何か？
第12回	日本的経営とは何か－歴史的視点を含め理解する。
第13回	コーポレートガバナンス（企業統治）とは何か，その概要を知る
第14回	企業におけるマネジメント階層について理解する。
第15回	全体のまとめと期末レポートの作成を行う。

予習・復習

・予習：所定のテキストの該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと

・復習：授業で学んだことも含め，どのような内容であったかを思い起こしテキストを利用して確認すること

履修上の注意

1．この科目は経済学，社会学などの研究成果を取り入れているため，そうした関連科目を履修していることが望まし
2．大学生のスタンスとして，教科書を準備する，授業中の周囲に迷惑となる私語はしない，など社会へ出るための準備をしてください
3．授業開始時間に間に合うよう余裕をもって登校してください

到 達 目 標

1．企業や会社は経営能力が必要とされている。組織の経営に課する基礎的事項を理解できるようになる。
2．会社や企業で要求される基礎的経営知識を身に付けると共に，行動案を立案できるようになる。
3．自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（60　%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力（レポート）（40　%）	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが，説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

1．期中に課すレポート　40%（適す津の内容に基づき出題する）
2．期末レポート　60%（15 回目の授業時に授業の振り返りの後実施し，終了時間内に回収する）

テキスト

・教科書名：『やさしく学ぶ経営学』
・著 者 名：吉沢正広編著
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：9784762025259

民法　～ビジネス実務法務検定３級合格をめざして～

長　　友昭

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

最近話題になった実際の事件などを通して、生活の基本ルールである民法をできるだけ法律用語は使わずに説明する。また、グローバル化と法の視点から、映像資料や新聞記事なども紹介する。知識定着と検定試験合格のために、授業の最後に練習問題を解くことで、法的知識を身に着けられるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス・民法の基本原理…権利とは何か、法律の分類
第 2 回	民法の主人公とその役割…権利能力、意思能力、行為能力、法人、代理
第 3 回	法人の役割…社団法人・財団法人・ＮＰＯ法人など
第 4 回	契約の種類と役割①…売買契約の成立、契約の効力、契約の法的保護
第 5 回	契約の種類と役割②…賃貸借契約、借地借家法、請負・委任・寄託など
第 6 回	弁済と法…弁済とは、手形・小切手と電子マネー・クレジットカードなど
第 7 回	不法行為・事務管理・不当利得…予想外の出来事と法、誰が責任をとるのか
第 8 回	財産に関する法…物権と債権、各種の財産権、財産権の移転、不動産登記
第 9 回	権利の確保…担保の性質、抵当権・質権、保証・連帯保証、債権回収と強制手続き
第 10 回	民法の広がり①…消費者保護の法、クーリングオフ、個人情報保護法
第 11 回	民法の広がり②…労働と法、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業法
第 12 回	家族と法…家族の法的意味、夫婦間の財産関係、法定相続、遺言・遺産分割など
第 13 回	民法とグローバル化①…日本の土地は誰のものか、モノの国際的取引、法的保護
第 14 回	民法とグローバル化②…国際結婚・離婚、家族・親せきの範囲、子どもの権利など
第 15 回	全体のまとめ…今ある民法とこれからの民法、民法改正、私たちの民法へ

予習・復習

・予習：授業の進行予定を初回授業時に配付するので、次回扱う内容のキーワードを予め後掲の教科書で調べておくこと。
・復習：各回の授業の最後に確認テストを解いてもらうので、確認テストの解答解説をよく読んで、授業内容をふりかえり、知識を実際に使えるものとして定着させておくこと。

履修上の注意

教科書は、講義中や毎回の小テストにおいて頻繁に使うので、毎回持参すること。授業内では実際の裁判について学生の意見を求めて対話を行う。授業中の質問は大歓迎だが、私語は別である。私語・遅刻などをする学生には教室および成績評価において厳しく対処する。

到 達 目 標

・ビジネス実務法務検定３級に合格できる法的知識を身につける。
・法律問題に直面した時に、自分で解決できるか、関係機関や専門家に相談するべきかを判断できる法的判断能力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
法的知識（70%）	民法およびビジネスに関する各種の法制度を正確に理解している。	民法およびビジネスに関する各種の法制度をおおむね理解している。	民法上の制度をおおむね理解している。	民法上の制度をある程度理解している。	民法上の制度がほとんど理解できていない。
法的判断応力（30%）	法的問題について、法律や判例に基づいた正確な判断ができる。	法的問題について、法律に基づいて判断ができる。	法的問題について、内容を理解し、どこに法的問題があるかが分かる。	法的問題について、内容は理解しているが、何が法的問題かは分からない。	法的問題の理解ができていない。

評価方法

・定期試験 70%、中間テスト・各回テスト 30%。

テキスト

①菅谷貴子＝厚井久弥編著『法務教科書 ビジネス実務法務検定試験(R)3 級テキストいらずの問題集 2023 年版』（翔泳社）2023 年
②國谷知史ほか編『確認中国法用語 250』（成文堂）2011 年
＊①②の 2 冊とも使用します。

心理学　～心のはたらきを理解する～	伊澤　利文

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、まず人間の「心」についての基礎を学んでゆきます。生物としての人間という視点から心理学の基礎的な知識を習得します。次に、他の動物にはみられない人間心理の特徴的な部分についての学習に進みます。最終的に、みなさん自身を含めた「人間」という存在を理解することを目指します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、および心理学の歴史　－　心への関心はいつ生まれたのか？　－
第 2 回	「心」はどこにあるのか？　－　脳の構造と人間心理との関係　－
第 3 回	知覚　－　感覚を使った世界とのつながり方を知る　－
第 4 回	学習　－　新しいことが「出来るようになる」メカニズムについて　－
第 5 回	記憶　－　新しいことを「覚える（覚えておく）」メカニズムについて　－
第 6 回	感情　－　自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について　－
第 7 回	注意　－　自分の周りの何かに「気づく」メカニズムについて　―
第 8 回	ストレス　－　ストレスの種類と心身への影響について　－
第 9 回	発達　－　人間が「成長する」メカニズムについて　－
第 10 回	言語　－「会話」し「理解する」仕組みについて　－
第 11 回	思考　－　人間が手に入れた「考える」メカニズムについて　－
第 12 回	意識　－「意識がある」とは心理学的にどのような状態なのか？　－
第 13 回	パーソナリティ　－　性格を科学的に捉えるテクニックについて　－
第 14 回	社会心理　－　社会生活における「情報処理」と「他者」の役割について　－
第 15 回	睡眠と夢　－　人間の「眠り」と「夢」のメカニズムについて　－

1

予習・復習

・予習：各回の授業テーマに関連する予備知識をつけておく（ネットなどで）。

・復習：スマホなどで撮影した画像から、授業ノートを分かりやすく清書する。

履修上の注意

授業には積極的な態度で望み、心と身体の基本的なメカニズムを理解するよう努めること。
なお、この授業では「遅刻２回で欠席１回」の扱いとしますので注意するように。

到 達 目 標

・科学的な視点から心理学の基礎を学ぶ。
・科学的な視点から世界を眺め、必要な場合には状況を分析して対処できるようになる。
・この授業で得られた心理学の知識を、今後の生活の様々な場面に活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０％）	－	授業内容をほぼ理解できている。	授業内容の理解が多少不足している。	授業内容を大まかにではあるが理解している。	出席不足などから授業内容を理解していない。
関心度（　２５％）	授業内容を越えた領域まで興味を示している。	授業に大きな関心を持って臨んでいる。	授業内容への好奇心が多少不足している。	授業内容への関心があまり持てていない。	授業内容にほぼ関心がなく出席しているだけである。
発信力（　２５％）	自分の疑問点を分かりやすく簡略に質問できる。	教員からの質問に対して自分の考えを口頭で表現できる。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できる（挙手）。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できない。	

評価方法

定期テスト　：　７０％
発表　：　２０％
受講態度　：　１０％

テキスト

使用しません。資料が必要な場合に、適宜プリントを配付します。

メンタルケア　～こころの健康の維持とは～

蓮井千恵子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

メンタルヘルスとは心理、精神的な健康を意味する。心理、精神的な健康さとその健康さを損なうもの、ことについての理解を目的とした講義を行う。こころの健康は自分一人で維持することは困難であるという理解を促すことを目的としている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　講義の内容の説明とスケジュールの確認　メンタルヘルスの意味を理解する。
第 2 回	こころの健康と異常 I
第 3 回	こころの健康と異常 II
第 4 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 I
第 5 回	こころに問題を抱えた人に対する援助 II
第 6 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 I　自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 7 回	精神障害（を有する人）に対する偏見 II　自分がどんな偏見を持っているか、いないか理解しよう。他者の意見を聞いてみよう。
第 8 回	家族心理療法 I　健康な家族とはどういうものだろうか。
第 9 回	家族心理療法 II　家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第 10 回	家族心理療法 III　家族成員の一人の変化は家族全体の健康を取り戻すことに役立つだろうか。
第 11 回	心理療法・精神科治療の効果 I　心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことがわかっており、これからの課題は何かを理解する。
第 12 回	心理療法・精神科治療の効果 II　心理臨床の効果に関する研究を紹介し、効果と限界について説明する。現在どのようなことがわかっており、これからの課題は何かを理解する。
第 13 回	心理療法の失敗とは？
第 14 回	メンタルをケアするための様々なアプローチ
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に関連図書を紹介する。また次の回にレジュメを配付することがあるので、必ず読んでくること。

・復習：講義中に関連図書を紹介する。

履修上の注意

他者と交流することから学ぶことが重要な講義となっている。そのため講義ではグループワークを行う。グループディスカッションでは、積極的な参加を必要とする。ただし学年が異なるなどの場合は、作業を一人で行うことは差し支えない。その場合は、教室全体で共有する際、積極的に発表してほしい。遅刻は４回で１回欠席となる。

到 達 目 標

１）こころの異常と健康について説明することができる。２）こころの健康を損なうもの、ことについて説明することができる。３）こころの健康を維持するため何が必要か学ぶ。４）他者の意見を聞き、自分のコミュニケーション能力を現状より高めることを目的とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとける。	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力（レポート）（20%）	他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験　50 %　　小テスト 30%　レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配付する。

臨床心理学　～心理臨床を体験してみよう～

蓮井千恵子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

臨床心理学は何のために発展し、何を学ぶのかということについて講義を行う。皆さん自身の体験を通して、自他の体験について考えることを学ぶ。他者の意見を聞き、様々な意見があることを理解し、そこから自分の考えをまとめ、それをさらに他者に伝え、共有することを重要視した講義となっている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　講義の内容の説明とスケジュールの確認　臨床心理学を学ぶ意味について理解する。
第 2 回	精神医学と臨床心理学の違いについてⅠ　双方は重なる面もあるが、異なる面も存在する。それらの相違について理解する。
第 3 回	精神医学と臨床心理学の違いについてⅡ　事例を通して、双方の違いを理解する。
第 4 回	臨床心理学の実際Ⅰ　自分を理解する一環として、質問紙による心理検査を実際に行ってみる。
第 5 回	臨床心理学における心理査定の意義　心理臨床においては心理査定（心理検査）が用いられるが、検査の目的や様々な検査について紹介し、それらの違いについて理解する。
第 6 回	臨床心理学の実際Ⅱ　心理療法場面の DVD を見て、グループディスカッションを行い、自分たちの意見を発表する。自分の感覚に基づき、自分の意見を持ち、他者に伝えることを学ぶ。
第 7 回	臨床心理学の実際Ⅲ　個人心理療法の目的について理解する。
第 8 回	臨床心理学における観察の意義　心理臨床において観察は非常に重要である。実際に観察してみよう。観察レポート提出
第 9 回	子どもの心理療法Ⅰ　子どもの心理療法事例を読み、大人との違いを理解する。
第 10 回	子どもの心理療法Ⅱ　子供の心理療法の目的について理解する。
第 11 回	恋愛に関する心理学Ⅰ　恋愛に関する簡単な研究結果を読み、クリティカルシンキングについて学ぶ。
第 12 回	恋愛に関する心理学 Ⅱ　恋愛に関する簡単な研究結果を読み、クリティカルシンキングについて学ぶ。
第 13 回	恋愛に関する心理学Ⅲ　臨床心理学的視点から恋愛について考える。
第 14 回	アウトサイダーアート
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：講義中に関連図書を紹介する。また次の回にレジュメを配付することがあるので、必ず読んでくること。

・復習：講義中に関連図書を紹介する。

履修上の注意

臨床心理学は実践学問である為、体験することを通して学ぶことを重要視する。講義中はグループワークを行うので、グループでのディスカッションに積極的な参加を必要とする。ただし、学年等が異なる場合、作業を一人でおこなってもさしつかえない。その場合は、その旨はっきりと伝えることが必要である。遅刻は4回で1回欠席となる。

到 達 目 標

1）臨床心理学は、何のために発展してきたか説明できること、2）臨床心理学において自分を理解することの意味とその重要性を説明できること、3）心理、精神的に実際に自分が困った時、どのように対処すればよいか説明できること、4）他者の意見を聞くことができ、自分の意見をまとめられることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
読解力・要約力（50%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	読んで正しく理解し、期待される課題をとけること	参考書や教科書を参考にすれば、課題をとくができる。	他人のアドバイスがあれば課題の理解ができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
文章で説明する力（レポート）（20%）	他人を説得する内容が記述できることができる	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

定期試験　50 %　小テスト 30%　レポート 20%

テキスト

適宜レジュメを配付する。